

令和2年度

学 生 便 覧

大阪大学大学院理学研究科

令和2年度 理学研究科行事予定表

		月	日(曜)	学 務 事 項
春 夏 学期	春 学期	4	1(水)	春～夏学期(通年科目を含む)履修登録開始(4/1～4/22)
			2(木)	入学式 博士論文題目届提出期限(6月審査分)
			6(月)	大学院新入生オリエンテーション(於:理学研究科)
			9(木)	春～夏学期(～9/30)、春学期(～6/10)授業開始
			中旬	学生定期健康診断(豊中地区学生)
			下旬	学生定期健康診断(吹田地区学生)
			23(木)	履修取消期間(～4/30)
	5	1(金)	いちよう祭準備、大阪大学創立記念日	
		2(土)	いちよう祭	
		3(日)	いちよう祭	
		11(月)	課程博士学位申請書類提出期限(6月審査分)	
	6	4(木)	試験実施期間(～6/10)春学期開講科目	
		10(水)	春学期授業終了	
		11(木)	夏学期(～9/30)授業開始、夏学期履修登録開始(～6/17)	
	夏 学期	6	24(水)	博士論文題目届提出期限(9月審査分)
			25(木)	履修取消期間(～7/1)
			3(月)	試験実施期間 春～夏学期、夏学期開講科目(～8/7)
		8	3(月)	課程博士学位申請書類提出期限(9月審査分)
			7(金)	春～夏学期、夏学期授業終了
			8(土)	夏季休業(～9/30)
			17(木)	秋～冬学期(秋入学通年科目を含む)履修登録開始(～10/14)
9	25(金)	学位記授与式		
	30(水)	夏季休業終了		
秋 冬 学期	秋 学期	10	1(木)	秋～冬学期(～3/31)、秋学期(～12/1)授業開始
			2(金)	博士論文題目届提出期限(12月審査分)
			15(木)	履修取消期間(～10/21)
		11	9(月)	課程博士学位申請書類提出期限(12月審査分)
			19(木)	大学祭準備(授業休業)
			20(金)～22(日)	大学祭(授業休業)
	冬 学期	12	23(月)	大学祭片付け
			25(水)	試験実施期間 秋学期開講科目(～12/1)
			1(火)	秋学期授業終了
		1	2(水)	冬学期授業開始(～3/31)、冬学期履修登録開始(～12/8)
			16(水)	履修取消期間(～12/22)
	2	26(土)	冬季休業(～1/3)	
		4(月)	授業再開	
		5(火)	博士論文題目届提出期限(3月審査分)	
		27(水)	試験実施期間 秋～冬学期、冬学期開講科目(1/27～28,2/2,4～5)	
		3	1(月)・2(火)	博士前期・後期課程修了予定者の学位論文・研究概要報告書受付
			5(金)	秋～冬学期、冬学期授業終了
		3	下旬	春季入学者研究概要報告書受付(博士前期・後期課程修了予定者を除く)
	12(金)		修士・博士課程修了者発表	
			24(水)	修士・博士学位記授与式(大阪城ホール)

注1 大学入学共通テストおよび大阪大学前期日程入学試験の際には、その準備および実施のため、理学部棟への入館が制限されます。

注2 上記日程等は変更されることがあります。変更が生じる場合はKOAN掲示などでお知らせします。

令和2年度 理学研究科 学年暦

○数字は授業回数を示す

太字：ターム科目、その他：セメスター科目

月/曜日	日	月	火	水	木	金	土
2020年				1	2	3	4
4月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	4/30は水曜日の振替授業実施日	
5月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
6月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
8月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
9月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

月/曜日	日	月	火	水	木	金	土
10月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
2021年							
1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	2/4は月曜日の振替試験実施日					
2月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28						
3月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

は、土・日・祝日及び休業日又は授業を行わない日を示す（太字は祝日）。

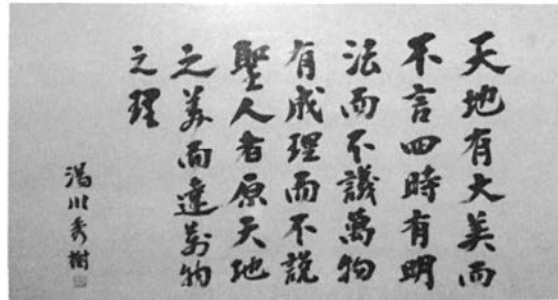
は、大行行事又は学部入試準備のため臨時に授業を行わない日（予定）を示す。



上の写真の書

勿嘗糟粕 甲戌夏日 樂 水

は理学研究科本館大講義室（D501）に掲げられている額です。樂水とは、有名な物理学者で、第1回文化勲章を受章された本学初代総長 長岡半太郎先生の雅号です。甲戌は昭和9年に当たり、この年の4月に大阪市内の中之島に理学部の旧建物が竣工しています。「勿嘗糟粕」は糟粕を嘗る勿れと読みます。辞書によると、糟粕とは酒のしぼりかすで、転じて、「滋味をとりさった不用物、精神のない遺物」とあり、また、糟粕をなめるとは、「作った人の精神を汲みとらず、形だけまねることをするな」と解説しています。従って、この書は科学を志す者にとって貴重な教訓といえましょう。



上の写真の書

天地有大美而不言 四時有明法而不議
萬物有成理而不說 聖人者原天地之美
而達萬物之理

は理学研究科長室に掲げられている額で、湯川秀樹先生の筆になるものです。この句の出典は「莊子」で、その最終編第4節の冒頭に出ているもので、「天地は大美有れども、而も言わず。四時は明法有れども、而も議せず。萬物は成理有れども、而も説かず。聖人は天地の美を原(たづ)ねて萬物の理に達す」と読みます。本学名誉教授森三樹三郎先生は次のように訳されました。「天地は萬物を生育するという、すぐれた働きをもちながらも、それを口に出して語る事ができない。春夏秋冬の四時は、明らかな法則をそなえながらも、みずからこれを論じたてることができない。萬物はそれぞれに完成した理をそなえながらも、みずからこれを説くことはない。聖人とは、この天地のすぐれた働きのありかたをたづね、萬物の理に達した人間のことをいうのである」。

また、James Legge 氏により次のように英訳されています。

(The operations of)Heaven and Earth proceed in the most admirable way, but they say nothing about them; the four seasons observe the clearest laws, but they do not discuss them; all things have their complete and distinctive constitutions, but they say nothing about them. The sages trace out the admirable operations of Heaven and Earth. and reach to and understand the distinctive constitutions of all things ..

(F. M. Muller; The Sacred Books of the East, vol. 40, 1891 より)

目 次

1. 大阪大学大学院理学研究科の沿革	1
2. 学生心得（学生としての生活について）	2
3. 教育職員免許状取得について	5
4. 理学研究科教育プログラム	6
1) 履修方法等	6
2) 履修手続きの流れ	13
3) シラバスについて	13
4) 集中講義について	13
5) 「高度博士人材養成プログラム」について	14
6) 「大学院オーナー特別コース」について	16
7) 横断型教育・博士課程リーディングプログラム、理工情報系オーナー大学院プログラム および先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムについて	17
8) STEP10	19
9) 高度理系教員養成プログラム（aSTEP）	19
10) 奈良女子大学大学院人間文化研究科、兵庫県立大学大学院生命理学研究科及び 大阪府立大学大学院理学系研究科との交流の取扱いについて	20
11) 長期履修学生制度	21
12) 国際交流・留学	21
13) 学位論文に係る評価に当たっての基準について	22
14) 修士論文及び博士論文提出に関する申請手続概要について	24
5. 授業料の免除及び奨学金	25
1) 入学料免除・授業料免除等について	25
2) 日本学生支援機構奨学金（外国人留学生を除く）について〈貸与型〉	26
3) 地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について	27
6. 健康及び災害傷害保険関係	29
1) 健康診断	29
2) キャンパスライフ健康支援センター「診察・健康相談」	29
3) 学生教育研究災害傷害保険について	30
7. 学生相談	33
1) 学生相談員（理学部・理学研究科）	33
2) なんでも相談室（理学部・理学研究科）	34
3) キャンパスライフ支援室（CLS室）	34
4) 就職担当教員（理学部・理学研究科）	35
5) キャリア支援室（理学部・理学研究科）	35
6) 留学生相談室（理学部・理学研究科）	35
7) ハラスメント相談員（理学部・理学研究科）	36
8) 学生相談室（全学）	37
9) キャンパスライフ健康支援センター相談支援部門（全学）	37
10) ハラスメント関連相談室（全学）	38
8. 理学研究科建物への入館	39
9. 理学研究科情報資料室	40
10. 理学研究科ホームページ	41
11. 修学上の注意	41
1) 気象警報発表時等における授業の取扱いについて	41
2) 不正行為を行った場合の取り扱いについて	42
12. 海外渡航届システム	43
付 録	
大阪大学学部学則	44
大阪大学大学院学則	55
大阪大学大学院理学研究科規程	68
大阪大学学位規程	96
大学院理学研究科授業担当等教員名簿	99
理学研究科・理学部 建物配置図	112
講義室等案内図	113

1. 大阪大学大学院理学研究科の沿革

本研究科は、1933年から旧制大学院学生を受け入れ、その教育・研究を開始した。1943年からは大学院特別研究生の受け入れも行い、1961年までに総計361名の大学院学生を教育し、旧制大学院の使命を果たした。1953年に、新学制による理学研究科が、数学系1、物理学系3、化学系2および生物学系2の計8専攻の構成で発足した。その後1963年に高分子学専攻が増設され、1966年に物理学系3専攻が物理学専攻に統合され、また1995年には宇宙地球科学専攻が新設された。さらに1996年から大学院重点化により、理学研究科は数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物科学専攻、高分子科学専攻、宇宙地球科学専攻の6専攻に再編成された。

本研究科の講義及び研究指導は、理学研究科の教員のほか、放射線科学基盤機構、全学教育推進機構、社学共創本部、安全衛生管理部、情報科学研究科、生命機能研究科、微生物病研究所、産業科学研究所、蛋白質研究所、レーザー科学研究所、核物理研究センター、サイバーメディアセンターなどに所属する教員によって行われている。また、連携併任枠を使って、国立研究開発法人産業技術総合研究所、株式会社ペプチド研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社JT生命誌研究館など、学外の研究機関からの、本研究科の研究と教育への参画も行われている。なお、大学院重点化に伴い、前期（修士）課程及び後期（博士）課程の入学定員は、それぞれ117名、59名から288名、140名へと大幅に増員されたが、2002年に生命機能研究科及び情報科学研究科が新設されたことにより、前期課程は258名、後期課程は126名と入学定員の改定が行われ、その後、2007年の大阪外国語大学との統合により、前期課程の入学定員は266名となった。

最近の科学の急速な発展に柔軟に対応しうる優秀な人材を育成するために、1989年に学校教育法施行規則が改正され、学部3年次から大学院に進学できる、いわゆる「飛び級」の受験が認められるようになった。本研究科は、これを直ちに実施し、1991年度に2名を合格させた。これは全国で初めてのことである。その後、2019年度までに36名の学生が3年次から大学院に進学している。

なお、2019年3月現在で新制度の理学修士の学位取得者は9,669名、理学博士の学位取得者は3,681名（うち、課程博士2,865名、論文博士816名）である。また、旧制度の理学博士の学位取得者は621名で、この中には湯川秀樹博士も含まれている。

付 表（2020年度）

		理 学 研 究 科						
専 攻		数 学	物 理 学	化 学	生物科学	高分子科学	宇宙地球科学	計
入 学 定 員	前 期	32	68	60	54	24	28	266
	後 期	16	33	30	23	11	13	126

2. 学生心得（学生としての生活について）

大学院生の諸手続きに関する窓口は、理学研究科大学院係で行います。

また、学生の修学上必要な事項についての通知は、原則として掲示により行います。理学研究科A棟1階通用口横の掲示板、および学務情報システム（KOAN）の掲示板を確認するよう心がけてください。

また、学生生活全般については、大阪大学ホームページの「学生生活」を参照してください。

1-1. 願について

提出先 大学院係

提出書類	摘要
在学期間延長願	提出時期：修了時期の2ヶ月前 ----- 博士後期課程在学3年以上5年未満の者で、かつ6月または12月修了を予定している場合は提出してください。
在学年限延長願	提出時期：在学年限満了の2ヶ月前 ----- 博士後期課程在学年限（5年）を越える者で、特別の事情がある場合は在学年限の延長が認められる場合があります。
留 学 願	提出時期：1ヶ月前（但し年度末は2ヶ月前） ----- 留学しようとする場合は、研究科長の許可を得て留学することができます。
休 学 願	提出時期：1ヶ月前（但し年度末は2ヶ月前） ----- 病気その他の理由により3ヶ月以上修学を中断しようとする場合は、研究科長の許可を得て、その学年の終わりまで休学することができます。 (1) 休学期間は在学年数には算入されませんが、学年は進行します。 (2) 許可された休学期間が学期の途中からである場合は、原則その学期または学年に開講している授業科目を履修することは認められません。 (3) 前期課程においては通算2年、後期課程においては通算3年の期間を越えて休学することはできません。 (4) 休学する場合の授業料の取り扱いについて、3月までに前期（4～9月）の休学を許可された場合又は9月までに後期（10月～3月）の休学を許可された場合は、免除されます。学期の途中から願い出て休学する場合は、大学院係に詳細を確認してください。
復 学 願	提出時期：1ヶ月前（但し年度末は2ヶ月前） ----- 休学の理由が解消し履修を再開しようとする場合は、研究科長の許可を得て復学することができます。ただし、病気等で医師の診断書に基づく休学を許可された者は「医師の診断書」を添えて願い出てください。 学期の途中で復学した場合は、原則その学期または学年に開講している授業科目を履修することは認められません。

2-2. 証明書自動発行機について

発行できる証明書	設置場所等
1. 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証） 1日3枚まで、年10枚を限度に発行できます。 事情により年10枚を超えて必要となる場合は、 大学院係へ申し出てください。 （有効期限：発行日から3ヶ月） 2. 在学証明書 3. 成績証明書 4. 修了見込証明書（※1） 5. 健康診断証明書（※2）	豊中地区 豊中学生センター（2台） 全学教育管理・講義A棟
	吹田地区 吹田学生センター1階 医学部医学科共通棟1階 工学部管理棟1階（2台）
	箕面地区 外国語学部研究・講義棟A棟

※1 修了見込証明書は、前期課程は2年次から、後期課程は博士論文題目届提出から2～4週間後から発行できます。

※2 健康診断証明書は、定期健康診断受検者のみ発行可能です。また、受検状況等によっては証明書自動発行機で発行できない場合があります。その場合はキャンパスライフ健康支援センターにお問い合わせください。

2-3. 学生証の再交付について

交付事務 学生センター

種類	摘要
学生証の再交付	学生証を紛失・破損等したときは、豊中・吹田学生センターで再交付手続きをしてください。 なお、理学研究科建物への入館システムを利用するには、再交付後、理学研究科庶務係に申し出てください。

3. 教育職員免許状取得について

- (1) 大学を除く全ての国公立学校の教育職員（常勤、非常勤を問いません）になるためには、それぞれの校種・教科に応じた教育職員免許状を有する必要があります。
- (2) 大学院理学研究科は、中学校教諭、高等学校教諭の専修免許状「数学」「理科」を取得できる課程として認定されています。また、理学部は、中学校教諭、高等学校教諭の一種免許状「数学」「理科」を取得できる課程として認定されています。
- (3) 2020年4月6日（月）に教職課程ガイダンスが行われます。教職課程ガイダンスは、翌年以降も同じ時期に開催される予定です。詳細はKOANの掲示板を参照してください。
- (4) 教育職員免許状の取得についての詳細は、大阪大学教育課程委員会が作成する「**大阪大学【教職課程ブックレット】1 教職課程への招待 教育職員免許状取得ガイド**」（以下「ブックレット」とします）をご覧ください。このブックレットは、上記の教職課程ガイダンスで配布するほか、理学研究科学務係でも入手可能です。
- (5) 専修免許状を取得するために必要な「教職課程 大学が独自に設定する科目表」は、理学研究科学務係で配布します。なお、専修免許状を取得するためには、同表により必要な単位を修得するだけでなく、一種免許状の取得要件を満たしている必要があります。詳細は、上記の教職課程ガイダンス及びブックレットで確認してください。

[注] 教職課程に関する連絡事項はKOANの掲示板に掲載されます。見逃すことのないように注意してください。

4. 理学研究科教育プログラム

1) 履修方法等

(A) 履修方法

1. 履修方法については「(B) 各専攻履修上の注意」を熟読してください

2. 博士前期課程

- a. 「専門教育科目」、「高度教養教育科目」、「高度国際性涵養教育科目」の3つの科目群より単位の修得が必要です。各科目群の必要単位数は、下記表および「(B) 各専攻履修上の注意」を確認してください。

博士前期課程修了要件単位数

	数学	物理学	化学	生物科学	高分子科学	宇宙地球科学
専門教育科目	28	30	30	28	32	19
高度教養教育科目	1	1	1	1	1	1
高度国際性涵養教育科目	1	1	1	1	1	2
自由選択	0	0	0	2	0	8
合計(単位)	30	32	32	32	34	30

各科目群の構成科目は以下のとおりです。

- (1) 専門教育科目は次の科目により構成されます。
- (ア) 自専攻の専門教育科目
 - (イ) 研究科共通科目のうち専門教育科目として開講される科目
- (2) 高度教養教育科目は次の科目により構成されます。
- (ア) 研究科共通科目のうち高度教養教育科目として開講される科目
 - (イ) 他専攻の専門教育科目
 - (ウ) 他研究科の専門教育科目・コミュニケーションデザイン科目・COデザイン科目・全学教育推進機構が開講する学際融合教育科目・博士課程教育リーディングプログラム科目のうち高度教養教育科目として開講される科目
- (3) 高度国際性涵養教育科目は次の科目により構成されます。
- (ア) 自専攻の高度国際性涵養教育科目
 - (イ) 研究科共通科目のうち高度国際性涵養教育科目として開講される科目
 - (ウ) 他専攻の高度国際性涵養教育科目
 - (エ) 他研究科の高度国際性涵養教育科目・マルチリンガル教育科目・グローバルイニシアティブ科目・博士課程教育リーディングプログラム科目のうち高度国際性涵養教育科目として開講される科目
- * 自専攻専門教育科目のうち、高度国際性涵養教育科目にも該当する科目の単位を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として認定されます。ただし、高度国際性涵養教育科目の修了要件単位数が満たされている場合は、専門教育科目の単位として認定されます。

- * 他専攻または他研究科の専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目の性質も有する科目として位置づけられている科目の単位を修得した場合は、高度教養教育科目の単位として認定されます。
- b. 上記の科目のうち、(2)(ウ)または(3)(エ)に属する科目を履修する場合は、指導教員の許可を必要とします。履修登録前に指導教員と相談した後に、「履修登録確認表」にある該当科目に指導教員の押印が必要です。
- c. 数学・生物科学・高分子科学専攻の博士前期課程の学生が、自専攻の博士後期課程配当科目を履修し、修了要件単位として認定を受ける場合も、指導教員の許可を必要とします。上記 b. に準拠した手続きを行ってください。ただし、物理学、化学、宇宙地球科学専攻については不要です。
- d. 生物科学専攻および宇宙地球科学専攻の自由選択は、専門教育科目、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目のすべての科目が対象となります。また、生物科学専攻では、科学技術論 A・Bの修了要件単位としての認定は合計で2単位を限度とします。科学技術論 A・Bの単位を3単位以上修得しても、高度教養教育科目および自由選択の修了要件単位として認められるのは2単位までです。

3. 博士後期課程

- a. 修了要件については、「(B)各専攻履修上の注意」を確認してください。
- b. 他研究科の科目、または本学の研究科を横断して開設されるプログラム(基礎理学計測学、ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育訓練プログラム、COデザインセンター、数理・データ科学教育研究センター等)の科目を履修する場合は、指導教員の許可を必要とします。履修登録前に指導教員と相談した後に、「履修登録確認表」にある該当科目に指導教員の押印が必要です。なお、理学研究科が実施部局となる大学院等高度副プログラムに関する科目には、開講科目表の備考欄に印を付しています(◆:基礎理学計測学)。また、理学研究科で開設するナノ教育訓練プログラムに関する科目には、開講科目表の備考欄にナノ教育プログラムと記入してあります。

(B) 各専攻履修上の注意

1. 数学専攻

A. 前期課程

- a. 前期課程においては、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、専門教育科目からセミナー科目18単位と講義科目10単位以上、合計30単位以上の修得を要します。
- b. 慶應義塾大学工学部の教員による集中講義形式の授業があります。(詳細についてはシラバスを参照してください)
- c. セミナーは、1年次の基礎セミナー(9単位)、および2年次のセミナー(9単位)を必修とします。
- d. その年度に履修する科目について、所定の期日までにWebにて履修登録をしなければなりません。
- e. 各年度の終わりに、「研究概要報告書」を所定の期日までに、指導教員の押印をもらって提出

しなければなりません。

f. 指導教員は4月に、学生の希望もできるだけ取り入れて決定されます。指導教員は修了まで変更されません。ただし、特別な事情がある場合はこの限りではありません。

g. 修了に当たっては、修士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。

修士論文は次のいずれかの要件を満たすものとします。

1. 論文筆者により得られた新しい数学的結果を含むもの
2. 数学的に意義のある計算結果（計算機実験も含む）や定理の新しい証明などで、論文筆者自身による部分を含むもの
3. ある分野において既に知られている重要な数学的事実について、論文筆者自身の観点からまとめたもの

* 修士論文には、標題、序文、本文、文献表が必要です。

標題としては、論文内容を最も適切に表すものを選んでください。

序文は、本文の内容を簡潔にまとめ、諸結果が、論文筆者によって得られたものであるか否かという点についても明確に書いてください。

本文は、適当に章や節に分け、できるだけ省略せず丁寧に書いてください。特に、独自に得られた結果については、細部まで省略せず書くことが望まれます。

文献表には、論文のもとになった研究において、あるいは論文執筆に当たって、参考にした文献の中から、特に関係の深いものや重要なものを選んで書いてください。

数学専攻において、これまでに提出された修士論文はすべて製本され、数学教室図書室に保管されていますので、必要に応じて閲覧することができます。

h. 講義について

大学院では、講義を聞いて単位をとることが最終目標ではありません。学生諸君の自発的な学習を促し、研究を開始するきっかけを提供するのが、大学院における講義の主な目的です。このことをしっかりと理解しておかなければなりません。（多くの講義を漠然と聴講することは意味がありません。）

1. 講義には概論と特論があり、概論は主に1年次、特論は主に2年次の学生の履修を念頭においていますが、各人の興味、知識、能力に応じて、2年次で概論を、1年次で特論を履修することは差し支えありません。
2. 講義内容については科目名だけで判断せずに、シラバスを熟読して各自の興味にあったものを選んでください。
3. 集中講義は、多くの場合、現在活発に研究されている分野への入門的講義を短期間で行います。単位にこだわらず、積極的に聴講することを薦めます。個々の集中講義の実施については、理学研究科ホームページおよび学内掲示等で通知します。集中講義は数学特別講義として開講され、それぞれ1単位です。年次は無関係に履修が可能です。

i. セミナーについて

(以下、1年次基礎セミナーと2年次セミナーを総称して単にセミナーと記すことにします。)

セミナーの指導形態は、指導教員により様々ですが、次のような形態をとることが多いと思われます。

指導教員と相談のうえ選んだ文献について、学生が自力で学習してきた内容を週1回、指導教員の前で発表します。そこで指導教員から質問やコメントがなされ学生はこれに適切に応答することが要求されます。

このためには漠然とした内容の理解だけでは不十分で、内容をよく消化し、これを指導教員、

あるいは他の教員に対して十分わかりやすく説明できる程度まで周到な準備をする事が期待されます。学生は原則として、ノートに発表の内容を準備し、できればこれを見ないで発表することが望ましいです。(教科書を見てその場で考えながら発表したりするのは論外です。)したがって、セミナーは自分の考えていることを、他人にわかりやすく説明することの訓練の場です。更に、セミナーの進展状況によっては文献を読むだけでなく、自ら考えたことを発表する場にもなり得ることが期待されます。

2年次の最後に提出する修士論文は、このセミナーにおける学習を土台とし、執筆することになります。したがって、少なくとも2年次のセミナーはこの修士論文の準備と密接に関連しています。

B. 後期課程

- a. 修了までに、特別講義2科目以上、特別セミナー1科目以上を修得しなければなりません。原則として必ず各学年のセミナーを修得してください。
- b. 慶應義塾大学理工学部の教員による集中講義形式の授業があります。(詳細についてはシラバスを参照)
- c. 修了に当たっては、博士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。
- d. 後期課程3年間の主な目的は、博士論文の完成です。この博士論文作成への過程として、(特別)セミナーがあります。その指導形態は前期課程よりもさらに自由度が増え、指導教員によっても一様ではありません。いずれにせよ、定期的に指導教員のもとで文献を読み、与えられた又は自ら設定した研究課題について、各自学習したこと、考えたことを指導教員に発表し、これに対するコメントや指示を受けて、これを再び自身の研究に生かすという繰り返しのようになります。

以上の後期課程の目的から、講義の履修義務は3年間で2科目の特別講義の修得という最低限の条件にとどめられています。しかし、興味ある講義については、単位にとらわれず、集中講義はもちろんのこと、前期課程の講義、他専攻の講義などにも積極的に出席することが望まれます。

2. 物理学専攻

A. 前期課程

- a. 前期課程においては、専門教育科目として、講義12単位以上と、セミナー18単位、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養科目から1単位以上、合計32単位以上を修得しなければなりません。
- b. セミナー(必修、4.5単位)は指導教員が行うものを通算2年間修得してください。同じセミナーを繰り返して修得しても構いません。
- c. 物理学専攻で開講する学部・大学院共通科目(基礎科目)は、修了要件単位に含めることはできません(開講授業科目及び担当教員表の備考欄に「*修了要件外」と明記)。
- d. 後期課程の特別講義各科目を、前期課程学生が履修すれば、専門教育科目の修了要件単位として認められます。
- e. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が1.5年で足りるものとします。その場合の修了要件は、講義16.5単位以上、セミナー13.5単位、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、

合計32単位以上となります。

- f. 理工情報系オナー大学院プログラムの履修生は、最大2単位まで、「理工情報研究室ローテーション (I~IV)」が専門教育科目の修了要件単位として認められます。
- g. 多彩な講師が英語で講義するTopical Seminarの履修を強く勧めます。
- h. 一部の科目は、年度によっては英語で開講されます。英語で開講される年度に単位修得した場合、日本語で開講する年度には履修を認めますが、修了要件単位として認められるのは、いずれかひとつの科目になります。

B. 後期課程

- a. 後期課程において、特別講義2科目以上および特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければなりません。
- b. 多彩な講師が英語で講義するTopical Seminarの履修を強く勧めます。Topical Seminarは特別講義に該当します。

3. 化学専攻

A. 前期課程

- a. 専門教育科目として講義11単位以上と、半期セミナーI (1年次担当、春~夏学期、秋~冬学期をそれぞれ4.5単位) と半期セミナーII (2年次担当、春~夏学期、秋~冬学期をそれぞれ4.5単位) から18単位、インタラクティブセミナーもしくは化学アドバンスト実験から1単位以上、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養科目から1単位以上、合計32単位以上を修得する必要があります。
- b. 半期セミナー (4.5単位) は指導教員が行うものを履修し、18単位を修得する必要があります。同じセミナーを繰り返して履修することを認めます。
- c. 特論 (各1単位) は、集中講義として随時開講されます。
- d. 後期課程の特別講義科目を履修すれば、前期課程学生の専門教育科目の修了要件単位として認めます。
- e. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が1.5年で足りるものとします。その場合の修了要件は、半期セミナーが13.5単位、講義が15.5単位以上、インタラクティブセミナーもしくは化学アドバンスト実験から1単位以上、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養科目から1単位以上、合計32単位以上となります。
- f. 一部の科目は、年度によっては英語で開講されます。英語で開講される年度に単位修得した場合、日本語で開講する年度には履修を認めますが、修了要件単位として認められるのは、いずれかひとつの科目になります。
- g. 理工情報系オナー大学院プログラムの履修生は、最大2単位まで、「理工情報研究室ローテーション (I~IV)」が専門教育科目の修了要件単位として認められます。

B. 後期課程

- a. 特別講義2科目 (2単位) 以上、特別セミナー1科目 (9単位)、インタラクティブ特別セミナー1科目 (1単位)、合計12単位以上を修得する必要があります。原則として毎年特別セミナーを履修してください。

- b. 特別講義は、集中講義として随時開講されます。
- c. 特別講義は、各年度において副題を付して開講し、副題を異にする場合は、それぞれについて所定の単位を付与します。
- d. 課程の途中で、研究進展度調査（中間審査）を行います。

4. 生物科学専攻

A. 前期課程

- a. 修了要件は、専門教育科目 28 単位、高度教養教育科目 1 単位、高度国際性涵養教育科目 1 単位、自由選択 2 単位の合計 32 単位です。
- b. 専門教育科目については、所属研究室において開講される「〇〇学半期セミナー」（半期 4.5 単位）を 2 年間履修して単位を修得し（必修 18 単位）、これに加えて講義科目を 10 単位以上修得してください。なお、遠隔地で研究に従事するなどの特別な理由が無い限り、学年・学期に応じた「サイエンスコア」（半期 1 単位）を履修するよう心がけてください。
- c. 理工情報系オーナー大学院プログラムの履修生は、「理工情報研究室ローテーションI~IV」（各 1 単位）および「理工情報学外研修I~IV」（各 1 単位）が専門教育科目の修了要件単位として認められます。
- d. 後期課程対象の「生物科学特別講義」は集中講義形式で、前期課程の学生も履修できます。ただし、専門教育科目の修了要件単位（aに記載した単位の一部）とするには、指導教員の許可が必要です。（A）履修方法の 2 を参照してください。また、「生物科学インタラクティブセミナー」（通年 1 単位）は本人の視野を広げるために役立つ科目です。

B. 後期課程

- a. 所属研究室において開講される「〇〇学特別セミナー」（通年 9 単位）と「生物科学特別講義」（1 単位）2 科目以上とを履修し、単位を修得してください。また、遠隔地で研究に従事するなどの特別な理由が無い限り、学年に応じた「サイエンスコア」（通年 1 単位）を履修するよう心がけてください。
- b. 「生物科学特別講義」は、各年度において授業内容を表す副題を付して開講します。副題が異なっていれば、別の講義として単位を認定します。「生物科学特別講義IV-VIII」の履修方法についてはシラバスを参照してください。
- c. 修了要件外ですが、「生物科学インタラクティブ特別セミナー」（通年 1 単位）は本人の視野を広げるために役立つ科目です。

5. 高分子科学専攻

A. 前期課程

- a. 専門教育科目（32 単位）・高度教養教育科目（1 単位）・高度国際性涵養教育科目（1 単位）を修得しなければなりません。専門教育科目のうち高分子有機化学、高分子物理化学 A・B 及び高分子凝集科学の 4 科目と情報高分子科学は必修とします。2 年間にこれら 5 科目 8 単位を含む講義 12 単位以上を修得し、さらに各学年で半期セミナー（9 単位）およびインタラクティブセミナー（1 単位）を修得しなければなりません。ただし、リーディングプログラム「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」で実施されている「物質科学研究室ローテーション 1」ならびに理工情報系オーナー大学院プログラム科目の「理工情報研究室ロー

- テーションI～IV」および「理工情報学外研修I～IV」のいずれか1単位を修得した場合、あるいは長期の国内外のインターンシップや海外留学などを経験した場合には、審査のうえ同じ年度の「インタラクティブセミナー」の単位として認定する場合があります。
- b. 後期課程に配当される講義（高分子科学専攻特別講義、各1単位）を履修すれば、指導教員の許可を得たのちに、前期課程学生の専門教育科目の修了要件単位として認めます。
 - c. 他研究科、COデザインセンターで行われる授業科目、ナノサイエンス・ナノテクノロジー教育訓練プログラムおよび高分子科学専攻特別講義の単位が、必修科目以外の講義の修了要件単位として認定されるには、指導教員の許可が必要です。
 - d. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が1.5年で足りるものとします。その場合の修了要件は、半期セミナーが13.5単位、インタラクティブセミナーが1単位、講義（必須4科目8単位を含む）が15.5単位以上、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、合計32単位以上となります。

B. 後期課程

- a. 特別講義2科目以上を修得し、かつ各学年の特別セミナー（9単位）およびインタラクティブ特別セミナー（1単位）を原則として修得しなければなりません。ただし、理工情報系オナー大学院プログラム科目の「理工情報研究室ローテーションI～IV」および「理工情報学外研修I～IV」のいずれか1単位を修得した場合、あるいは長期の国内外のインターンシップや海外留学などを経験した場合には、審査のうえ同じ年度の「インタラクティブ特別セミナー」の単位として認定する場合があります。なお、他大学院研究科・他専攻から本専攻後期課程に入学した者については、博士前期課程の高分子有機化学、高分子物理化学A・B、高分子凝集科学、情報高分子科学を履修し、それらの合計8単位を上記5科目に加えて修得しなければなりません。ただし、既卒大学院で高分子有機化学、高分子物理化学、高分子凝集科学、情報高分子科学に相当する科目を修得している場合、審査のうえで単位として認定することができます。
- b. 「特別講義」は、各年度において副題を付して開講し、副題を異にする場合は、それぞれについて所定の単位を付与します。

6. 宇宙地球科学専攻

A. 前期課程

- a. 前期課程においては、総修了要件単位数30単位以上を修得しなければなりません。その内訳として、専門教育科目の19単位、高度教養教育科目の1単位、高度国際性涵養教育科目の2単位、自由選択科目の8単位が修了要件単位として認められます。宇宙地球科学専攻では、「宇宙生命論」を高度国際性涵養教育科目として提供しています。単位は研究科共通科目・他専攻科目等を修得することもできますが、例えば高度教養教育科目については何単位修得しても、1単位のみ修了要件単位として認められます。
- b. 専門教育科目のセミナー（必修4.5単位）は、指導教員が行うものを通算2年間履修してください。同じセミナーを繰り返して修得しても構いません。
- c. 宇宙地球科学専攻で開講する学部・大学院共通科目（基礎科目）は、修了要件単位に含めることはできません。「一般相対性理論」がこれに該当します。

- d. 後期課程の特別講義各科目を、前期課程学生が履修すれば、専門教育科目の修了要件単位として認められます。

B. 後期課程

後期課程において、特別講義 2 科目以上及び特別セミナー 1 科目以上を履修し、その単位を修得しなければなりません。

2) 履修手続きの流れ

履修登録は、学務情報システム「KOAN」にて行ってください。

URL <https://koan.osaka-u.ac.jp/>

履修登録や履修取消は、学期ごとに定められた期間に行わなければなりません。

登録期間や登録方法の詳細は、各年度の「時間割表・開講科目表」及び KOAN を参照してください。

期間外の登録、修正等は原則認められませんので、注意してください。

3) シラバスについて

理学研究科のシラバス（授業概要）は KOAN に掲載しています。

詳細は下記 URL から参照してください。

KOAN

https://koan.osaka-u.ac.jp/syllabus_ex/campus



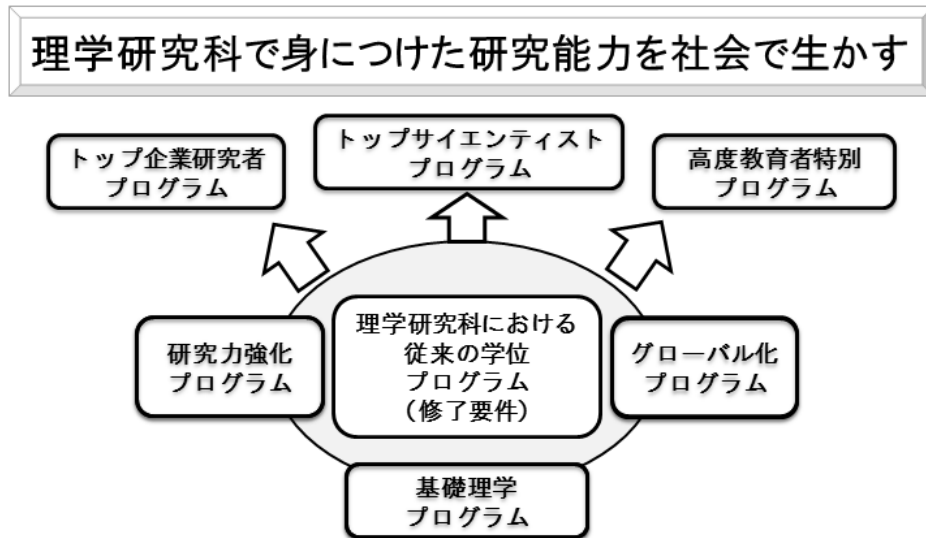
4) 集中講義について

集中講義の時間割については、理学研究科 A 棟 1 階通用口横の掲示板および KOAN 掲示により通知します。

5) 「高度博士人材養成プログラム」について

これまでの理学研究科の大学院教育プログラムでは、ある専門分野を極め、世界におけるトップの研究を行いながら、研究をどのように進め、どのようにして困難を乗り越えていくのかを体験して、社会で活躍できる研究者を育成することに主眼を置いてきました。しかしながら、社会に出てから、大学院時代に身につけた研究能力を最大限に生かすためには、専門知識だけでは不十分で、広い視野や豊かな学識などが必要になります。

「高度博士人材養成プログラム」は、従来の専門分野を極め、高度な研究能力を身につける教育に加えて、社会に出てから必要になる能力を培うことを目的とした、全ての専攻の共通科目から構成されています。理学研究科出身で現在様々な分野で活躍されている先輩、企業研究所やベンチャー企業の企画・管理に携わっておられる方々、さらには現役の大学院生からの意見も伺いながら企画された教育プログラムです。



プログラム名	目的
トップサイエンティストプログラム	大学や各研究機関等で活躍できる研究者となるために、専門分野で最先端の研究を実践するためのノウハウを修得する。
トップ企業研究者プログラム	企業の研究所等で活躍できる研究者や企業での研究グループを先導するリーダーに必要な能力を培う。
高度教育者特別プログラム	高校において、生徒が行う課題研究を指導でき、また高校内で数学や理科教育を先導する教員を養成する。
研究力強化プログラム	研究者として自立して研究活動を行うための基礎的能力を身につける。
グローバル化プログラム	英語力を伸ばし、外国人研究者との共同研究や外国の企業との交渉・共同開発が行えるグローバルに活躍できる能力を培う。
基礎理学プログラム	これまで学んできた分野とは違うが、今後の研究テーマに必要な分野、あるいは興味を持っている分野の基礎知識を修得する。

高度博士人材養成プログラム開講授業科目

開講日時の詳細は、パンフレット、KOAN、理学研究科ホームページ等で別途お知らせします。

開講科目	単位数	プログラム名					
		トップサイエンティストプログラム	トップ企業研究者プログラム	高度教育者プログラム	研究力強化プログラム	グローバル化プログラム	基礎理学プログラム
研究者倫理特論	0.5	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	
科学論文作成概論	0.5				◎◎	◎◎	
研究実践特論	0.5	◎◎			◎◎		
学位論文作成演習	0.5				◎		
実践科学英語A	1					◎◎	
実践科学英語B	1					◎◎	
海外短期留学	2					◎	
***特論S*	0.5~2	◎					
高度理学特別講義	0.5	◎					
企業研究者特別講義	0.5		◎◎				
科学技術コミュニケーション入門A	1		◎				
科学技術コミュニケーション入門B	1		◎				
企業インターンシップ	1		◎				
高度理系教員養成プログラム開講科目**				◎			
学部・博士前期課程開講科目***	0.5~2						◎◎
各プログラム修了要件 (科目数)		4	4	別に規定	4	4	—

○：博士前期課程配当科目 ◎：博士後期課程配当科目

* 博士前期課程開講科目に高度な内容を加えた博士後期課程配当科目

** 大阪教育大学で開講されている科目

*** 学部で開講されている科目を博士前期課程学生が、または学部・博士前期課程で開講されている科目を博士後期課程学生が、所定の履修登録を行って受講する科目

※令和2年度時間割表はホームページで確認してください。

https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/graduateschool/education_pg_g/



6) 「大学院オーナー特別コース」について

理学研究科大学院オーナー特別コースは、博士前期・後期課程を通じて、専門分野を極めるとともに、専門以外の分野へ発展できる能力や問題を俯瞰的に捉えて総合的に判断できる能力が備わった、特に優秀な博士人材を養成することを目的としています。

博士前期課程の1年次生および大阪大学理学部の理数オーナーディグリー修得者の中から選抜され、リサーチ・アシスタントとして経済的支援を受けながら、専門分野の研究に従事し、かつ理学研究科共通の「高度博士人材養成プログラム」を履修するコースです。

大学院オーナー特別コースのアドミッション・ポリシー

以下の要件を満たす大学院生を募集します。

- ・専門分野に関する強い興味と基礎学力を有すること
- ・広い視野と豊かな学識を身につけることに興味を持っていること
- ・グローバルに活躍するために必要な英語能力を有すること
- ・専門分野を極めるために、博士後期課程に進学する希望を有すること

大学院オーナー特別コースの特徴

○カリキュラム

本コース生は、入学時の専攻に所属し、その専攻のカリキュラムを履修し、かつ理学研究科共通の「高度博士人材養成プログラム」も履修していただきます。

高度博士人材養成プログラムの詳細については、14ページおよび以下を参照してください。

https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/graduateschool/education_pg_g/



○リサーチ・アシスタント（RA）および日本学術振興会特別研究員への応募

原則として、博士後期課程3年次までリサーチ・アシスタント（RA）となり、経済的支援を受けることができます。

また、日本学術振興会特別研究員（DC1、DC2）に、応募資格があれば原則全員応募していただきます。

※日本学術振興会特別研究員に採択された場合、RAの受入れは終了します。その場合も、引き続きプログラムは継続となります。

注) 令和2年度から理工情報系オーナー大学院プログラムの開設にあわせて、大学院オーナー特別コースの新規学生募集は停止しています。

7) 横断型教育・博士課程リーディングプログラム、 理工情報系オナー大学院プログラムおよび先導的量子ビーム 応用卓越大学院プログラムについて

■大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて

大阪大学では、横断型教育（学部・研究科の枠にとらわれない教育）を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる「**大学院副専攻プログラム**」、「**大学院等高度副プログラム**」を提供しています。

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムです。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った、一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、当該プログラムの修了認定証が交付されます。

各プログラムの詳細については、大阪大学のホームページをご参照ください。なお、大学院の新入生には別途プログラムの案内冊子を配付いたします。

(参考)

なお、「大学院等高度副プログラム」のうち、一部のプログラムは、「**大学院科目等履修生高度プログラム**」として、社会人に対しても提供されています。

■学際融合教育科目について

本学における横断型教育（学部・研究科の枠を超えた学び）のより一層の充実を目指して、複眼的視野を涵養するための授業科目として「**学際融合教育科目**」を設置しています。

学際融合教育科目は、全学の大学院学生に提供していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

■コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目について

大阪大学は、高等教育における新しい教育の目標として〈高度汎用力〉の育成を掲げています。COデザインセンターは人をつなぎ、知識をつなぎながら、ともに創出する力を身につけるための学部・研究科横断型の新しい高度教養・高度汎用力育成プログラムの研究開発と教育にあたっています。

「**コミュニケーションデザイン科目**」は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして学部生、大学院生を対象に開講されています。

また、「**COデザイン科目**」は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群として大学院学生を対象に開かれています。

その他、横断型教育に関する詳細は以下の URL からご参照ください。

<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/students/senior/>



■博士課程教育リーディングプログラムについて

博士課程教育リーディングプログラムは、文部科学省により平成23年度から公募が開始されたプログラムで、優秀な学生を広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超えて世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。

本学にはオールラウンド型と複合領域型の2つの類型に属する5つのプログラムがあります。このうち、理科学研究科学生が履修できるプログラムは「超域イノベーション博士課程プログラム」と「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」の2つのプログラムです。

博士課程教育リーディングプログラムについて

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/leading>



■理工情報系オーナー大学院プログラムについて

履修生が自らの専門分野の研究を深く追求するだけでなく、視野を広げ、異分野や新分野にも分け入っている力を獲得することを目的とします。履修生は所属研究科の専門課程科目以外にプログラム独自の科目も履修し、産官学の各セクターで社会をけん引できる人材になることを目指します。

◇対象学生

理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、情報科学研究科に所属する大学院生

◇プログラム期間

M2からD3までの4年間。D1からの履修も可能。

◇給付型奨学金制度あり

詳細は「理工情報系オーナー大学院プログラム」ホームページでご確認ください。

<https://www.sth.osaka-u.ac.jp/>



■多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムについて

本プログラムで育成される人材は、高度な専門性と広い俯瞰力、さらに高い国際通用力を身につけることにより、「知のプロフェッショナル」として産学官の各セクターで国際的なリーダーとなって活躍することが期待されます。そのために以下のような資質を備えた人材を育成します。

- ① 人類の持続可能性に対するリスクを考える能力
- ② 主たる専門分野での卓越した学識や技術力
- ③ 多分野にまたがる異なるスケールの現象を俯瞰する能力
- ④ 異なる分野の先端実験や計算を複数こなした経験と知識
- ⑤ 先端技術を社会実装する際のリスクとベネフィットを評価する能力
- ⑥ 国際的な活動の中で、リーダーシップを発揮し、人的ネットワークを構築し活用する能力

◇対象学生

出願時点（2020年5月）で本学の理学研究科、情報科学研究科の大学院博士前期課程、後期課程1年または医学系研究科医学専攻博士課程に在学中の者。

◇プログラム期間

M1 から D3 までの5年間。M2、D1 からの履修も可能。

◇経済的支援あり

その他詳細は「多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム」ホームページでご確認ください。

<https://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/pqba/>



8) STEP10

STEP10 とは、国立大学法人 10 大学理学部長会議が、よりグローバルでより多様な人材育成のために設置した、大学間連携学生交流プログラムです。10 大学が協力して、他大学学生も聴講できる授業科目を相互に設けることにより、大学の枠を超えた教育・研究を促進することを目指しています。

学生諸君には、「武者修行」や「道場破り」のような意気込みで積極的に本プログラムに参加し、自己研鑽を積むとともに知的交流を体験し、既存の大学の枠から踏み出して自主的に学ぶことを強く望みます。チャレンジをいとわない想像力にあふれた学生諸君の存在こそが、我が国の力強い成長の源であると信じます。STEP10 は、次代を担う科学人材育成を使命とする国立 10 大学理学部の新たな STEP です。

詳細は、以下の URL からご参照ください。

<https://www.s.u-tokyo.ac.jp/STEP10/>



9) 高度理系教員養成プログラム (aSTEP)

aSTEP は、次代を担う理系人材の育成を目的として、「研究重点大学院（大阪大学・京都大学・大阪府立大学・奈良先端科学技術大学院大学）」、「大阪教育大学」、および「大阪府教育委員会」の3者が連携し、高等学校での教育の充実と人材育成に熱意のある理系の博士学位取得者（学位取得予定者を含む）を、理系教育における指導的役割を果たし得る人材として養成するプログラムです。

このプログラムの説明会を毎年9月前後に開催しています。基本的に博士前期課程2年生から応募できます。詳細は、以下を参照してください。

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/kyomu/astep/index.html>



10) 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科、兵庫県立大学大学院生命理学研究科及び大阪府立大学大学院理学系研究科との交流の取扱いについて

本研究科と奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科、兵庫県立大学大学院生命理学研究科及び大阪府立大学大学院理学系研究科との間において授業交流(単位の相互認定)を実施しています。

1) 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科

①履修について

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修科目及び総単位数は、各課程においてそれぞれ5科目、10単位以内とします。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等は含みません。
- 「履修願」を申請しても、収容人数その他事情により受講できない場合があります。

②単位の認定

- 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位数に認定します。

③履修申請

- 履修希望者は、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

2) 兵庫県立大学大学院生命理学研究科

①履修について

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等は含みません。
- 「履修願」を申請しても、収容人数その他事情により受講できない場合があります。

②単位の認定

- 兵庫県立大学大学院生命理学研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位数に認定します。

③履修申請

- 履修希望者は、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

3) 大阪府立大学大学院理学系研究科

①履修について

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等は含みません。
- 「履修願」を申請しても、収容人数その他事情により受講できない場合があります。

②単位の認定

- 大阪府立大学大学院理学系研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位数に認定します。

③履修申請

- 履修希望者は、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

11) 長期履修学生制度

この制度は、学生が、職業を有している等の事情により標準修業年限内での修学が困難な者に対して、標準修業年限を超えて一定の延長期間を加えた期間に、計画的な教育課程の履修を認めるものです。

長期履修が許可されれば、通常の修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）において支払う授業料の総額を、長期履修期間として認められた期間に春・夏学期、秋・冬学期に均分して支払うことになります。

ただし、授業料が改定された場合、または長期履修期間に変更があった場合には、改定または変更時に授業料は見直しされます。

長期履修学生制度の詳細な内容については、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

12) 国際交流・留学

大阪大学では、海外の多くの大学等との間で、大学間交流や部局間交流の学術交流及び学生交流協定を結んでいます。協定校とは、共同研究や研究者、学生の交流を行っています。協定校の中には、学部学生と大学院生が大阪大学に在籍したまま海外留学し、留学先の協定校では授業料を納めずに、1年以内の履修や研究指導を受けることが可能となる場合があります。

留学先の大学で履修した単位を、本研究科の単位に充当できるかどうか、予め指導教員及び専攻長と相談しておいてください。

なお、留学に関する情報は以下の URL からご参照ください。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html



また、年に数回「留学オリエンテーション」が行われていますので、留意しておいてください。

その他、国際交流・留学に関することは以下の URL からご参照ください。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international>



13) 学位論文に係る評価に当たっての基準について

理学研究科及び各専攻が定める手続きにより提出された学位申請論文は、以下の体制及び基準に従って審査を行います。

1.1 修士論文

1.1.1 審査体制

修士論文の審査は、3名以上の審査委員により行うものとする。

修士の学位に係る論文審査委員会の主査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授・准教授
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授・准教授（招へい教授・准教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

修士の学位に係る論文審査委員会の副査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授・准教授・講師
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授・准教授・講師（招へい教授・准教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

1.1.2 審査の方法

修士論文に記述された内容については、各専攻の論文発表会において学術研究に相応しい発表及び討論がなされることとする。なお、原則として論文発表会は公開とする。また、この方法に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

1.1.3 評価項目及び基準

修士論文の審査について、次の評価項目及び基準を設ける。また、この評価項目及び基準に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

1. 修士の学位を受ける者は、当該専攻分野に関する学識を備え、かつ専門的研究能力を有すること。
2. 修士論文は、当該専攻分野に関する学術的価値を有し、論理的かつ明瞭に記述されていること。論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位を受ける者の貢献が有意に認められること。
3. 論文の内容、図及び表等について他文献の引用等に対する対応が適正になされていること。

1.1.4 論文が満たすべき水準

上記の評価項目及び基準を満たす場合、修士論文として合格とする。

2. 博士論文

2.1 審査体制

博士論文の審査は、3名以上の審査委員により行うものとする。

博士の学位に係る論文審査委員会の主査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授（招へい教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

博士の学位に係る論文審査委員会の副査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授・准教授・講師
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授・准教授・講師（招へい教授・准教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

2.2 審査の方法

博士論文に記述された内容については、各専攻の論文発表会において学術研究に相応しい発表及び討論がなされること。なお、原則として論文発表会は公開とする。また、この方法に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

2.3 評価項目及び基準

博士論文の審査について、次の評価項目及び基準を設ける。また、この評価項目及び基準に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

1. 博士の学位を受ける者は、当該専攻分野に関する高い学識を備え、かつ高度な専門的研究能力を有すること。
2. 博士論文は、当該専攻分野において高度な学術的価値を有する研究結果を含み、論理的かつ明瞭に記述されていること。論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位を受ける者の貢献が顕著であると認められること。
3. 博士論文の主要部分は、既に学術論文として公表されているか、若しくは学位を授与された日から1年以内に公表される予定であること。
4. 論文の内容、図及び表等について他文献の引用等に対する対応が適正になされていること。

2.4 論文が満たすべき水準

上記の評価項目及び基準を満たす場合、博士論文として合格とする。

14) 修士論文及び博士論文提出に関する申請手続概要について

修士論文または博士論文を提出する際は、論文のほかに所定の様式により「論文審査、最終試験受験申請書」等を提出しなければなりません。

それぞれの「申請手続概要」（提出方法、提出期日、様式等）は、論文提出の前年度3月頃にKOAN掲示板でお知らせします。

単位修得退学後の課程博士申請等のためKOAN掲示板から「申請手続概要」を取得できない場合は、大学院係 (ri-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp) に請求してください。その際のメールタイトルは「課程博士提出書類希望（申請者氏名）」としてください。

申請種別	修了時期	提出書類等
修士学位	9月または3月	①修士論文審査、最終試験受験申請書 ②修士論文（各専攻事務等へ提出） ③研究概要報告書 ④公正な研究活動に関する誓約書 ⑤離学後の進路について（留学生のみ）
博士学位	6月、9月、 12月または3月	①博士論文題目届 ②博士論文審査、最終試験受験申請書 ③博士論文 ④論文目録 ⑤論文内容の要旨 ⑥履歴書 ⑦博士学位授与記録 ⑧研究概要報告書 ⑨公正な研究活動に関する誓約書 ⑩博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載） 確認書 ⑪博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載） 保留事由に係る報告書 ⑫単位修得退学証明書（該当者のみ） ⑬離学後の進路について（留学生のみ）

注1) 申請書類等については、上記のほかに各専攻において別途指示する場合があります。

注2) 上記の内容は2020年1月時点のものです。学位申請の際は、必ず最新の「申請手続概要」を確認してください。

5. 授業料の免除及び奨学金

1) 入学料免除・授業料免除等について

担当事務：学生センター

奨学支援の一環として、本人の申請に基づき選考等のうえ、予算の範囲で授業料（入学料）の免除が認められる制度や、納入期限が猶予される制度等があります。各制度で定める申請対象や申請条件等に該当する場合は、これらの制度を申請することにより、授業料等の全部または一部の納入額が免除される（納入期限が猶予される）可能性がありますので、経済的理由や家庭の事情等により納入が困難な状況にあるときは、本学のホームページに掲載するこれらの制度の案内や情報をよく確認のうえ、申請を希望される場合には、所定の期限までに申請手続を行うようにしてください。

（注1）授業料免除等の申請については、前期（4月から9月まで）分、後期（10月から翌年3月まで）分のそれぞれの期の授業料ごとに免除を決定します。

（注2）入学料免除等の申請については、入学時に限り申請可能です。

1. 対象

《大学院学生の授業料（入学料）免除》

以下の要件に該当する方は、大阪大学独自の支援制度として実施する授業料免除に申請することができます。詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。

①経済的理由によって納入が困難であり、学力基準を満たす方。

②授業料免除については、前後期各期の授業料の納入前6ヶ月以内（新入生に限り納入前1年以内）に、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納入が困難であると認められる方。入学料免除については、入学前1年以内において、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、納入が著しく困難であると認められる方。

《入学料収納猶予・授業料収納猶予・授業料分納》

○ 詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。

2. 申請方法等

申請方法、申請期間、提出書類等については、次のとおり、各年度各期に大阪大学ホームページに掲載する「申請要項」にその詳細を記載してお知らせしますので、申請を希望される場合は必ず確認のうえ申請を行ってください。

○前期（4月から9月まで）分授業料免除（4月入学者の入学料免除）申請

「申請要項」の掲載：前年度2月末頃（予定）

○後期（10月から翌年3月まで）分授業料免除（10月入学者の入学料免除）申請

「申請要項」の掲載：当年度8月末頃（予定）

3. 問い合わせ先

吹田学生センター（ICホール1階） 電話：06-6879-7088・7089

4. ホームページ

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/remission>



2) 日本学生支援機構奨学金（外国人留学生を除く）について〈貸与型・給付型〉

担当事務：学生センター

日本学生支援機構奨学金は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方が受給できる制度です。貸与型奨学金は返済の義務があり、必ず返済しなければなりません。給付型奨学金は原則返済の義務はありません。

1. 奨学金の種類と受給月額

(2019年12月時点)

奨学金の種類	貸与月額	
大学「第一種」奨学金 (貸与・無利子)	自宅通学	20,000円、30,000円、45,000円のいずれかを選択
	自宅外通学	20,000円、30,000円、 <u>40,000円</u> 、51,000円のいずれかを選択
大学「第二種」奨学金 (貸与・有利子)	20,000円～120,000円(10,000円単位)から希望する金額を選択	
大学「給付」奨学金 (給付型)	採用年度・採用区分・通学区分によって金額が決定されます。 (金額選択不可)	
大学院「第一種」奨学金 (無利子)	博士前期(修士)課程	50,000円、88,000円のいずれかを選択
	博士後期(博士)課程	80,000円、122,000円のいずれかを選択
大学院「第二種」奨学金 (有利子)	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から希望する金額を選択	

(注1) 下線付きの月額は、2018年度入学者から新たに選択できるようになった月額です。2017年度以前入学者は選択できません。

(注2) 第二種奨学金に採用された方は、卒業・修了後、奨学金を返還する際、利子を附加した額を返還することになります。なお、利率は年3%を上限とし、変動します。

(注3) 大学院において第一種奨学金の貸与を受けた方で、在学中に特に優れた業績を挙げた方として認定された場合、奨学金の返還が免除される制度があります。

(注4) 高等司法研究科の方で150,000円を選択した場合、40,000円又は70,000円の増額貸与を受けることができます。

(注5) 給付型奨学金は、「学部生」のみが対象です。大学院生の方は申請できません。

2. 奨学金の申請について

入学前に奨学金【予約採用】申請済みの方は、4月上旬に採用候補者決定通知書を大学に提出してください。入学後に奨学金【在学採用】申請を希望する方は、4月中旬までに手続きを行ってください。

さい。詳細は、大阪大学ホームページ(Google、Yahoo 等で [大阪大学 奨学金]と検索、または下記URL参照、3月下旬更新)を確認してください。

※給付型奨学金を申請する方は、必ず授業料免除申請をしておく必要があります。

【窓口】

豊中学生センター（豊中キャンパス）

【問い合わせ先】

豊中学生センター奨学金担当（gakusei-sien-en2@office.osaka-u.ac.jp）

【大阪大学ホームページ】

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar>

日本学生支援機構奨学金に関する情報を掲載しています。



3) 地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について

担当事務：学生センター

地方公共団体及び民間奨学団体奨学会による奨学金（以下、「各種奨学金」という。）は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に給与もしくは貸与される制度です。

学生センターで取り扱っている各種奨学金は、「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」と「希望者が直接出願する奨学金」があります。

「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」については、推薦人数に限りがあり、またそれぞれの奨学会での推薦基準があるため、必ずしも申請者全員が推薦候補者になるとは限りません。

また、民間奨学団体等奨学会の奨学生に採用されると、在学中のみならず卒業後も民間奨学団体等との関係は続きます。大阪大学から推薦されたという自覚を持ち、向学心をさらに高め、交流会、面談、研修会への出席や、生活状況調書、成績表、奨学金受領書の提出など、奨学生としての義務を果たさなければなりません。これらの義務を怠った場合、辞退や採用取り消しとなる場合もありますので、十分に考慮の上、申請してください。

1. 対象者

奨学金の種類により異なります。

2. 申請方法

◆候補者を選考し大学から推薦する奨学金

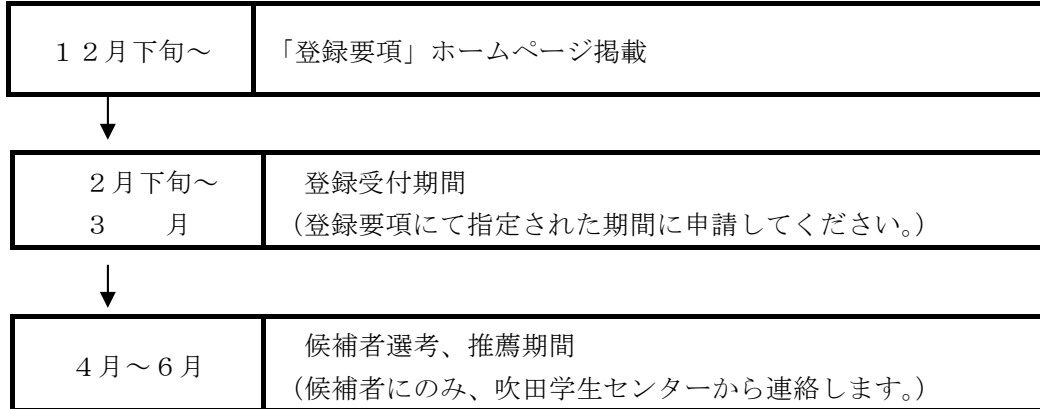
大学からの奨学生候補者は、登録者から選考します。

登録要項をダウンロードのうえ、要項で指定している受付期間内に申請してください。

詳細は、当該期の「民間団体等奨学生推薦候補者登録要項」（以下、「登録要項」）を参照してください。

「登録要項」は、12月下旬から、大阪大学ホームページよりダウンロードできます。

推薦までの流れ



◆希望者が直接出願する奨学金

大学に募集案内があった場合、その都度 KOAN 掲示板にてお知らせします。

地方公共団体奨学金については、本学に募集案内が来ない場合があるので、直接、出身地等の教育委員会等へ照会してください。

3. 問い合わせ先

吹田学生センター (IC ホール 1 階) 電話 : 06-6879-7084

4. ホームページ

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/gov_n_private



6. 健康及び災害傷害保険関係

1) 健康診断

担当事務 キャンパスライフ健康支援センター

定期健康診断	時期	未受検者の届出
定期健康診断は必ず受検してください。	日時、場所等については掲示等で周知します。	受検していない人は、他で受検した健康診断証明書（身長・体重・血圧・尿・胸部レントゲンを含む*様式任意）を後日、理学研究科学務係へ提出してください。

2) キャンパスライフ健康支援センター「診察・健康相談」

キャンパスライフ健康支援センターでは、本学に在籍している学生（留学生を含む）に、診察や健康相談等の業務を行っています。

キャンパスライフ健康支援センター（保健センター） 診療週間予定表（2019年10月現在）

豊中本室 窓口対応時間 9:00～12:00 13:00～17:00 ○予約不要 ●要予約

時間	診療科	月	火	水	木	金
診療受付時間 9:30～11:45	内科		○	○	○	○
	整形外科		○			
	精神科	●	●	●	●	
診療受付時間 13:00～15:15	内科	○		○		○
	整形外科			○		
	精神科	●	●	●		●

吹田分室 窓口対応時間 9:00～12:00 13:00～17:00 ○予約不要 ●要予約

時間	診療科	月	火	水	木	金
診療受付時間 9:30～11:45	内科	●	○	○	○	○
	整形外科	○				
	精神科	●	●		●	
診療受付時間 13:00～15:15	内科	○	○	○		○
	整形外科					
	精神科	●		●	●	

箕面分室 窓口対応時間 9:00～12:00 13:00～17:00 ○予約不要 ●要予約

時間	診療科	月	火	水	木	金
受付時間 9:30～11:45	内科			○(第1水曜日)		
	精神科	●			●	
受付時間 13:00～15:15	内科		○		○	○(第3週のみ)
	精神科					●(第1週のみ)

○女子学生と女子職員のためのからだと心のなんでも相談（要予約）

受付時間

豊中本室：木曜日 午前（9：30～11：45）、金曜日 午後（13：00～15：15）

吹田分室：月曜日 午前（9：30～11：45）、水曜日 午後（13：00～15：15）

箕面分室：木曜日 午後（13：00～15：15）、金曜日 午後（13：00～15：15）

○学生相談

相談受付：予約制 TEL 06-6850-6014

（受付時間 9：30～12：00 13：00～16：00）

相談時間：月曜日～金曜日 9：00～17：00

相談場所：豊中本室 学生交流棟3階

：吹田分室 サイバーメディアセンター吹田教育実習棟2階

（キャンパスライフ健康支援センター（保健センター）隣テニスコート前）

：箕面分室 キャンパスライフ健康支援センター箕面分室（管理棟2階）

診察や健康相談等の予定表は変更することがあります。最新の情報は、キャンパスライフ健康支援センターのホームページで確認してください。<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja>



3) 学生教育研究災害傷害保険について

「学生教育研究災害傷害保険（学研災）^{がっけんさい}」は、国内外における教育研究活動中に学生が被った「けが」に対して補償を提供するために設立された保険制度です。大阪大学では、全ての対象者がこの保険に加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

1. 対象

学部生、大学院生、研究生、聴講生及び科目等履修生（留学生を含む。）

（大学施設を単に利用するだけの研修生は対象となりません。ただし日本学術振興会特別研究員は対象となります。）

2. 保険金の内容

（平成30年4月以降）

保険金が支払われる 事故の範囲	死亡 保険金	後遺障害 保険金	医療保険金	入院加算金
正課中（授業、実験実習、 演習等）、学校行事中	2,000万円	程度に応じて 120万円～3,000万円	治療日数 1日以上 が対象 3,000円～30万円	1日につき 4,000円
通学中、学校施設等相互 間の移動中、大学施設内 （課外活動を除く）	1,000万円	程度に応じて 60万円～1,500万円	治療日数 4日以上 が対象 6,000円～30万円	1日につき 4,000円
公認団体が大学に届け出 た学内外の課外活動中	1,000万円	程度に応じて 60万円～1,500万円	治療日数 14日以上 が対象 3万円～30万円	1日につき 4,000円

3. 加入方法及び請求方法

《加入方法》

入学手続きの際に「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」とゆうちょ銀行の払込取扱票を配布しますので、必ず郵便局またはゆうちょ銀行の窓口で通学中等傷害危険担保特約保険料を含む下記の金額を払い込んでください。接触感染予防保険金支払特約には対応していません。

※ 誤った金額を振り込まれた場合、加入手続きが取れず、この保険の対象となる「けが」であっても保険金の支払いができません。必ず、所属学部(研究科)及び学年に対応した金額を払い込んでください。

学年	所属	文・人・外・法・経・理・医(保健)・薬(薬科・創成薬)・工・基礎工・言文・国際公共・情報・高等司法*・連合小児		
		学部	大学院 (前期・修士)	大学院 (後期・博士)
1		3,300	1,750	2,600
2		2,600	1,000	1,750
3		1,750		1,000
4		1,000		

学年	所属	医(医・医科)・歯・薬(薬・医療薬)			生命機能
		学部	大学院 (修士医のみ)	大学院 (後期・博士)	大学院 (博士)
1		4,700	1,750	3,300	4,050
2		4,050	1,000	2,600	3,300
3		3,300		1,750	2,600
4		2,600		1,000	1,750
5		1,750			1,000
6		1,000			

* 高等司法は、別途法科賠償保険料を上乗せする。

《事故の通知》

保険事故が発生したときは、ただちに事故の日時・場所・状況・傷害の程度を事故通知ハガキにより保険会社へ通知する必要があります。事故の日から30日以内に通知のない場合は、保険金が支払われないことがあります。

事故通知ハガキは、大学生協の保険窓口に取りに来ててください。記入したハガキは、大学生協の保険窓口から保険会社へ送付します。

《保険金の請求》

請求に必要な書類は大学生協の保険窓口で渡します。記入・作成のうえ、大学生協の保険窓口へ提出してください。

※学生教育研究賠償責任保険（学研賠）について

正課・学校行事中やインターンシップ（大学が承認したものに限り）・介護体験活動・教育実習・保育実習及びその往復中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上支払わなければならない損害賠償金を補償する保険です。

学研賠へは、「学研災」へ先に加入していなければ、加入することができません。加入希望者は必ず「学研災」に加入していることを確認のうえ、大学生協の保険窓口で必要書類を受け取り、郵便局で保険料を払い込んでください。

4. 窓口

豊中生協事務所（豊中キャンパス豊中福利会館4階）

吹田工学部生協事務所（吹田キャンパスセンテラス2階）

箕面生協事務所（箕面キャンパス箕面福利会館1階シャンティショップ内）

5. 問い合わせ先

大阪大学 生活協同組合 総務部（豊中福利会館4階） 06-6841-3326

6. ホームページ

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/general/insurance.html>



7. 学生相談

理学部・理学研究科では、学生の皆さんが大学生活を送る中で抱える様々な悩みや疑問などに対して、気軽に相談できるよう複数の相談窓口を設置しています。例えば、その悩みは、学業のことや大学の手続きのことであったり、あるいは、将来の進路のこと、健康のこと、友人関係のことであったり、もしかしたら、1人で解決できない困難な悩みを抱えてしまうこともあるかもしれません。そんなとき、家族、友人、身近な教員等に相談する方法以外に、理学部・理学研究科には、悩みの解決に向けたサポートを行う相談窓口として、下記1)～7)があることを知っておいてください。どうしたらよいのかわからない、そう思ったときは気軽に相談してみましょ。なお、どの窓口にどんな相談をしても適切な対応が行われますので、相談する内容に関わらず、相談しやすい窓口、相談しやすい方法で相談してみてください。また、理学部・理学研究科の相談窓口のほか、全学の相談窓口として、下記8)～10)もあります。

下記のすべての相談窓口は、秘密厳守で相談に応じています。

1) 学生相談員（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の学生の皆さんが抱える修学面、生活面、健康面等の日常における様々な悩みに対して、担当教員が学生相談員として、解決のためのアドバイスやサポートを行っています。学生相談員は、所属学科・専攻関連の相談内容に限らず対応することになっていますので気軽に何でも相談してみてください。相談は電話でもよいですがEメールでも受け付けています。悩みごとがあれば、どんな小さなことでも構いませんので、とにかく一度メールしてみてください。

メールアドレス：sodan@sci.osaka-u.ac.jp（全学科・専攻共通）

理学部・理学研究科学生相談員 2020年 4月現在

学科	専攻	職名	氏名	連絡先
数学	数学	教授	渡部 隆夫	06-6850-5706
		准教授	金 英子	06-6850-5526
物理学	物理学	教授	兼村 晋哉	06-6850-5340
		教授	阿久津 泰弘	06-6850-5348
	宇宙地球科学	教授	住 貴宏	06-6850-5503
		准教授	佐伯 和人	06-6850-5795
化学	化学	教授	小川 琢治	06-6850-5392
		准教授	加藤 浩之	06-6850-6570
	高分子科学	教授	橋爪 章仁	06-6850-8174
		准教授	浦川 理	06-6850-5458
生物科学	生物科学	准教授	大岡 宏造	06-6850-5424
		准教授	中井 正人	06-6879-8612

2) なんでも相談室（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の学生の皆さんが、気軽になんでも相談できるように、学生相談員の他に「なんでも相談室」を理学研究科内に設置しています。勉学や学問の内容に限らず、対人関係のほか、学生生活全般に関するものや「漠然とした相談」「誰に聞いたらいいかわからない質問」など、担当者が文字通りなんでも相談にのってくれます。相談は基本的に、授業開講日（金曜日を除く）に相談時間枠を設けてあり、場所は、理学研究科E棟2階（E217）の「なんでも相談室」です。悩みがあれば気軽に相談しに来てください（場合によっては、他の場所で相談を受け付けることもあります。）。なお、Eメールによる相談や予約も受け付けています。

メールアドレス：nandemo@sci.osaka-u.ac.jp

理学部・理学研究科なんでも相談室担当者 2020年1月現在

職名	氏名	連絡先
教授	阿久津 泰弘	06-6850-5348

3) キャンパスライフ支援室（GLS室）

理学部・理学研究科と基礎工学部・基礎工学研究科の専属カウンセラー（資格名：公認心理士、臨床心理士、国家資格キャリアコンサルタント、産業カウンセラー、認定ハラスメント相談員）が学生の皆さんの相談に対応します。悩み事や困りごとだけでなく、将来への夢や思い、人生全般に関する思いを気軽にお話いただける支援室です。それぞれの思いやニーズに寄り添って対応します。必要に応じて他の相談窓口をご紹介します連携します。個人の秘密は守られます。学生間の交流の場を作って欲しい、心に関するお話の場を持って欲しいなどのご要望にも応じます。皆さんの生活に役立つよう広く支援室をご活用ください。

フリーメール（gmail など）でご予約の場合、当室からの返信メールが迷惑フォルダに入ってしまうことがあります。当室からの返信が届かない場合には別のメールから再度のご連絡をお願いします。

メールアドレス：support_rk@ad.es.osaka-u.ac.jp

理学部・理学研究科キャンパスライフ支援室担当者 2020年1月現在

氏名	事務室	連絡先
上原 秀子	理学E棟2階E207	06-6850-5840

4) 就職担当教員（理学部・理学研究科）

就職に関する相談は、各学科、専攻の就職担当教員にお問い合わせください。学科・専攻ごとに就職担当教員の任期が異なるため、最新の情報は理学部・理学研究科ホームページでご確認ください。

理学部・理学研究科就職担当教員 2020年 1月現在

学科	専攻	職名	氏名	連絡先	E-mail	居室
数学	数学	教授	山ノ井 克俊	06-6850-5295	shushoku@math. sci.	B404
物理学	物理学	教授	川畑 貴裕	06-6850-5353	kawabata@phys. sci.	H409
	宇宙地球科学					
化学	化学	教授	久保 孝史	06-6850-5384	kubo@chem. sci.	G502
—	高分子科学	教授	青島 貞人	06-6850-5448	aoshima@chem. sci.	G602
生物科学	生物科学	准教授	長尾 恒治	06-6850-5987	nagao@bio. sci.	C205

※メールアドレス末尾「osaka-u. ac. jp」は記載省略

理学部・理学研究科ホームページ

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/campuslife/studentsupport/>



5) キャリア支援室（理学部・理学研究科）

原則として、毎週木曜日の16:00-20:00に開設しています（8月・9月は閉室）。就職活動のエントリーシートのチェック、模擬面接、将来の進路相談、就職以外の将来への不安の相談等を実施しています。相談の予約は相談室(B棟B224)のドアに貼った予約表で受け付けています。当日でも空きがあれば対応していただけます。

就職等進路相談担当 2020年1月現在

CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）産業カウンセラー

氏名	事務室	連絡先
野村 文子	理学研究科B棟2階B224	06-6850-6111(代表)から内線2355 または内線2400

6) 留学生相談室（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の留学生の皆さんが、日本で大学生活を送る中で抱える修学面、生活面、健康面等の様々な悩みを英語により相談できるように、「留学生相談室」を理学研究科内に設置しており、担当の留学生専門相談員が、解決のためのアドバイスやサポートを行っています。「留学生相談室」の場所は、理学研究科B棟2階（B224）です。相談したいことがあれば、どのようなことでもよいので一人で悩まずに遠慮なく相談してください。Eメールや電話の相談はもちろんのこと、相談室で直接相談にのることもできます。相談室で相談したいときは、Eメールで予約を行ってください。

また、各学科、専攻には留学生担当教員がいますので、そこでも相談ができるほか、留学生相談室担当職員が、生活相談に対応しています。

メールアドレス : foreign@sci.osaka-u.ac.jp

理学部・理学研究科留学生専門相談員 2020年1月現在

職名	氏名	連絡先
講師	卓 妍秀	06-6850-8169

留学生相談室担当職員 2020年1月現在

氏名	事務室
西口 奈津子	理学研究科本館D棟2階D201国際交流サロン内

理学部・理学研究科留学生担当教員 2020年4月現在

学科	専攻	職名	氏名	連絡先
数学	数学	教授	高橋 篤史	06-6850-5304
物理学	物理学	教授	越野 幹人	06-6850-5742
	宇宙地球科学	准教授	廣野 哲朗	06-6850-5796
化学	化学	教授	船橋 靖博	06-6850-5767
	高分子科学	教授	山口 浩靖	06-6850-5460
生物科学	生物科学	准教授	大岡 宏造	06-6850-5424

7) ハラスメント相談員（理学部・理学研究科）

ハラスメントの防止等に関する取り組みの一環として、ハラスメントに関する苦情や相談に対応するため、理学部・理学研究科にハラスメント相談員を置いています。学生の皆さんが、不幸にしてハラスメントの被害に遭ったときには、一人で悩まず、まずは家族や友人など信頼できる人に相談し、必要に応じて理学部・理学研究科のハラスメント相談員に相談してください。相談があった場合、ハラスメント相談員は真摯に話を聞いて問題解決にあたります。下記9)の専門相談員のいる全学の相談室での対応がより適切であると判断される場合には、相談者本人の了解を得た上でそちらへ連絡することもあります。相談は、学科・専攻に関わらず、誰にしてもらっても構いません。

理学部・理学研究科ハラスメント相談員 2020年 4月現在

学科（専攻）	職名	氏名	連絡先
数学	教授	高橋 篤史	06-6850-5304
物理学・宇宙地球科学	准教授	小田原 厚子	06-6850-5745
化学・高分子科学	准教授	浦川 理	06-6850-5458
生物科学	助教	稲木 美紀子	06-6850-5805

※事務部にも相談員がいます（相談員名等は、理学部・理学研究科のホームページに掲載）

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp/inside/opinion/harrasment/>（内部専用ページ）



8) 学生相談室（全学） 2020年 1月現在

大阪大学には、学生相談室が設置されています。本学の学生は誰でも、経験豊かな相談相手（カウンセラー）に相談することができます。何か相談したいことがあれば、電話で相談日と時間を予約し相談してください。学生相談室は、どんな相談も受け付けています。相談は1回だけでも結構ですし、継続して何回でも相談することができます。詳細は下記ホームページを参照してください。

【予約方法】

電話予約：06-6850-6014

（受付時間 9：30～12：00 13：00～16：00）

窓口での予約：豊中学生相談室窓口（学生交流棟3階）

（受付時間 9：30～12：00 13：00～16：00）

メールでの予約：メールアドレス **gakusou@hacc.osaka-u.ac.jp**

アドレスは予約専用です。メールでの相談は一切受け付けていません。

【相談時間】

月曜日～金曜日 9：00～17：00

【相談場所】

豊中本室 学生交流棟3階

吹田分室 サイバーメディアセンター吹田教育実習棟2階

（キャンパスライフ健康支援センター（保健センター）隣テニスコート前）

※相談曜日および時間帯などの詳細はホームページでご確認ください。

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/sodansien/gakusou/>



9) キャンパスライフ健康支援センター相談支援部門（全学）

キャンパスライフ健康支援センターでは学生の人間的な成長を総合的に支えるため、アクセシビリティ支援室、ピア相談室、キャリア支援室の3つの室が協力して活動しています。場所は各キャンパスの学生センターに隣接しています。

（豊中地区：学生交流棟2階、吹田地区：ICホール1階、箕面地区：管理棟4階）

○アクセシビリティ支援室

障がい等のある学生の支援に関する相談を受け付けています。ファックス、電子メールによる相談も受け付けています。

【時間】10：00～17：00

【曜日】（吹田）月・火・水・金、（豊中）月～金、（箕面）火・金

【連絡先】電話・FAX：06-6850-6107

メールアドレス：**campuslifekenkou-ac@office.osaka-u.ac.jp**

○ピア相談室

学業、進路、人間関係の悩みのほか、カルト団体・消費者トラブル・サークル活動や経済上の問題など、学生生活上の様々な問題について相談に応じています。

あらかじめ電話またはメールで予約していただくこともできます。また、電話による相談も受け付けています。

【時 間】（吹田）12：30～16：30、（豊中）13：00～17：00

【曜 日】（吹田）月、（豊中）水、木、金

【連絡先】電話：06-6850-6651

メールアドレス：campuslifekenkou-peer@office.osaka-u.ac.jp

○キャリアセンター

キャリアアドバイザーに就職相談（進路相談）ができます。

予約システム（進路・就職相談予約管理システム）で希望日時・キャンパスの予約をして、相談開始時刻に来室してください。予約せずに直接来室をして相談することもできますが、予約優先のため、相談枠が空いている場合のみ先着順で受け付けます。

【時 間】10：30～17：00（時期により13：50～17：00）

【曜 日】（吹田・豊中）月～金

【連絡先】電話：（吹田）06-6879-7087、（豊中）06-6850-6115

進路・就職相談予約管理システム：<https://cs-web.osaka-u.ac.jp/soudan/student/>



※相談曜日および時間帯などの詳細は、ホームページでご確認ください。

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/>



10) ハラスメント関連相談室（全学）

大阪大学では、ハラスメントのない大学を目指し、その発生の防止や解決に取り組んでいます。その一環として、各キャンパスに全学の相談室を設置しており、上記6)のハラスメント相談員とは別に、専門相談員が問題の解決にあたっています。ハラスメントの被害に遭ったときや周囲の人が被害に遭って困っているときは、勇気を出して相談しましょう。

相談をご希望の場合は、事前に電話予約を行ってください。

〔ハラスメント豊中相談室〕

場所：キャンパスライフ健康支援センター（保健センター）豊中本室建物東側階段の2階

電話：06-6850-5029

〔セクシュアル・ハラスメント吹田相談室〕

場所：工学研究科U1E棟4階

電話：06-6879-7169

〔アカデミック・パワー等ハラスメント豊中相談室〕

場所：キャンパスライフ健康支援センター（保健センター）豊中本室建物東側階段の2階

電話：06-6850-6006

〔アカデミック・パワー等ハラスメント吹田相談室〕

場所：工学研究科U1E棟4階

電話：06-6879-7169

※相談曜日および時間帯などの詳細はホームページでご確認ください。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/prevention_sh



8. 理学研究科建物への入館

理学研究科、理学部の建物の外部に通じる玄関、通用口等は平日夜間時間及び休業日終日、入館が規制されます。入館する場合は、磁気カードが必要です。

大学院正規生については、学生証により入館が可能です。ただし、紛失・破損等により学生証の再発行手続きを行った場合、再発行された学生証では入館できなくなりますので、庶務係（A棟1階A213）で入館情報の更新手続きを行ってください。

大学院非正規生（研究生）については、研究のため夜間入館が必要な場合は、庶務係（A棟1階A123）で磁気カードの申請手続きを行ってください。

科目等履修生については、磁気カードは発行されません。

曜日等	開閉時間
平日（月～金）	正面玄関：6：00～23：00 （23：00～6：00はカード入館） 学生通用口：7：00～19：00 （19：00～7：00はカード入館）
土・日・祝祭日	全館終日閉鎖（カード入館のみ可）
年末・年始	全館終日閉鎖（カード入館のみ可）

9. 理学研究科情報資料室

理学研究科・理学部には、研究に必要な資料（学術雑誌等）を所蔵し閲覧することのできる理学研究科情報資料室があります。

○場所 理学研究科D棟2階（D205）

○電話 06-6850-5555（内線2390）

○利用時間

曜日等	利用時間	学生証または入館カード
平日（月～金）	9：30～17：00	不要
	17：00～9：00	必要
土・日・祝日	終日	必要

※入室する場合、学生証または入館カードが必要な時間帯があります。

※平日の9：00～9：30は完全閉室します。

○閲覧

情報資料室の資料を閲覧できます。閲覧したい資料が情報資料室にあるかどうかは、大阪大学蔵書検索システム（OPAC）において検索できます。

<大阪大学蔵書検索システム（OPAC）>

<https://opac.library.osaka-u.ac.jp/>



（情報資料室の資料は、「配架場所：理資」と表示されます。）

※当年度に刊行された雑誌は、閲覧室にあります。

※前年度以前に刊行された雑誌は製本され、隣接する書庫に配架しています。（ただし、製本作業中の前年度刊行雑誌は除きます。）

※すべての資料や雑誌等は貸出できません。

○文献複写

情報資料室の資料は、調査研究のために複写することができます。

※研究室配属されている学生は、各研究室のコピーカードで複写できます。

※研究室未配属の学生は、私費にて複写（白黒20円、カラー60円/1枚）できますので、スタッフまでお申し出ください。（スタッフが不在の日や時間帯はできません。）

○学内図書館等の図書取寄せ・文献複写取寄せ

ご希望の場合は、スタッフまでお申し出ください。

○学習スペースの提供

閲覧室には36席あり、調べもの等の学習ができるスペースを提供しています。また、ご自分のパソコンを持ち込み、大阪大学個人IDによる無線LANを利用することができます。

10. 理学研究科ホームページ

シラバスや担当教員などの教育に関する情報、その他の必要な情報、また教員の研究活動について理学研究科ホームページで閲覧することができます。

なんでも相談室のスケジュール、意見・相談コーナー、ハラスメント相談員名簿等、より詳しい情報が、内部専用ページにあります。これらの情報は理学研究科情報処理室のパソコンから接続することにより閲覧することができます。

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp>



11. 修学上の注意

1) 気象警報発表時等における授業の取扱いについて

1. 気象警報発表時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」、又は「特別警報*」が発表された場合、授業を休講とします。

なお、当該発表が授業開始後の場合は、次の時限の授業から休講とします。

*「特別警報」については内容を限定せず、すべての「特別警報」を対象とします。

2. 公共交通機関の運休時の取扱い

災害により、通学路線のうち以下の公共交通機関のいずれかが運行の休止又は運転の見合せ(以下、「運休」という。)となった場合(一部区間の運休を含む)、当該キャンパスで開講する授業を休講とします。

- ①豊中キャンパス 阪急電車(宝塚線:梅田-宝塚間)又は
大阪モノレール(全線)
- ②吹田キャンパス 阪急電車(千里線:梅田/天神橋筋六丁目-北千里間)又は
大阪モノレール(全線)
- ③箕面キャンパス 阪急電車(千里線:梅田/天神橋筋六丁目-北千里間)、
阪急バス(千里中央-阪大外国語学部前/間谷住宅4)又は
大阪モノレール(全線)

ただし、事故等による一時的な運転見合せについては、休講とはしません。

3. 気象警報又は公共交通機関運休の解除時の取扱い

気象警報又は公共交通機関の運休が解除された場合の取扱いは次のとおりとします。

警報・運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を超過しても解除されない場合	全日授業休業

注1 連合小児発達学研究科については、別途当該研究科からメールにより取扱いを連絡します。

注2 解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によるものとします。

4. 地震発生時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかで震度5強以上の地震が発生した場合、その日の授業を休講とします。ただし、地震の発生が午後5時15分以降の場合は、翌日の授業も休講とします。

また、地震が当該地域以外で発生した場合又は震度5強未満の場合は、公共交通機関の運行状況に応じて対応することとし、上記2)の取扱いに従うこととします。

5. 災害に伴う避難勧告又は避難指示発令時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかの市から、災害に伴う避難勧告又は避難指示（以下「避難勧告等」という。）が発令された地域（以下「避難地域」という。）に所在する部局においては、授業を休講とする場合があるので、部局からの連絡に従ってください。

6. その他

- (1) この取扱いに該当しないため授業を実施する場合であっても、学生の皆さんの居住地域又は通学経路にある地域で、上記1)と同様の気象警報が発表された場合、上記4)と同様の地震が発生した場合、上記2)以外の公共交通機関が運休した場合等やむを得ない事情により授業を欠席した場合は、履修上不利益とならないよう配慮しますので、授業開講部局又は所属部局の教務担当係に申し出てください。
- (2) 気象警報の発表、公共交通機関の運休又は避難勧告等の発令が事前に予想される場合、又は緊急に休講措置の必要が生じた場合は、大学ホームページ又はKOANにおいて通知します。

2) 不正行為を行った場合の取り扱いについて

試験等において学生の不正行為が確認された場合は、当該学生が当該学期・セメスターに履修したすべてまたは一部の科目の成績評価を無効とする処分を科し、その旨を学内に公表します。レポート・論文等の作成における盗用・剽窃・捏造等の行為も不正行為として処分の対象となります。

12. 海外渡航届システム

在学中に海外へ渡航する場合は、海外渡航届システムへアクセスし渡航情報を登録してください。
テロ事件をはじめ災害や感染症の発生など、万が一海外で緊急事態が発生した場合、大阪大学ではシステムの登録内容を元に海外渡航中の学生の皆さんの安否確認を行っています。

留学・学会参加・海外旅行・留学生の一時帰国など公私に関わらずいかなるケースにおいても必ず出発前に登録するようお願いします。

◆大阪大学ホームページ

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/Studyabroad_crisis_management/assovr



◆海外渡航届システムへの登録はこちらから

<http://osku.jp/m0783>



1) 大阪大学学部学則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この学則は、大阪大学（以下「本学」という。）の学部の修業年限、教育課程その他の学生の修学に必要な事項について、定めるものとする。

(教育研究上の目的の公表等)

第1条の2 本学は、学部又は学科ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

(学部及び学科)

第2条 本学に、次の学部及び学科を置く。

文学部 人文学科

人間科学部 人間科学科

外国語学部 外国語学科

法学部 法学科、国際公共政策学科

経済学部 経済・経営学科

理学部 数学科、物理学科、化学科、生物科学科

医学部 医学科、保健学科

歯学部 歯学科

薬学部 薬学科

工学部 応用自然科学科、応用理工学科、電子情報工学科、環境・エネルギー工学科、地球総合工学科

基礎工学部 電子物理科学科、化学応用科学科、システム科学科、情報科学科

(収容定員)

第3条 前条に定める学部及び学科の収容定員は、別表1のとおりとする。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第5条 学年を分けて、次の4学期とする。

春学期

夏学期

秋学期

冬学期

2 春学期及び秋学期の開始日は、それぞれ4月1日及び10月1日とし、夏学期及び冬学期の開始日は、総長がその都度定める。

3 夏学期及び冬学期の終了日は、それぞれ9月30日及び3月31日とし、春学期及び秋学期の終了日は、総長がその都度定める。

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日及び土曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）及び天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律（平成30年法律第99号）に規定する休日

大阪大学記念日 5月1日

春季休業 4月1日から4月10日まで

夏季休業 8月5日から9月30日まで

冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

2 春季休業、夏季休業及び冬季休業については、学部の事情により学部長が総長の承認を得て、その都度変更することができる。

3 臨時の休業日については、総長がその都度定める。

第7条 削除

第2章 学生

(修業年限)

第8条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部については、6年とする。

2 第10条の5の規定に基づき、長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）は、当該許可された年限を修業年限とする。

(在学年限)

第9条 在学年限（長期履修学生の在学年限にあっても同様とする。）は、8年とする。ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部については、12年とする。

2 前項の規定にかかわらず、第14条から第15条までの規定により、入学を許可された者の在学年限については、学部規程で別に定める。

3 学生が前2項に規定する在学年限に達したとき

は、当該学生はその身分を失う。

(教育課程及びその履修方法等)

第10条 教育課程は、本学、学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、教養教育、専門教育及び国際性涵養教育を基に体系的に編成するものとする。

2 授業科目の区分は、次のとおりとする。

教養教育系科目

学問への扉、基盤教養教育科目、高度教養教育科目、情報教育科目、健康・スポーツ教育科目、アドヴァンスト・セミナー、コミュニケーションデザイン科目

専門教育系科目

専門基礎教育科目、専門教育科目

国際性涵養教育系科目

マルチリンガル教育科目、高度国際性涵養教育科目、国際交流科目、グローバルイニシアティブ科目

3 前項に定める区分の各授業科目、履修方法等については、学部規程で別に定める。ただし、全学の協力のもとに実施する科目については、全学共通教育科目として別に定める。

4 前項の規定にかかわらず、教養教育系科目のコミュニケーションデザイン科目並びに国際性涵養教育系科目の国際交流科目及びグローバルイニシアティブ科目の開設並びに履修方法等については、別に定める。

5 第2項に定めるもののほか、教職教育科目を開設し、その授業科目、履修方法等については、別に定める。

(大学院等高度副プログラム)

第10条の2 前条の教育課程のほか、幅広い分野の素養等を培う教育を行うため、大学院等高度副プログラムを開設する。

2 大学院等高度副プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(授業の方法)

第10条の2の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させること

ができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業の一部は、文部科学大臣が別に定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(単位の計算方法)

第10条の2の3 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部規程又は全学共通教育規程で定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部規程又は全学共通教育規程で定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して学部規程又は全学共通教育規程で定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めることができる。

(学修証明書等)

第10条の2の4 第10条に規定する教育課程の一部をもって体系的に開設する授業科目の単位を修得した学生に対し、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第163条の2に規定する学修証明書を交付することができる。

2 前項に規定する体系的に開設する授業科目は、学修証明プログラムと称する。

3 前項に定めるもののほか、学修証明プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学等における授業科目の履修)

第10条の3 学部長（学部長から委任を受けた者を含む。以下同じ。）が教授会の議を経て教育上有益と認めるときは、他の大学、専門職大学若しくは短期大学（専門職短期大学を含む。以下同じ。）又は外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）若しくは短期大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。ただし、やむを得ない事情により、外国の大学又は短期大学との協議を行うことが困難な場合は、これを欠くことができる。

2 前項の規定により、学生が他の大学、専門職大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において修得した単位は、60単位を限度として、卒業に要する単位に算入することができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第10条の3の2 学部長が教授会の議を経て教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校等の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることのできる単位は、前条第2項により修得した単位と合わせて60単位を限度とする。

（入学前の既修得単位の認定）

第10条の4 学部長が教授会の議を経て教育上有益と認めるときは、本学に入学した者が本学入学前に大学、専門職大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において修得した授業科目の単位（大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する特別の課程履修生として修得した単位を含む。）を、本学において修得したものと認定することができる。

2 学部長が教授会の議を経て教育上有益と認めるときは、本学に入学した者が本学入学前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものと認定し、又は与えることのできる単位数は、第14条から第15条までの規定により入学又は転学を許可された場合を除き、本学において修得した単位以外のもの

については、第10条の3第2項及び前条第2項の規定により修得した単位と合わせて60単位を限度とする。

（長期にわたる教育課程の履修）

第10条の5 学部長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第8条第1項に規定する修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

（教育職員の免許状授与の所要資格の取得）

第10条の6 本学における教育職員の免許状授与の所要資格の取得方法は、別に定める。

（試験及び評価）

第10条の7 履修した各授業科目の可否は、当該授業担当教員が実施する筆記試験によって決定する。ただし、試験に代わる方法によることもできる。

2 各授業科目の試験の成績は、100点を満点として次の評価をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

S（90点以上）

A（80点以上90点未満）

B（70点以上80点未満）

C（60点以上70点未満）

F（60点未満）

（成績評価基準等の明示等）

第10条の8 本学においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学においては、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第10条の9 本学においては、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（入学）

第11条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと学部長が認めたときは、夏学期、秋学期及び冬学期の始めに入学させることができる。

第12条 入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程により、12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

第13条 入学を志願する者に対して選抜試験を行い、総長は、教授会の議を経て、入学を許可すべき者を決定する。

2 選抜試験については、別に定める。

第14条 次の各号のいずれかに該当する者については、総長は、学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、入学を許可することができる。

- (1) 一の学部を卒業し、更に他の学部又は同一学部の他の学科（文学部、人間科学部及び外国語学部の場合にあっては、同一学科の他の専攻分野）に入学を志願する者
- (2) 学部を退学した後、更にその学部に入學を志願する者
- (3) 他の大学又は専門職大学の学部を卒業し、更に本学の学部に入學を志願する者

2 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支

援学校の高等部の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）で、本学の学部に入學を志願するものについては、総長は、当該学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、編入學を許可することができる。

3 高等専門学校を卒業した者で、工学部又は基礎工学部に編入學を志願するものについては、総長は、当該学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、編入學を許可することができる。

第14条の2 次の各号のいずれかに該当する者で、法学部第3年次に入学を志願するものについては、総長は、法学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、入学を許可することができる。

- (1) 大学若しくは専門職大学を卒業した者又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (2) 大学又は専門職大学において2年以上在學し、法学部が別に定める所定の単位を修得した者
- (3) 外国において学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者（外国において最終の学年を含め2年以上継続して学校教育を受けていた者に限る。）
- (4) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

第14条の3 次の各号のいずれかに該当する者で、人間科学部又は経済学部の第3年次に入学を志願するものについては、総長は、当該学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、入学を許可することができる。

- (1) 大学若しくは専門職大学を卒業した者又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (2) 大学又は専門職大学において2年以上在學し、当該学部が別に定める所定の単位を修得した者
- (3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (4) 外国において、前3号に相当する学校教育における課程を修了した者

第14条の4 外国語学部の第3年次、医学部の第2年次若しくは第3年次又は歯学部の第3年次に入学を志願する者については、総長は、当該学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、入

学を許可することがある。

第15条 他の大学又は専門職大学の学部の学生で本学に転学を志願する者については、総長は、学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、転学を許可することがある。

2 前項の規定により、転学を願い出た者は、その際現に在学する大学又は専門職大学の長の許可書を願書に添えなければならない。

第16条 第14条から前条までの規定により、入学を許可された者であって、既に1学年以上本学の授業科目を学修したものと同等以上の学力があると認定されたものの修業年数の計算については、既に1学年以上本学において修業したものとみなすことができる。

2 前項の認定に当たり必要があるときは、学部規程の定めるところにより、試験を行う。

第17条 入学を志願する者は、所定の期日までに、入学願書に別に定める書類を添えて、提出しなければならない。

第18条 入学の許可は、別に定める書類の提出、入学料の納付等所定の手続を経た者に対して行う。

第19条 前2条に定める手続その他に虚偽又は不正があった場合は、入学の許可を取り消すことがある。

第19条の2 次の各号のいずれかに該当する者が、その者に係る納付すべき入学料を所定の期日までに納付しないときは、当該学生はその身分を失う。

(1) 第45条の2第1項の規定により入学料の免除を願い出た者で、免除が不許可となったもの又は一部の免除が許可となったもの

(2) 第45条の3第1項の規定による入学料の徴収猶予の可否を決定された者

(転部等)

第19条の3 転部又は学科の変更を志願する学生については、志願先の学部長が、学部規程の定めるところにより、転部又は学科の変更を許可することがある。

2 前項の規定により、転部を願い出た者は、その際現に在学する学部の長の許可書を願書に添えなければならない。

3 第1項の場合において、既に修得した授業科目の単位及び在学期間の認定は、教授会の議を経て学部長が行う。

(転学)

第20条 他の大学又は専門職大学に転学を志願する学生は、学部長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(留学)

第20条の2 第10条の3第1項の規定に基づき、外国の大学又は短期大学に留学を志願する学生は、学部長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項により留学した期間は、第8条に規定する修業年限に算入するものとする。

(休学)

第21条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により3月以上修学できない場合は、学部長の許可を得て、その学年の終わりまで、休学することができる。

第22条 疾病のため、修学が不相当と認められる学生に対しては、学部長は、休学を命ずることができる。

第23条 休学した期間は、在学年数には算入しない。

第24条 休学期間は、4年を超えることができない。ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部については、その休学期間は、6年を超えることができないものとする。

2 前項ただし書の規定にかかわらず、薬学部については、薬学部長が特別の事情があると認めるときは、休学期間を延長することができる。

第25条 休学期間中に、その事由が消滅したときは、学部長の許可を得て、復学することができる。

(退学)

第26条 学生が退学しようとするときは、事由を詳記した退学願書を、学部長に提出し、その許可を受けなければならない。

第27条 削除

(卒業)

第28条 第8条に規定する期間在学し、所定の授業科目を履修してその単位数を修得し、かつ、学部規程に定める試験に合格した者に対し、学部長は、教授会の議を経て、卒業を認定する。

2 前項の規定にかかわらず、医学部、歯学部及び薬学部を除き本学に3年以上在学した者で、卒業の要件として当該学部の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるものに対し、学部長は、当該

学部規程の定めるところにより、教授会の議を経て、卒業を認定することができる。

- 3 学部長は、前2項により卒業を認定したときは、文書で総長に報告しなければならない。
- 4 第1項の規定による卒業に必要な単位のうち、第10条の2の2第2項に規定する授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(学士の学位)

第29条 総長は、前条により卒業の認定を受けた者に対し、卒業を決定し、学士の学位を授与する。

- 2 前項の学位には、学部又は学科の区分に従い、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

文学部 文学

人間科学部 人間科学

外国語学部 言語・文化

法学部 法学

経済学部 経済学

理学部 理学

医学部 医学科 医学

保健学科/看護学/保健衛生学

歯学部 歯学

薬学部 薬学

工学部 工学

基礎工学部 工学

- 3 本学において学士の学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、大阪大学と付記するものとする。

- 4 学士の学位記の様式は、別表2のとおりとする。

(除籍)

第30条 削除

第31条 学生が故なく授業を受けないことが長きにわたるとき、又は成業の見込みがないときは、教授会の議を経て、総長は、除籍することができる。

第32条 学生が授業料の納付を怠り、督促を受けてなお納付しないときは、学部長は、除籍することができる。

(復籍)

第32条の2 前条の規定により除籍となった者から復籍の願い出があったときは、学部長は、復籍を認めることができる。

(懲戒)

第33条 学生に、本学の規則に違反し又はその本分

に反する行為があるときは、教授会の議を経て、総長が懲戒する。

- 2 懲戒は、戒告、停学及び放學とする。
- 3 停学の期間は、第9条に規定する在学年限に算入し、第8条に規定する修業年限に算入しない。ただし、停学の期間が1月未満の場合には、修業年限に算入することができる。
- 4 懲戒に関する手続は、別に定める。

第3章 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生

(特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生)

第34条 他の大学、専門職大学、短期大学若しくは高等専門学校又は外国の大学若しくは短期大学との協議に基づき、学部長は、当該大学等に在学中の者を特別聴講学生として入学を許可し、授業科目を履修させることができる。

第34条の2 授業科目中1科目又は複数科目を選んで履修し、単位を修得しようとする者があるときは、学部長は、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

第35条 授業科目中1科目又は複数科目を選んで聴講しようとする者があるときは、学部長は、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

第36条 学部において特定事項について攻究しようとする者があるときは、学部長は、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生の入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の事情があるときはこの限りでない。

- 3 在学期間は原則として1年とする。ただし、研究上必要と認めるときは在学期間を延長することができる。

第37条 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生又は研究生として入学を志願する者は、願書に別に定める書類を添えて、学部長に提出しなければならない。

第38条 実習及び攻究に要する特別の費用は、科目等履修生及び研究生の負担とする。

第38条の2 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生が次の各号のいずれかに該当するときは、学部長は、除籍することができる。

- (1) 成業の見込みがないと認められるとき。

(2) 授業料の納付を怠り、督促を受けてなお納付しないとき。

第39条 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生については、この学則に定めるもののほか、学部規程で定める。

第4章 特別の課程

(履修証明プログラム)

第39条の2 本学の学生以外の者を対象とした学校教育法第105条に規定する特別の課程として、履修証明プログラムを編成することができる。

2 前項に定めるもののほか、履修証明プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

第5章 外国人留学生

(外国人留学生)

第40条 外国人で留学のため、本学に学生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生又は研究生として入学を志願する者があるときは、選考の上、総長又は学部長は、入学を許可することができる。

2 前項の許可を受け入学する者を外国人留学生という。

第41条 削除

第42条 削除

第43条 削除

第6章 検定料、入学料及び授業料

(検定料の納付)

第44条 入学を志願する者は、願書提出と同時に、検定料を納付しなければならない。

(検定料の免除)

第44条の2 総長が相当の事由があると認めて別に定めた場合は、検定料を免除することができる。

(入学料の納付)

第45条 入学に当たっては、所定の期日までに、入学料を納付しなければならない。

(入学料の免除等)

第45条の2 入学する者(科目等履修生、聴講生又は研究生として入学する者を除く。以下この項及び次条において同じ。)であって、次の各号のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められるものには、別に定めるところにより、入学料の全部又は一部を免除

することができる。

(1) 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者(以下この号において「学資負担者」という。)が死亡した場合、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であって、総長が相当と認める事由がある場合

2 第19条の2の規定により学生の身分を失った場合は、別に定めるところにより、当該学生に係る入学料を免除することができる。

3 本学学部合格し、一方の学部に対する入学(編入学、転入学及び聴講生、研究生としての入学を除く。)を行った後に、その入学を辞退し、他方の学部に対する入学手続を行う者については、入学料を免除することができる。

4 前3項に定めるもののほか、総長が相当の事由があると認めて別に定めた場合は、入学料を免除することができる。

第45条の3 入学する者が次の各号のいずれかに該当する場合には、別に定めるところにより、入学料の徴収を猶予することができる。

(1) 経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる場合

(2) 前条第1項第1号に掲げる場合で、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる場合

(3) その他やむを得ない事情があると総長が認めた場合

2 前項の徴収猶予の期間は、当該入学に係る年度を超えないものとする。

第45条の4 第45条の2第1項又は前条第1項の規定により、入学料の免除又は徴収猶予を受けようとする者は、所定の期日までに必要書類を添えて、総長に願い出るものとする。

2 前項の規定により入学料の免除又は徴収猶予を願い出た者に係る入学料の納付については、免除又は徴収猶予の可否が決定するまでの間、猶予するものとする。

(授業料の納付)

第46条 学生は、授業料を毎年前期(4月から9月まで)及び後期(10月から翌年3月まで)の2期に分けて、所定の期日までに、年額の2分の1ずつ

納付しなければならない。ただし、特別の事情がある場合は、月割分納を許可することができる。

2 第1項本文の規定にかかわらず、学生は、前期に係る授業料を納付するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて納付することができる。

3 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生は、各期に受講する単位数分又は月数分の授業料を第1項（ただし書を除く。）に準じて納付しなければならない。

4 第1項ただし書の月割分納を許可された者は、授業料年額の12分の1に相当する額を毎月納付しなければならない。ただし、夏季及び冬季休業中の授業料については、その開始前に納付させるものとする。

第47条 学生が退学し、除籍又は放學された場合の授業料については、別に定める場合を除くほか、その納期に属する分は徴収する。

2 停学中の学生の授業料については、その期間中も徴収する。

（授業料の免除等）

第48条 学生が休学した場合の授業料は、休学月の翌月（休学する日が月の初日からのときは、その月）から復学当月の前月まで月割をもって免除する。ただし、休学する日が前期にあつては5月以後、後期にあつては11月以後であつて、授業料の徴収猶予又は月額分納を許可されていない者で、かつ、前期にあつては4月末日までに、後期にあつては10月末日までに休学を許可されていないものの当該期の授業料については、この限りでない。

2 第19条の2の規定により学生の身分を失った場合、第32条若しくは第38条の2の規定により学生を除籍した場合、又は死亡若しくは行方不明のため、学籍を除いた場合は、当該学生に係る未納の授業料の全額を免除することができる。

3 第49条の規定により授業料の徴収猶予を許可されている学生が退学した場合は、月割計算により、退学の翌月以降に納付すべき授業料の全額を免除することができる。

第49条 本学の学生（科目等履修生、聴講生及び研究生を除く。）であつて、経済的理由によって授業料の納付が困難であると認めるとき、その他やむを得ない事情があると認めるときは、別に定めるところにより、授業料の全部若しくは一部を免除

し、又はその徴収を猶予することができる。

2 前項の徴収猶予の期間は、当該年度を超えないものとする。

第49条の2 前2条に定めるもののほか、総長が相当の事由があると認めて別に定めた場合は、授業料を免除することができる。

第50条 第49条の規定により授業料の免除又は徴収猶予（月割分納の場合を含む。以下同じ。）を受けようとする者は、その事由を具して所定の期日までに総長に願い出るものとする。

2 前項の規定により授業料の免除又は徴収猶予を願い出た者に係る授業料の納付については、免除若しくは徴収猶予の可否が決定するまでの間、猶予するものとする。

第51条 授業料の免除又は徴収猶予を受ける学生は、納期ごとに総長が定める。

第52条 授業料の免除を受けている者がその事由を失ったときは、その当月から当該期末までの授業料を月割をもって納付しなければならない。

2 授業料の徴収猶予を受けている者がその事由を失ったときは、直ちに授業料を納付しなければならない。

（授業料等の不徴収等）

第52条の2 第44条及び第45条の規定にかかわらず、特別聴講学生に係る検定料及び入学料は徴収しない。

2 第46条第3項の規定にかかわらず、特別聴講学生が次のいずれかに該当する場合は、授業料を徴収しない。

(1) 国立の大学又は専門職大学の学生

(2) 本学と相互に授業料の不徴収を定めた相互単位互換協定（部局間協定を含む。）に基づき授業科目を履修する公立若しくは私立の大学、専門職大学若しくは短期大学又は国立、公立若しくは私立の高等専門学校の学生

3 第44条、第45条及び第46条の規定にかかわらず、国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年3月31日文部大臣裁定）に基づき入学する者及び本学と外国の大学等との間において相互に検定料、入学料及び授業料の不徴収を定めた大学間交流協定（部局間交流協定を含む。）に基づき入学する者については、検定料、入学料及び授業料を徴収しない。

(検定料、入学料及び授業料の額)

第53条 第44条の検定料、第45条の入学料及び第46条の授業料の額は、大阪大学学生納付金規程（以下「納付金規程」という。）の定めるところによる。

(納付済の検定料、入学料及び授業料)

第54条 納付済の検定料、入学料及び授業料は返付しない。

2 第13条に規定する選抜試験における次の各号のいずれかに該当する者に対しては、前項の規定にかかわらず、その者の申出により、前項の検定料のうち当該各号に掲げる額を返付する。

(1) 出願書類等による選抜（以下「第1段階目の選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下「第2段階目の選抜」という。）を行う場合において、第1段階目の選抜に合格しなかった者 納付金規程第2条第4項に定める第2段階目の選抜に係る検定料相当額（以下「第2段階目選抜検定料相当額」という。）

(2) 出願を受け付けた後において、大学入学共通テストの受験科目の不足により出願資格のないことが判明した者 第2段階目選抜検定料相当額

3 第46条第2項の規定により前期分の授業料納付の際、後期分授業料を併せて納付した者が、前期末までに休学又は退学した場合は、納付した者の申出により後期分授業料相当額を返付する。

第7章 学寮等

(学寮等)

第55条 本学に、学寮及び外国人留学生を寄宿させる施設（以下「学寮等」という。）を設ける。

2 学寮等は、総長の監督に属する。

第56条 学寮等について必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この通則は、公布の日から施行する。

2 次の規程は、廃止する。

大阪大学通則(昭和6年5月1日制定)

3 この通則施行の際、現に在学する旧制学部の学生については、学期、修業年限、在学年数、学科課程、履修方法及び卒業については、なお従前の例による。

4 昭和27年3月31日以前に入学し、引き続き在学する

者並びに他の国立大学から転学した者の授業料については、なお従前の例による。

5 旧制の大学院に関する規定は、なお従前の例による。

(略)

附 則

この改正は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成26年11月19日から施行する。

附 則

この改正は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成28年2月17日から施行する。

附 則

この改正は、平成28年6月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成29年3月21日から施行する。ただし、第5条、第10条、第11条及び第46条の改正規定は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正は、平成31年4月1日から施行する。

2 平成31年3月31日現在在学中の者（以下この項において「在学者」という。）及び平成31年4月1日以後において在学者の属する年次に編入学、再入学又は転入学する者については、改正後の第10条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 前項の場合において、改正前の第10条の適用については、同条第2項中「グローバルコラボレーション科目」の次に

「国際性涵養教育系科目

グローバルイニシアティブ科目」

を加え、同条第5項中「及びグローバルコラボレーション科目」とあるのは、「、グローバルコラボレーション科目及び国際性涵養教育系科目のグローバルイニシアティブ科目」と読み替えるものとする。

4 薬学部薬科学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成31年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

5 改正後の別表1の規定にかかわらず、平成31年

度から平成35年度までの次表の左欄に掲げる学部
学科の収容定員は、それぞれ対応右欄に掲げると
おりとする。

左欄		右欄				
学部名	学科名	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度
		収容定員	収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
薬学部	薬学科	205	260	315	370	425

6 改正後の別表 1 の規定にかかわらず、平成 31 年度から令和 8 年度までの医学部医学科の入学定員、編入学定員及び収容定員並びに収容定員合計は、次表に掲げるとおりとする。

学部名	学科名	平成 31 年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
		入学定員及び 編入学定員	収容定員	入学定員及び 編入学定員	収容定員	入学定員及び 編入学定員	収容定員
医学部	医学科	100		100		—	
		2 年次編 入学定員	—	2 年次編 入学定員	—	2 年次編 入学定員	—
	計	1, 330		1, 330		1, 330	
収容定員合計		13, 381		13, 436		13, 491	

学部名	学科名	令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
		入学定員及び 編入学定員	収容定員	入学定員及び 編入学定員	収容定員	入学定員及び 編入学定員	収容定員
医学部	医学科	—		—		—	
		2 年次編 入学定員	—	2 年次編 入学定員	—	2 年次編 入学定員	—
	計	1, 325		1, 320		1, 315	
収容定員合計		13, 541		13, 591		13, 641	

学部名	学科名	令和 7 年度		令和 8 年度	
		入学定員及び 編入学定員	収容定員	入学定員及び 編入学定員	収容定員
医学部	医学科	—		—	
		2 年次編 入学定員	—	2 年次編 入学定員	—
	計	1, 310		1, 305	
収容定員合計		13, 636		13, 631	

附 則

この改正は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 (略)

別表 2 (略)

2) 大阪大学大学院学則

第1章 総則

(趣旨及び目的等)

- 第1条 この学則は、大阪大学（以下「本学」という。）の大学院の修業年限、教育方法その他の学生の修学上必要な事項について、定めるものとする。
- 2 本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。
- 3 本学大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

(課程及び標準修業年限)

- 第2条 本学大学院の課程は、博士課程とする。ただし、文学研究科及び医学系研究科においては、修士課程及び博士課程とし、高等司法研究科においては、法科大学院の課程とする。
- 2 修士課程の標準修業年限は、2年とする。
- 3 博士課程の標準修業年限は、5年とする。ただし、医学系研究科医学専攻、歯学研究科又は薬学研究科医療薬学専攻の博士課程（以下「医学・歯学・薬学の博士課程」という。）の標準修業年限は、4年とする。
- 4 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「後期課程」という。）に区分する。ただし、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程にあつては、この区分を設けないものとする。
- 5 前項の前期課程は、標準修業年限を2年とし、これを修士課程として取り扱うものとする。
- 6 法科大学院の課程の標準修業年限は、3年とする。
- 7 第3項及び第4項の規定にかかわらず、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科の博士課程は、後期課程のみの博士課程とし、その標準修業年限は、3年とする。
- 8 第10条の規定に基づき、長期にわたる教育課程

の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）は、当該許可された年限を標準修業年限とする。

(研究科、専攻及び課程)

第3条 本学大学院に置く研究科、専攻及びその課程は、次表に掲げるとおりとする。

研究科名	専攻名	課程の別
文学研究科	文化形態論、文化表現論	博士課程
	文化動態論	修士課程
人間科学研究科	人間科学	博士課程
法学研究科	法学・政治学	博士課程
経済学研究科	経済学、経営学系	博士課程
理学研究科	数学、物理学、化学、生物科学、高分子科学、宇宙地球科学	博士課程
医学系研究科	医学、保健学	博士課程
	医科学	修士課程
歯学研究科	口腔科学	博士課程
薬学研究科	創成薬学、医療薬学	博士課程
工学研究科	生物工学、応用化学、物理学系、機械工学、マテリアル生産科学、電気電子情報通信工学、環境エネルギー工学、地球総合工学、ビジネスエンジニアリング	博士課程
基礎工学研究科	物質創成、機能創成、システム創成	博士課程
言語文化研究科	言語文化、言語社会、日本語・日本文化	博士課程
国際公共政策研究科	国際公共政策、比較公共政策	博士課程

情報科学研究科	情報基礎数学、情報数理学、コンピュータサイエンス、情報システム工学、情報ネットワーク学、マルチメディア工学、バイオ情報工学	博士課程
生命機能研究科	生命機能	博士課程
高等司法研究科	法務	法科大学院の課程
大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所	小児発達学	博士課程

2 前項の高等司法研究科は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第99条第2項に定める専門職大学院とする。

（課程の目的）

第4条 修士課程及び前期課程は、広い視野に立つて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

第5条 後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

第5条の2 法科大学院の課程は、専門職大学院設置基準に定める専門職学位課程のうち、専ら法曹養成のための教育を行うことを目的とする。

第2章 教育課程

（教育課程の編成方針）

第5条の3 本学大学院の教育課程は、専門教育、国際性涵養教育及び教養教育を基に体系的に編成するものとする。

第5条の4 本学大学院（専門職大学院を除く。以

下次項、第5条の6第1項、第9条の2、第9条の4第1項及び第12条において同じ。）においては、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、本学大学院においては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

第5条の5 専門職大学院においては、その教育上の目的を達成するために専攻分野に応じ必要な授業科目を、産業界等と連携しつつ、開設するものとする。

2 専門職大学院においては、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう専攻分野に応じ事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮しなければならない。

（博士課程教育リーディングプログラム等）

第5条の6 各研究科において編成する教育課程を充実させるため、本学大学院に、次のプログラムを開設する。

博士課程教育リーディングプログラム
卓越大学院プログラム

2 前項の各プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

（大学院副専攻プログラム等）

第5条の7 第5条の3から前条までに規定する教育課程等のほか、本学に、幅広い分野の素養等を培う教育を行うため、次のプログラムを開設する。

大学院副専攻プログラム
大学院等高度副プログラム

2 前項の各プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

（学修証明書等）

第5条の8 第5条の3から第5条の6までに規定する教育課程又はプログラムの一部をもって体系的に開設する授業科目の単位を修得した学生に対し、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号。以下「施行規則」という。）第163条の2に規定する学修証明書を交付することができる。

2 前項に規定する体系的に開設する授業科目は、学修証明プログラムと称する。

3 前項に定めるもののほか、学修証明プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(教育方法等)

第6条 本学大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。ただし、専門職大学院にあつては、研究指導を除くものとする。

2 各研究科の授業科目の内容及び単位数並びに研究指導の内容並びにこれらの履修方法は、各研究科において別に定める。

3 授業の方法及び各授業科目の単位の計算方法については、本学学部学則第10条の2の2及び第10条の2の3の規定を準用する。

4 第2項に規定する授業科目のほか、次の授業科目を開設する。

大学院横断型の教育に関する授業科目(以下「大学院横断教育科目」という。)

博士課程教育リーディングプログラムに関する授業科目(以下「リーディングプログラム科目」という。)

グローバルイニシアティブ科目

5 大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目及びグローバルイニシアティブ科目に関し必要な事項は、別に定める。

第7条 本学大学院においては、当該研究科教授会の議を経て研究科長(研究科長から委任を受けた者を含む。以下同じ。)が必要と認めるときは、当該研究科の他の専攻の授業科目、他の研究科の授業科目若しくは前条第4項の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを第15条に規定する単位の充当することができる。

第8条 本学大学院においては、当該研究科教授会の議を経て研究科長が必要と認めるときは、他の大学院の授業科目、外国の大学院の授業科目又は国際連合大学の教育課程における授業科目を履修し、10単位を超えない範囲で、これを第15条に規定する単位の充当することができる。

2 前項に規定する授業科目の履修については、本学学部学則第10条の3第1項の規定を準用する。

第8条の2 本学大学院においては、当該研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院入学前に大学院、外国の

大学院又は国際連合大学の教育課程において修得した授業科目の単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学大学院において修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定により修得したものと認定することができる単位数は、第24条の2第1項に規定する入学又は第32条第2項に規定する再入学若しくは転学を許可された場合を除き、前条第1項の規定により修得した単位とは別に、10単位を超えない範囲で、第15条に規定する単位の充当することができる。

第8条の3 専門職大学院における他の大学院における授業科目、外国の大学院における授業科目又は国際連合大学の教育課程における授業科目の履修及び入学前の既修得単位の認定については、当該研究科の定めるところによる。

第9条 本学大学院においては、当該研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、他の大学院等又は外国の大学院等とあらかじめ協議の上、当該大学院等において必要な研究指導(第45条で規定する国際連携専攻の学生が第46条で規定する連携外国大学院において受けるものを除く。)を受けることができる。

2 前項の研究指導を受ける期間は、修士課程及び前期課程の学生にあつては、1年を超えることはできない。

(成績評価基準等の明示等)

第9条の2 本学大学院においては、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学大学院においては、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第9条の3 専門職大学院においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 専門職大学院においては、学修の成果に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあ

らかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第9条の4 本学大学院においては、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

2 専門職大学院においては、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(長期にわたる課程の履修)

第10条 研究科長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第2条第2項、第3項及び第5項に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(教育職員の免許状授与の所要資格の取得)

第10条の2 本学大学院における教育職員の免許状授与の所要資格の取得方法は、別に定める。

第3章 課程の修了及び学位の授与

(試験及び評価)

第11条 履修した各授業科目の可否は、筆記試験若しくは口頭試験又は研究報告によって決定する。ただし、試験に代わる方法によることもできる。

2 各授業科目の試験の成績は、100点を満点として次の評価をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

S (90点以上)

A (80点以上90点未満)

B (70点以上80点未満)

C (60点以上70点未満)

F (60点未満)

(学位論文の提出等)

第12条 本学大学院においては、在学期間中に学位論文を当該研究科長に提出し、最終試験を受けるものとする。ただし、第15条第1項本文に規定する特定の課題についての研究の成果の審査を受ける場合並びに同条第2項に規定する試験及び審査を受ける場合は、この限りでない。

第13条 後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、前

条の規定にかかわらず、退学後においても、当該研究科長の許可を得て博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

2 医学・歯学・薬学の博士課程に4年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、前条の規定にかかわらず、退学後においても、当該研究科長の許可を得て博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

3 生命機能研究科の博士課程に5年以上(第24条の2の規定により入学を許可された者にあつては3年以上)在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、前条の規定にかかわらず、退学後においても、当該研究科長の許可を得て博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

4 研究科長は、前3項の許可を与える場合は、研究科教授会の議を経なければならない。

(学位論文の審査等)

第14条 学位論文の審査及び最終試験は、当該研究科教授会が、審査委員会を設けて行う。

2 学位論文の審査においては、当該論文の内容に関する発表会を実施するものとする。

3 学位論文の審査に当たって必要があるときは、当該研究科教授会の議を経て、他の大学院等の教員等の協力を得ることができる。

4 第1項及び前項の規定は、次条第2項に規定する試験及び審査を行う場合について準用する。

(修了要件)

第15条 修士課程又は前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会の議を経て研究科長が特に認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前期課程の修了の要件は、当該博士課程の目的を達成するために必要と認められる場合には、前項に規定する修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することに代えて、次に掲げる試験及び審査に合格すること

とすることができる。

- (1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験
 - (2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期課程において修得すべきものについての審査
- 3 前項の規定は、第2条第3項に規定する標準修業年限を5年とする博士課程における一貫した人材養成上の目的を有する教育課程を履修する者に限り適用することができる。
 - 4 医学・歯学・薬学の博士課程を除く博士課程の修了の要件は、この課程に5年（修士課程又は前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会の議を経て研究科長が特に認めた場合に限り、この課程に3年（修士課程又は前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
 - 5 第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は前期課程を修了した者の医学・歯学・薬学の博士課程を除く博士課程の修了の要件は、この課程に修士課程又は前期課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会の議を経て研究科長が特に認めた場合に限り、この課程に3年（修士課程又は前期課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
 - 6 医学・歯学・薬学の博士課程の修了の要件は、この課程に4年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について30単位以上

を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会の議を経て研究科長が特に認めた場合に限り、この課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

- 7 第4項及び第5項の規定にかかわらず、修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者又は施行規則第156条の規定により、後期課程への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、後期課程に入学した場合の後期課程の修了の要件は、この課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該研究科教授会の議を経て研究科長が特に認めた場合に限り、この課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
- 8 前項本文の規定にかかわらず、各研究科において必要と認めるときは、前項の修了要件として、所要の授業科目について、所定の単位を修得することを加えることができる。
- 9 法科大学院の課程の修了の要件は、この課程に3年以上在学し、研究科の定めるところにより、所要の授業科目について、98単位以上を修得することとする。ただし、在学期間に関しては、法科大学院の課程において必要とされる法学の基礎的な学識を有すると認められる者については、当該研究科教授会の議を経て研究科長が特に認めた場合に限り、この課程に2年以上在学すれば足りるものとする。

（学位の授与）

- 第16条** 前条第1項から第7項までの規定により課程を修了した者には、総長は、当該課程に応じて修士又は博士の学位を授与する。
- 2 前条第9項の規定により法科大学院の課程を修了した者には、総長は、法務博士の学位を授与する。
 - 3 第1項に規定するもののほか、生命機能研究科の博士課程において、前条第1項及び第2項に規定する修士課程の修了に相当する要件を満たした

者にも、総長は、修士の学位を授与することができる。

第17条 前条第1項及び第3項の学位には、研究科の区分に従い、次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

研究科名	修士	博士
文学研究科	文学	文学
人間科学研究科	人間科学	人間科学
法学研究科	法学	法学
経済学研究科	経済学 応用経済学 経営学	経済学 応用経済学 経営学
理学研究科	理学	理学
医学系研究科	医科学 公衆衛生学 保健学 看護学	医学 保健学 看護学
歯学研究科		歯学
薬学研究科	薬科学	薬科学 薬学
工学研究科	工学	工学
基礎工学研究科	工学	工学 理学
言語文化研究科	言語文化学 日本語・日本文化	言語文化学 日本語・日本文化
国際公共政策研究科	国際公共政策	国際公共政策
情報科学研究科	情報科学 理学 工学	情報科学 理学 工学
生命機能研究科	生命機能学 理学 工学	生命機能学 理学 工学
大阪大学・金沢大学 ・浜松医科大学・千 葉大学・福井大学連 合小児発達学研究科		小児発達学

2 前条第2項の法務博士の学位には、専門職と付記するものとする。

3 第1項の規定にかかわらず、学際領域等の分野を専攻した者で、当該研究科教授会の議を経て総長が適当と認めるときは、学術と付記することができる。

第18条 前条に定めるもののほか、修士、博士及び

法務博士の学位については、本学学位規程の定めるところによる。

第19条 削除

第4章 入学、休学、退学、転学、転科、留学、再入学及び専攻の変更

(入学資格等)

第20条 修士課程、前期課程、生命機能研究科の博士課程又は法科大学院の課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学又は専門職大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修

了した者

- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする研究科において、当該研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
- (10) 大学又は専門職大学に3年以上在学した者であって、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの（当該単位の修得の状況及び法科大学院が当該法科大学院において必要とされる法学の基礎的な学識を有するかどうかを判定するために実施する試験の結果に基づき、これと同等以上の能力及び資質を有すると認められたものを含む。）
- (11) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの
- (12) 当該研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

第21条 修士課程、前期課程、生命機能研究科の博士課程又は法科大学院の課程の入学志願者は、入学願書に所定の書類を添えて提出しなければならない。

第22条 修士課程、前期課程又は生命機能研究科の博士課程の入学志願者に対しては、学力検査を行い、志望理由を記載した書類、成績証明書等を総合して、総長は、教授会の議を経て、入学を許可すべき者を決定する。

2 法科大学院の課程の入学志願者に対しては、高等司法研究科において定めるところにより選考の上、総長は、教授会の議を経て、入学を許可すべ

きを決定する。

第23条 後期課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 当該研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

第24条 後期課程の入学志願者に対しては、本学大学院において修士の学位を取得した者については、当該前期課程における学業成績及び修士論文等により、その他の志願者については、各研究科において定めるところにより、それぞれ選考の上、総長は、教授会の議を経て、入学を許可すべき者を決定する。

第24条の2 生命機能研究科の博士課程第3年次への入学志願者については、総長は、当該研究科において定めるところにより、教授会の議を経て、入学を許可することができる。

2 前項の規定により入学した者にかかる修了要件等については、当該研究科において別に定める。

第25条 医学・歯学・薬学の博士課程に入学することのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 大学の医学を履修する課程、歯学を履修する

- 課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程（以下「医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程」という。）を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
 - (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者
 - (7) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする研究科において、当該研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの
 - (8) 大学（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に4年以上在学した者であって、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの
 - (9) 外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国に

において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、当該研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められたもの

- (10) 当該研究科において、個別の入学資格審査により、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

第26条 医学・歯学・薬学の博士課程の入学志願者に対しては、各研究科において定めるところにより選考の上、総長は、教授会の議を経て、入学を許可すべき者を決定する。

第27条 第21条の規定は、後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程及び生命機能研究科の博士課程第3年次の入学志願者に準用する。

（在学年限）

第28条 修士課程及び前期課程には4年、後期課程には5年、医学・歯学・薬学の博士課程及び法科大学院の課程には6年、生命機能研究科の博士課程には7年を超えて在学することはできない。ただし、後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程、生命機能研究科の博士課程及び法科大学院の課程に限り、特別の事情があるときは、研究科教授会の議を経て、在学の年限を延長することができる。

- 2 学生が前項に規定する在学年限に達したときは、当該学生はその身分を失う。

（入学の時期等）

第29条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、研究科長が特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認めるときは、夏学期、秋学期及び冬学期の始めの始めに入学させることができる。

- 2 入学の手續、許可及び許可の取り消し並びに退学及び転学については、本学学部学則の規定を準用する。

3 次の各号のいずれかに該当する者が、その者に係る納付すべき入学料を所定の期日までに納付しないときは、当該学生は、その身分を失う。

(1)第38条第1項の規定により入学料の免除を願い出た者で、免除が不許可となったもの又は一部の免除が許可となったもの

(2)第38条の2の規定による入学料の徴収猶予の可否を決定された者

(休学)

第30条 休学期間は、修士課程及び前期課程においては2年、後期課程及び法科大学院の課程においては3年、医学・歯学・薬学の博士課程においては4年、生命機能研究科の博士課程においては5年を超えることができない。ただし、特別の事情があるときは、研究科教授会の議を経て、休学期間を延長することができる。

2 前項のほか、休学については本学学部学則の規定を準用する。

(留学)

第31条 外国の大学院に留学を志望する学生は、研究科長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項により留学した期間は、第2条第2項、第3項、第5項及び第6項に規定する修業年限に算入するものとする。

(転科等)

第32条 転科又は専攻の変更を志願するときは、志願先の研究科長は、選考の上教授会の議を経て、転科又は専攻の変更を許可することがある。

2 再入学を志願するとき並びに他の大学院及び国際連合大学から転学を志願するときは、総長は、選考の上教授会の議を経て、再入学又は転学を許可することがある。

3 前2項の場合において、既に修得した授業科目の単位及び在学期間の認定は、当該研究科教授会の議を経て研究科長が行うものとする。

第5章 除籍、復籍及び懲戒

(除籍等)

第33条 除籍、復籍及び懲戒については、本学学部学則の規定を準用する。

第6章 検定料、入学料及び授業料

(検定料の納付)

第34条 入学を志願する者は、願書提出と同時に、検定料を納付しなければならない。ただし、本学大学院の修士課程、前期課程又は法科大学院の課程を修了し、引き続き後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程又は生命機能研究科の博士課程第3年次に入学を志願する者については、検定料を徴収しない。

2 前項の規定は、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の大学院修士課程、前期課程又は法科大学院若しくは教職大学院の課程を修了し、引き続き大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所に入学を志願する者について準用する。

(入学料の納付)

第35条 入学に当たっては、所定の期日までに、入学料を納付しなければならない。ただし、本学大学院の修士課程、前期課程又は法科大学院の課程を修了し、引き続き後期課程、医学・歯学・薬学の博士課程又は生命機能研究科の博士課程第3年次に入学する者については、入学料を徴収しない。

2 前項の規定は、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の大学院修士課程、前期課程又は法科大学院若しくは教職大学院の課程を修了し、引き続き大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所に入学を志願する者について準用する。

(授業料の納付)

第36条 大学院学生は、授業料を毎年前期（4月から9月まで）及び後期（10月から翌年3月まで）の2期に分けて、所定の期日までに、年額の2分の1ずつ納付しなければならない。

2 授業料の納付及び月割分納等については、本学学部学則の規定を準用する。

(検定料、入学料及び授業料の額)

第37条 第34条の検定料、第35条の入学料及び第36条の授業料の額は、大阪大学学生納付金規程（以下「納付金規程」という。）の定めるところによる。

(検定料の免除)

第37条の2 検定料の免除については、本学学部学則の規定を準用する。

(入学料の免除等)

第38条 本学大学院に入学する者（科目等履修生、聴講生又は研究生として入学する者を除く。以下この項において同じ。）であって、経済的理由によって入学料の納付が困難であると認められるもの及びこれに該当しない者であっても、次の各号のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められるものには、別に定めるところにより、入学料の全部又は一部を免除することができる。

- (1) 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下この号において「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合
 - (2) 前号に準ずる場合であって、総長が相当と認める事由がある場合
- 2 第29条第3項の規定により学生の身分を失った場合は、当該学生に係る入学料の全部又は一部を免除することができる。

第38条の2 前条に規定するもののほか、入学料の免除及び徴収猶予については、本学学部学則の規定を準用する。

(授業料の免除等)

第39条 授業料の免除及び徴収猶予については、本学学部学則の規定を準用する。

(納付済の検定料、入学料及び授業料)

第39条の2 納付済の検定料、入学料及び授業料は返付しない。

- 2 第22条第2項に規定する法科大学院の課程の入学志願者に対する選考において、出願書類等による選抜（以下「第1段階目の選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下「第2段階目の選抜」という。）を行う場合は、前項の規定にかかわらず、第1段階目の選抜に合格しなかった者に対し、当該者の申出により、前項の検定料のうち、納付金規程第2条第5項において定める第2段階目の選抜に係る検定料相当額を返付する。
- 3 第36条第2項の規定により、学部学則第46条第2項の規定を準用して前期分の授業料納付の際、後期分授業料を併せて納付した者が、前期末までに休学又は退学した場合は、納付した者の申出に

より後期分授業料相当額を返付する。

第7章 収容定員

(収容定員)

第40条 本学大学院の収容定員は、別表のとおりとする。

第8章 特別研究学生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人留学生

(特別研究学生等)

第41条 本学大学院に特別研究学生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人留学生の制度を置く。

- 2 他の大学院、外国の大学院又は国際連合大学の教育課程に在学する学生で、本学大学院又は本学の研究所（各附置研究所、各学内共同教育研究施設、各全国共同利用施設及び免疫学フロンティア研究センターをいう。）において研究指導を受けようとするものがあるときは、研究科長又は研究所の長は、これを特別研究学生として入学を許可することができる。
- 3 特別研究学生の授業料及びその納付については、本学学部学則の研究生に関する規定を準用する。ただし、特別研究学生が国立大学の大学院の学生であるとき又は本学と相互に授業料の不徴収を定めた大学間特別研究学生交流協定（部局間交流協定を含む。）に基づき研究指導を受ける公立若しくは私立の大学の大学院の学生であるときは、授業料を徴収しない。
- 4 特別研究学生に係る検定料及び入学料は徴収しない。
- 5 特別研究学生の除籍については、本学学部学則の研究生に関する規定を準用する。
- 6 特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生については、本学学部学則の特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び研究生に関する規定を準用する。
- 7 外国人で、留学のため本学に大学院学生、特別研究学生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生又は研究生として入学する者を外国人留学生という。
- 8 第3項本文、第6項及び第7項の規定にかかわ

らず、国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年3月31日文部大臣裁定）に基づき入学する者及び本学と外国の大学等との間において相互に検定料、入学料及び授業料の不徴収を定めた大学間交流協定（部局間交流協定を含む。）に基づき入学する者については、検定料、入学料及び授業料を徴収しない。

第9章 特別の課程

（履修証明プログラム）

- 第41条の2** 本学に、本学の学生以外の者を対象とした学校教育法第105条に規定する特別の課程として、大学院科目等履修生高度プログラムその他の履修証明プログラムを編成することができる。
- 2 前項に定めるもののほか、大学院科目等履修生高度プログラムその他の履修証明プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

第10章 学年、学期及び休業日

（学年等）

- 第42条** 学年、学期及び休業日については、本学学部学則の規定を準用する。

第11章 教員組織

（教員組織）

- 第43条** 本学大学院を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師及び助教とする。
- 2 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科の教育研究は、本学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の協力により実施する。

第12章 研究科委員会等

（研究科委員会等）

- 第44条** 研究科教授会の審議事項のうち、特定の事項について審議を行うため、当該研究科に研究科委員会等を置くことができる。
- 2 研究科委員会等の組織は、当該研究科の定めるところによる。

第13章 国際連携専攻に関する特例

（国際連携専攻の設置）

- 第45条** 研究科（高等司法研究科を除く。以下同じ。）

は、教育上の目的を達成するために必要があると認める場合には、外国の大学院（国際連合大学を含む。以下同じ。）と連携して教育研究を実施するための専攻（以下「国際連携専攻」という。）を設けることができる。

（国際連携教育課程の編成）

- 第46条** 国際連携専攻を設ける研究科は、第5条の3及び第5条の4第1項の規定にかかわらず、国際連携専攻において連携して教育研究を実施する一以上の外国の大学院（以下「連携外国大学院」という。）が開設する授業科目を当該研究科の教育課程の一部とみなして、当該連携外国大学院と連携した教育課程（以下「国際連携教育課程」という。）を編成することができる。

（共同開設科目）

- 第47条** 国際連携専攻を設ける研究科は、第5条の3及び第5条の4第1項の規定にかかわらず、連携外国大学院と共同して授業科目を開設することができる。
- 2 国際連携専攻を設ける研究科が前項の授業科目（以下この項において「共同開設科目」という。）を開設した場合、当該国際連携専攻の学生が当該共同開設科目の履修により修得した単位は、5単位を超えない範囲で、当該研究科又は連携外国大学院のいずれかにおいて修得した単位とすることができる。ただし、連携外国大学院において修得した単位数が、第49条第1項及び第2項の規定により連携外国大学院において修得することとされている単位数に満たない場合は、共同開設科目の履修により修得した単位を連携外国大学院において修得した単位とすることはできない。

（国際連携教育課程に係る単位の認定等）

- 第48条** 国際連携専攻を設ける研究科は、学生が連携外国大学院において履修した国際連携教育課程に係る授業科目について修得した単位を、当該国際連携教育課程に係る授業科目の履修により修得したものとみなすものとする。
- 2 国際連携専攻を設ける研究科は、学生が連携外国大学院において受けた国際連携教育課程に係る研究指導を、当該国際連携教育課程に係るものとみなすものとする。

（国際連携専攻に係る修了要件）

- 第49条** 国際連携専攻の修士課程又は前期課程の修

了の要件は第15条第1項に、同専攻の医学・歯学・薬学の博士課程を除く博士課程の修了の要件は同条第4項及び第5項に、同専攻の医学・歯学・薬学の博士課程の修了の要件は同条第6項に、それぞれ定めるもののほか、国際連携専攻を設ける研究科において国際連携教育課程に係る授業科目の履修により15単位以上を修得するとともに、それぞれの連携外国大学院において当該国際連携教育課程に係る授業科目の履修により10単位以上を修得することとする。

- 2 前項により国際連携専攻を設ける研究科及びそれぞれの連携外国大学院において国際連携教育課程に係る授業科目の履修により修得する単位数には、第8条若しくは第8条の2又は第48条第1項の規定により充当することができ、又は修得したものと認定することができ、若しくは修得したものとしてみなすものとする単位を含まないものとする。ただし、第8条の2の規定により修得したものと認定することができる単位について、国際連携教育課程を編成し、及び実施するために特に必要と認められる場合は、この限りでない。

(国際連携専攻学生の授業料等)

第50条 国際連携専攻の学生のうち、連携外国大学院を主として入学する学生の本学における検定料、入学科及び授業料については、第34条本文、第35条本文及び第36条第1項の規定にかかわらず、その全額を徴収しない。

(その他)

第51条 本学則に定めるもののほか、国際連携専攻に係る次の各号に掲げる事項については、あらかじめ当該専攻を設ける研究科と連携外国大学院との協議により、別に定める。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 教育組織の編成に関する事項
- (3) 入学者の選抜及び学位の授与に関する事項
- (4) 学生の在籍の管理及び安全に関する事項
- (5) 学生の奨学及び厚生補導に関する事項
- (6) 教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- (7) その他国際連携専攻に関する事項

附 則

- 1 この学則は、昭和50年4月16日から施行し、昭

和50年4月1日から適用する。

(略)

附 則

- 1 この改正は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 薬学研究科創成薬学専攻の修士課程は、改正後の第2条第1項及び第3条第1項の規定にかかわらず、平成24年3月31日に当該課程に在学する者が当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 経済学研究科政策専攻の前期課程は、改正後の第2条第7項の規定にかかわらず、平成24年3月31日に当該課程に在学する者が当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 4 歯学研究科統合機能口腔科学専攻及び分子病態口腔科学専攻並びに薬学研究科分子薬科学専攻、応用医療薬科学専攻及び生命情報環境科学専攻は、改正後の第3条第1項の規定にかかわらず、平成24年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 5 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科は、改正後の第3条第1項の規定にかかわらず、平成24年3月31日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則

この改正は、平成24年5月16日から施行する。

附 則

この改正は、平成24年5月28日から施行し、平成24年度入学者から適用する。

附 則

この改正は、平成24年7月6日から施行する。

附 則

この改正は、平成24年7月18日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日現在医学系研究科の修士課程に在学中の者については、改正後の第17条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この改正は、平成25年12月18日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成26年4月1日から施行する。

- 2 経済学研究科政策専攻は、改正後の第3条第1項の規定にかかわらず、平成26年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則

この改正は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成28年4月1日から施行する。
2 人間科学研究科グローバル人間学専攻は、改正後の第3条第1項の規定にかかわらず、平成28年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則

この改正は、平成28年6月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成28年10月19日から施行する。

附 則

この改正は、平成29年3月21日から施行する。
ただし、第29条、第50条及び別表の改正規定は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成29年6月21日から施行する。

附 則

この改正は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成31年4月1日から施行する。
2 平成31年3月31日現在在学中の者（以下この項において「在学者」という。）及び平成31年4月1日以降において在学者の属する年次に編入学、再入学又は転入学する者については、改正後の第5条の3、第5条の4第1項、第5条の5第1項、第46条及び第47条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 3 大阪大学博士課程教育リーディングプログラム「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」規程（平成24年3月21日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「第5条の5」を「第5条の6」に改める。

附 則

- 1 この改正は、令和2年4月1日から施行する。
2 工学研究科生命先端工学専攻、応用化学専攻、精密科学・応用物理学専攻、知能・機能創成工学

専攻、機械工学専攻、マテリアル生産科学専攻、電気電子情報工学専攻及び環境・エネルギー工学専攻は、改正後の第3条第1項の規定にかかわらず、令和2年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

別表1（大学院収容定員表）略

3) 大阪大学大学院理学研究科規程

(趣旨及び目的)

第1条 この規程は、大阪大学大学院学則及び大阪大学学位規程に基づき、大阪大学大学院理学研究科（以下「本研究科」という。）における必要な事項を定めるものとする。

2 本研究科は、柔軟な発想と論理的思考に基づいた問題設定及び課題探求の能力を養うことにより、自然科学への知的好奇心や真理探究に喜びを感じる感性を備えた創造性豊かな研究者及び社会のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる人材を養成することを目的とする。

(課程及び専攻)

第2条 本研究科の課程は、博士課程とする。

2 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「後期課程」という。）に区分する。

3 本研究科に次の専攻を置く。

数学

物理学

化学

生物科学

高分子科学

宇宙地球科学

4 博士課程に、卓越大学院プログラム「多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム」（以下「先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム」という。）を設ける。

5 博士課程に、大阪大学理工情報系オナー大学院プログラム（以下「オナー大学院プログラム」という。）を設ける。

(教育方法等)

第2条の2 本研究科の教育は、研究指導及び授業科目の授業によって行い、各専攻別の授業科目及びその単位数は、別表1及び別表2のとおりとする。

2 前項に規定する授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

(1) 講義は、15時間をもって1単位とする。

(2) 演習は、30時間をもって1単位とする。

(3) 実習は、45時間をもって1単位とする。

(指導教員)

第3条 学生には、指導教員を定める。

2 指導教員は、専攻担当の教授とする。ただし、必要があるときは、研究科委員会の議を経て研究科長が認めた准教授又は専任講師をもって代えることができる。

(履修計画)

第4条 学生は、指導教員の指示を受けて、履修する授業科目等について、履修計画を毎年指定する期日までに届け出なければならない。

(前期課程の履修方法)

第5条 前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、各専攻（国際物理特別コースに入学を許可された学生にあつては、当該コース）が定める履修方法に基づき、別表1に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、統合理学特別コースに入学を許可された学生は、必要な研究指導を受けるほか、指導教員の指示に従い、別表2に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めたときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

3 前2項の規定にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表3に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。

4 前項の場合において、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表3に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めたときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

- 5 前2項に定めるもののほか、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
 - 6 前各項の規定にかかわらず、オナー大学院プログラムを履修する前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表4に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。
 - 7 前項の場合において、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表4に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
 - 8 前2項に定めるもののほか、オナー大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
 - 9 学生は、大学院横断教育科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
 - 10 学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、リーディング科目又はグローバルイニシアティブ科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
 - 11 学生は、他の専攻又は他の研究科の授業科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
 - 12 研究指導については、研究概要を毎年指定する期日までに研究科長に報告しなければならない。
- (後期課程の履修方法)**
- 第6条** 後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、各専攻（国際物理特別コースに入学を許可された学生にあつては、当該コース）が定める履修方法に基づき、別表1に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。
- 2 前項の規定にかかわらず、統合理学特別コースに入学を許可された学生は、必要な研究指導を受けるほか、指導教員の指示に従い、別表2に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表3に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。
 - 4 前項の場合において、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表3に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
 - 5 前2項に定めるもののほか、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
 - 6 前各項の規定にかかわらず、オナー大学院プログラムを履修する後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表4に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。
 - 7 前項の場合において、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表4に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
 - 8 前2項に定めるもののほか、オナー大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
 - 9 特別講義は、随時実施されるもの及び本研究科の前期課程又は他の研究科の授業科目のうち、指導教員が履修を指示したものとする。
 - 10 学生は、大学院横断教育科目を履修すること

ができる。

- 1 1 学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、リーディング科目又はグローバルイニシアティブ科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
- 1 2 研究指導については、研究概要を毎年指定する期日までに研究科長に報告しなければならない。

(長期にわたる課程の履修)

第6条の2 研究科長は、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 前項の規定により計画的な履修を許可された学生に関し必要な事項は、別に定める。

(履修認定)

第7条 履修認定は、試験により授業科目担当教員が行い、これに合格した学生に対しては、当該授業科目所定の単位を与える。

- 2 試験の期日は、授業が終了した際、授業科目担当教員が適宜定める。

(修士論文及び最終試験)

第8条 修士論文は、所定の用紙により2通作成し、指定する期日までに提出するとともに、所定の様式によりその審査と最終試験の受験とを併せて申請しなければならない。

- 2 提出された論文の審査及び最終試験は、3名以上の審査委員により行うものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する前期課程の学生については、研究科委員会が当該博士課程の目的を達成するために必要と認める場合には、論文の審査及び最終試験に代えて、大学院学則第15条第2項で定める試験及び審査を行うことができる。
- 4 前項に規定する大学院学則第15条第2項で定める試験及び審査の方法に関し必要な事項は、別に定める。

(博士論文及び最終試験)

第9条 後期課程の学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、指定する期日又はその時期以後は随時に博士論文を提出するとともに、所定の様式によりその審査と最終試験の受験とを併せて申請することができる。

- 2 後期課程に3年以上在学し、所定の教育課程の履修を終えて退学した者が、別に定める期間内に博士論文を提出する場合についても前項同様とする。

- 3 前2項の申請に当たっては、提出する論文に、その目録、内容の要旨（論文が邦文によるときは欧文の梗概を付する。）及び履歴書を添付しなければならない。

- 4 提出された論文の審査及び最終試験は、3名以上の審査委員により行うものとする。

(最終試験の方法)

第10条 最終試験は、提出された論文の審査後において、審査委員会が適宜日時を定めて行う。その方法は、提出論文を中心として、それに関連ある科目について口頭試問又は筆答試問により行うものとする。ただし、公開研究業績発表会における当該申請者の発表をもってこれに代えることができる。

(他の大学院又は外国の大学院の教育課程の履修)

第11条 研究科委員会の議を経て研究科長が教育上有益と認める場合には、他の大学院又は外国の大学院の授業科目を第2条の2に規定する各専攻の授業科目として履修することができる。

- 2 前項のほか、研究科委員会の議を経て研究科長が教育上有益と認める場合には、他の大学院等又は外国の大学院等で研究指導を受けることができる。ただし、研究指導を受ける期間は、前期課程の学生にあつては、1年を超えることはできない。
- 3 前2項の規定による履修を志願する学生は、あらかじめ所定の手続によって申請し、許可を得なければならない。

第12条 前条の規定により、他の大学院等又は外国の大学院等において修得した単位等については、研究科長は、審査の上、第5条及び第6条に規定する授業科目の単位又は研究指導として認定することができる。

- 2 前項の規定により認定できる単位数は、10単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第13条 研究科委員会の議を経て研究科長が教育上有益と認める場合には、本研究科入学前に大学院において修得した授業科目の単位（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に規定する

科目等履修生として修得した単位を含む。)について、審査の上、前条の規定により認定する単位とは別に、10単位を超えない範囲で、第5条及び第6条に規定する授業科目の単位として認定することがある。

(特別研究学生及び特別聴講学生)

第14条 本研究科において研究指導を受けようとする他の大学院に在学中の者又は本研究科において授業科目を履修しようとする他の大学院若しくは外国の大学院に在学中の者は、所定の手続に従い研究科長に願ひ出るものとする。

2 前項による志願者については、研究科長は、選考の上、研究指導を受ける者を特別研究学生として、また、授業科目を履修する者を特別聴講学生として、入学を許可することがある。

第15条 特別研究学生の在学期間は、1年とする。ただし、必要により更に在学を希望する者は、研究科長に、1年ごとに期間の延長を願ひ出て、許可を得なければならない。

2 特別聴講学生の在学期間は、履修する授業科目所定の授業期間とする。

第16条 特別聴講学生の履修認定、成績及び試験については、第7条の規定を準用する。

(科目等履修生)

第17条 科目等履修生は、正規学生の学修に差し支えない限り、次の各号のいずれかに該当する者について研究科長が選考の上、入学を許可する。

- (1) 大学若しくは専門職大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者
- (2) その他本研究科において研究科長が適当と認める者

2 科目等履修生の入学手続、入学時期及び在学期間は、本学理学部規程第25条及び第26条の規定を準用する。

3 科目等履修生の履修認定、成績及び試験については、第7条の規定を準用する。

4 科目等履修生で単位を修得した者には、証明書を交付することができる。

(研究生)

第18条 研究生は、設備に差し支えない限り、次の各号のいずれかに該当する者について研究科長が選考の上、入学を許可する。

- (1) 修士の学位を有する者

(2) 本研究科において研究科長が前号と同等以上の学力があると認める者

2 研究生の入学手続、入学時期、指導教員、在学期間、攻究報告及び攻究証明については、本学理学部規程第15条から第20条までの規定を準用する。

(規格外事項の処理)

第19条 この規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、研究科委員会の議を経て研究科長が定める。

附 則

(略)

附 則

- 1 この改正は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
素粒子物理学序説 (2単位)	素粒子物理学序論A (2単位)
素粒子・核反応学 (2単位)	原子核反応学 (2単位)
加速器・計測学 (2単位)	加速器物理学 (2単位)
同位体宇宙地球科学Ⅰ (2単位)	同位体宇宙地球科学 (2単位)
同位体宇宙地球科学Ⅱ (2単位)	地球内部構造論 (2単位)
物質構造学 (2単位)	極限物質構造学 (2単位)

附 則

- 1 この改正は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
磁性物理学序説 (2単位)	物性物理学3序説 (2単位)

附 則

- 1 この改正は、平成15年4月1日から施行する。

2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
物性物理学3序説 (2単位)	物性物理学序説 (2単位)
原子核理論I (2単位)	原子核理論 (2単位)
原子核理論特論I (2単位)	原子核理論特論 (2単位)
生体機能物質学 セミナーII (9単位)	生体機能物質学 セミナー (9単位)
蛋白質反応機構学 セミナーII (9単位)	蛋白質反応機構学 セミナー (9単位)
蛋白質生理機能学 セミナーII (9単位)	蛋白質生理機能学 セミナー (9単位)
蛋白質細胞生物学 セミナーII (9単位)	蛋白質細胞生物学 セミナー (9単位)
代謝調節機構学 セミナーII (9単位)	代謝調節機構学 セミナー (9単位)
遺伝子機能学 セミナーII (9単位)	遺伝子機能学 セミナー (9単位)
情報伝達機構学 セミナーII (9単位)	情報伝達機構学 セミナー (9単位)
遺伝子情報学 セミナーII (9単位)	遺伝子情報学 セミナー (9単位)
糖鎖生化学 セミナーII (9単位)	糖鎖生化学 セミナー (9単位)
極限生物学 セミナーII (9単位)	極限生物学 セミナー (9単位)
分子神経生物学 セミナーII (9単位)	分子神経生物学 セミナー (9単位)
蛋白質化学 セミナーII (9単位)	蛋白質化学 セミナー (9単位)
蛋白質物理化学 セミナーII (9単位)	蛋白質物理化学 セミナー (9単位)
構造分子生物学 セミナーII (9単位)	構造分子生物学 セミナー (9単位)
生体膜分子生化学 セミナーII (9単位)	生体膜分子生化学 セミナー (9単位)
細胞機能構造学 セミナーII (9単位)	細胞機能構造学 セミナー (9単位)
代謝機能生物学 セミナーII (9単位)	代謝機能生物学 セミナー (9単位)
生命誌学セミナーII (9単位)	生命誌学セミナー (9単位)

附 則

- 1 この改正は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成17年4月1日から施行する。

2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

この改正は、平成17年12月16日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

この改正は、平成22年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この改正は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得

単位数に算入するものとする。

- 3 平成23年3月31日現在統合理学特別コースに在学する者については、改正後の別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この改正は、平成23年10月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表2の規定にかかわらず、第5条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項及び第2項並びに第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成26年10月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項及び第2項並びに第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項及び第2項並びに第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成27年10月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日現在在学中の者については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

附 則

- 1 この改正は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年3月31日現在前期課程に在学中の者については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 前項の場合における改正前の別表1の適用につ

いては、化学専攻（前期課程）の表中「

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	界面分析化学(I)	1	
-----------------------	-----------------------	-----------	---	--

」とあるのは「

<input type="radio"/>		界面分析化学(I)	1	
-----------------------	--	-----------	---	--

」と、

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	量子化学(I)	1	
-----------------------	-----------------------	---------	---	--

」とあるのは「

<input type="radio"/>		量子化学(I)	1	
-----------------------	--	---------	---	--

」と、

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	ゲノム化学(I)	1	
-----------------------	-----------------------	----------	---	--

」とあるのは「

<input type="radio"/>		ゲノム化学(I)	1	
-----------------------	--	----------	---	--

」と、

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	蛋白質分子化学(I)	1	
-----------------------	-----------------------	------------	---	--

」とあるのは「

<input type="radio"/>		蛋白質分子化学(I)	1	
-----------------------	--	------------	---	--

」と、

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	生体分子化学(II)	1	
-----------------------	-----------------------	------------	---	--

」とあるのは「

<input type="radio"/>		生体分子化学(II)	1	
-----------------------	--	------------	---	--

」と、

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	物性有機化学(I)	1	
-----------------------	-----------------------	-----------	---	--

」とあるのは「

<input type="radio"/>		物性有機化学(I)	1	
-----------------------	--	-----------	---	--

」と、それぞれ読み替えるものとし、数学専攻（前期課

程）の表中に「

	<input type="radio"/>	実践科学英語A	1	
	<input type="radio"/>	実践科学英語B	1	

」を、物理学専攻（前期課程）の表中に「

<input type="radio"/>		Electrodynamics and Quantum Mechanic	1	
	<input type="radio"/>	実践科学英語A	1	
	<input type="radio"/>	実践科学英語B	1	
<input type="radio"/>		物性理論半期セミナーIV	4.5	
<input type="radio"/>		原子核実験半期セミナー	4.5	
	<input type="radio"/>	海外文献研究（物性理論IV）	1	

」を、化学専攻（前期課程）の表中に「

<input type="radio"/>		大学院有機化学 I	2	
<input type="radio"/>		大学院有機化学 II	2	
	<input type="radio"/>	Biomolecular Chemistry	1	
	<input type="radio"/>	Analytical Chemistry for Interface	1	

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Chemistry on Catalysis	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Genome Chemistry	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Natural Product Chemistry	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Organic Biochemistry	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Physical Organic Chemistry	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Protein Chemistry	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Quantum Chemistry	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Structural Organic Chemistry	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Thermal and Entropic Science	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	熱・エントロピー科学(I)	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	複合分子化学(I)	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	実践科学英語A	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	実践科学英語B	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	複合分子化学特論	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	熱・エントロピー科学特論	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	熱・エントロピー科学半期セ ミナー I	4.5	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	熱・エントロピー科学半期セ ミナー II	4.5	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	複合分子化学半期セミナー I	4.5	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	複合分子化学半期セミナー II	4.5	

」を、生物科学専攻（前期課程）の表中に「

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	実践科学英語A	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	実践科学英語B	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	生物無機化学半期セミナー	4.5	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	生体統御学半期セミナー	4.5	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	RNA 生物学半期セミナー	4.5	

」を、高分子科学専攻（前期課程）の表中に「

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	高分子キャラクタリゼーショ ン特論	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	高分子材料設計学特論	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	蛋白質構造基礎論3	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	実践科学英語A	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	実践科学英語B	1	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	生体高分子電子線構造解析学 半期セミナー	4.5	

」を、宇宙地球科学専攻（前期課程）の表中に「

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	非平衡物理学	2	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	理論物質学セミナー	4.5	

○		ソフトマター地球惑星科学セ ミナー	4.5	
	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	

」をそれぞれ加えるものとする。

3 第2項の場合における改正前の別表2の適用については、化学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）、生物科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）及び高分子科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）の表中に「

		Thermal and Entropic Science	1	
--	--	------------------------------	---	--

」を加えるものとする。

4 令和2年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の第2条第4項及び第5項、第6条並びに別表1、別表2、別表3及び別表4の規定にかかわらず、なお従前の例による。この場合における改正前の別表1の適用については、数学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	

」を、物理学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		物性理論特別セミナーIV	9	

」を、化学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		熱・エントロピー科学特別セ ミナーI	9	
○		熱・エントロピー科学特別セ ミナーII	9	
○		熱・エントロピー科学特別セ ミナーIII	9	
○		複合分子化学特別セミナーI	9	
○		複合分子化学特別セミナーII	9	
○		複合分子化学特別セミナーIII	9	

」を、生物科学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		生物無機化学特別セミナー	9	
○		生体統御学特別セミナー	9	
○		RNA生物学特別セミナー	9	

」を、高分子科学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
--	---	---------	---	--

	○	実践科学英語B	1	
○		生体高分子電子線構造解析学 特別セミナー	9	

」を、宇宙地球科学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		理論物質学特別セミナー	9	
○		ソフトマター地球惑星科学特 別セミナー	9	

」をそれぞれ加えるものとする。

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

数学専攻
(前期課程)

専門教育科目	高度教育課程 高度国際性 演義教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教育課程 高度国際性 演義教育科目	授業科目	単位	備考
○		代数学概論Ⅰ	2		○		科学論文作成概論	0.5	
○		代数学概論Ⅱ	2		○		○ 研究実践特論	0.5	
○		代数幾何学概論Ⅰ	2		○		○ 企業研究者特別講義	0.5	
○		代数幾何学概論Ⅱ	2		○		実践科学英語A	1	
○		整数論概論Ⅰ	2		○		○ 実践科学英語B	1	
○		整数論概論Ⅱ	2		○		○ 科学英語基礎	1	
○		表現論概論	2		○		放射線計測学概論1	1	
○		幾何学概論Ⅰ	2		○		○ 放射線計測学概論2	1	
○		幾何学概論Ⅱ	2		○		○ 先端機器制御学	2	
○		微分幾何学概論Ⅰ	2		○		○ 分光計測学	2	講義・実習
○		微分幾何学概論Ⅱ	2		○		○ 放射線計測応用1	1	講義・実習
○		位相幾何学概論Ⅰ	2		○		○ 放射線計測応用2	1	講義・実習
○		位相幾何学概論Ⅱ	2		○		○ 先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○		複素幾何学概論Ⅰ	2		○		○ 先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○		複素幾何学概論Ⅱ	2		○		○ 先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○		解析学概論Ⅰ	2		○		○ 先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○		解析学概論Ⅱ	2		○		○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○		関数解析学概論	2		○		○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○		微分方程式概論Ⅰ	2		○		○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○		微分方程式概論Ⅱ	2		○		○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○		確率論概論Ⅰ	2		○		○ ナノフォトニクス学	1	実習
○		確率論概論Ⅱ	2		○		○ 保険数理学特論ⅠC	2	
○		代数学概論	2		○		○ 保険数理学特論ⅢA	2	
○		力学系概論	2		○		○ 保険数理学特論ⅢB	2	
○		統計・情報数学概論	2		○		○ 数学特別講義ⅠA	1	
○		実験数学概論Ⅰ	2		○		○ 数学特別講義ⅠB	1	
○		実験数学概論Ⅱ	2		○		○ 数学特別講義ⅡA	1	
○		組合せ論概論	2		○		○ 数学特別講義ⅡB	1	
○		応用数理学概論Ⅰ	2		○		○ 数学特別講義ⅢA	1	
○		応用数理学概論Ⅱ	2		○		○ 数学特別講義ⅢB	1	
○		数理物理学概論Ⅰ	2		○		○ 数学特別講義ⅣA	1	
○		数理物理学概論Ⅱ	2		○		○ 数学特別講義ⅣB	1	
○		現代数理学概論	2		○		○ 数学特別講義ⅤA	1	
○		複雑系概論	2		○		○ 数学特別講義ⅤB	1	
○		数理工学概論	2		○		○ 数学特別講義ⅥA	1	
○		代数学特論	2		○		○ 数学特別講義ⅥB	1	
○		代数幾何学特論	2		○		○ 数学特別講義ⅦA	1	
○		整数論特論	2		○		○ 数学特別講義ⅦB	1	
○		表現論特論	2		○		○ 数学特別講義ⅧA	1	
○		幾何学特論	2		○		○ 数学特別講義ⅧB	1	
○		解析学特論	2		○		○ 数学特別講義ⅨA	1	
○		関数解析学特論	2		○		○ 数学特別講義ⅨB	1	
○		微分方程式特論	2		○		○ 数学特別講義ⅩA	1	
○		確率論特論	2		○		○ 数学特別講義ⅩB	1	
○		応用数理学特論Ⅰ	2		○		○ 代数学基礎セミナーⅠ	9	
○		応用数理学特論Ⅱ	2		○		○ 代数学基礎セミナーⅡ	9	
○		数理物理学特論	2		○		○ 幾何学基礎セミナーⅠ	9	
○		○ 科学技術論A1	1		○		○ 幾何学基礎セミナーⅡ	9	
○		○ 科学技術論A2	1		○		○ 解析学基礎セミナーⅠ	9	
○		○ 科学技術論B1	1		○		○ 解析学基礎セミナーⅡ	9	
○		○ 科学技術論B2	1		○		○ 大域数理学基礎セミナーⅠ	9	
○		○ 研究者倫理特論	0.5		○		○ 大域数理学基礎セミナーⅡ	9	

専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○			実験数学基礎セミナーⅠ	9		○			海外文献研究(応用数理学Ⅱ)	1	
○			実験数学基礎セミナーⅡ	9		○			海外文献研究(現代数理学)	1	
○			応用数理学基礎セミナーⅠ	9		○			代数学セミナーⅠ	9	
○			応用数理学基礎セミナーⅡ	9		○			代数学セミナーⅡ	9	
○			現代数理学基礎セミナー	9		○			幾何学セミナーⅠ	9	
○	○		海外文献研究(代数学Ⅰ)	1		○	○		幾何学セミナーⅡ	9	
○	○		海外文献研究(代数学Ⅱ)	1		○	○		解析学セミナーⅠ	9	
○	○		海外文献研究(幾何学Ⅰ)	1		○	○		解析学セミナーⅡ	9	
○	○		海外文献研究(幾何学Ⅱ)	1		○	○		大域数理学セミナーⅠ	9	
○	○		海外文献研究(解析学Ⅰ)	1		○	○		大域数理学セミナーⅡ	9	
○	○		海外文献研究(解析学Ⅱ)	1		○	○		実験数学セミナーⅠ	9	
○	○		海外文献研究(大域数理学Ⅰ)	1		○	○		実験数学セミナーⅡ	9	
○	○		海外文献研究(大域数理学Ⅱ)	1		○	○		応用数理学セミナーⅠ	9	
○	○		海外文献研究(実験数学Ⅰ)	1		○	○		応用数理学セミナーⅡ	9	
○	○		海外文献研究(実験数学Ⅱ)	1		○	○		現代数理学セミナー	9	
○	○		海外文献研究(応用数理学Ⅰ)	1							

(後期課程)

専門教育科目 高度国際性 高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目 高度国際性 高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○	特別講義ⅠA	1		○	放射線計測学概論1	1	
○	特別講義ⅠB	1		○	放射線計測学概論2	1	
○	特別講義ⅡA	1		○	先端機器制御学	2	
○	特別講義ⅡB	1		○	分光計測学	2	
○	特別講義ⅢA	1		○	放射線計測応用1	1	講義・実習
○	特別講義ⅢB	1		○	放射線計測応用2	1	講義・実習
○	特別講義ⅣA	1		○	先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○	特別講義ⅣB	1		○	先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○	特別講義ⅤA	1		○	先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○	特別講義ⅤB	1		○	先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○	特別講義ⅥA	1		○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○	特別講義ⅥB	1		○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○	特別講義ⅦA	1		○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○	特別講義ⅦB	1		○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○	特別講義ⅧA	1		○	ナノフォトニクス学	1	実習
○	特別講義ⅧB	1		○	産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
○	特別講義ⅨA	1		○	高度学際萌芽研究訓練	5	
○	特別講義ⅨB	1		○	代数学特別セミナー1	9	
○	特別講義ⅩA	1		○	代数学特別セミナー2	9	
○	特別講義ⅩB	1		○	代数学特別セミナー3	9	
○	特別講義(S)Ⅰ	2		○	幾何学特別セミナー1	9	
○	特別講義(S)Ⅱ	2		○	幾何学特別セミナー2	9	
○	特別講義(S)Ⅲ	2		○	幾何学特別セミナー3	9	
○	○ 科学技術論A1	1		○	解析学特別セミナー1	9	
○	○ 科学技術論A2	1		○	解析学特別セミナー2	9	
○	○ 科学技術論B1	1		○	解析学特別セミナー3	9	
○	○ 科学技術論B2	1		○	応用数理学特別セミナー1	9	
○	○ 研究者倫理特論	0.5		○	応用数理学特別セミナー2	9	
○	○ 科学論文作成概論	0.5		○	応用数理学特別セミナー3	9	
○	○ 研究実践特論	0.5		○	大域数理学特別セミナー1	9	
○	○ 企業研究者特別講義	0.5		○	大域数理学特別セミナー2	9	
○	○ 学位論文作成演習	0.5		○	大域数理学特別セミナー3	9	
○	○ 高度理学特別講義	0.5		○	実験数学特別セミナー1	9	
○	○ 企業インターンシップ	1		○	実験数学特別セミナー2	9	
○	○ 海外短期留学	2		○	実験数学特別セミナー3	9	
○	○ 実践科学英語A	1		○	現代数理学特別セミナー1	9	
○	○ 実践科学英語B	1		○	現代数理学特別セミナー2	9	
○	○ 科学英語基礎	1		○	現代数理学特別セミナー3	9	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

物理学専攻
(前期課程)

専門教育科目	高度教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○		場の理論序説	2		○		荷電粒子光学概論	2	
○		原子核理論序説	2		○		孤立系イオン物理学	2	
○		散乱理論	2		○		量子多体制御物理学	2	
○		一般相対性理論	2		○		強磁場物理学	2	
○		素粒子物理学序論A	2		○		レーザー物理学	2	
○		素粒子物理学序論B	2		○		界面物性物理学	2	
○		原子核物理学序論	2		○		強相関物理学	2	
○		固体物理学概論1	2		○		重い電子系の物理	2	
○		固体物理学概論2	2		○		極限物質創成学	2	
○		固体物理学概論3	2		○		Electrodynamics and Quantum Mechanics	1	
○		光物性物理学	2		○		Quantum Field Theory I	2	
○		放射光物理学	2		○		Quantum Field Theory II	2	
○		極限光物理学	2		○		Introduction to Theoretical Nuclear Physics	2	
○		加速器科学	2		○		Quantum Many-body Systems	2	
○		自由電子レーザー学	2		○		Condensed Matter Theory	2	
○		複雑系物理学	2		○		Solid State Theory	2	
○		相転移論	2		○		High Energy Physics	2	
○		ニュートリノ物理学	2		○		Nuclear Physics in the Universe	2	
○		非線形物理学	2		○		Optical Properties of Matter	2	
○		原子核反応論	2		○		Synchrotron Radiation Spectroscopy	2	
○		素粒子物理学 I	2		○		Computational Physics	2	
○		素粒子物理学 II	2		○		科学技術論A1	1	
○		場の理論 I	2		○		科学技術論A2	1	
○		場の理論 II	2		○		科学技術論B1	1	
○		原子核理論	2		○		科学技術論B2	1	
○		物性理論 I	2		○		研究者倫理特論	0.5	
○		物性理論 II	2		○		科学論文作成概論	0.5	
○		固体電子論 I	2		○		研究実践特論	0.5	
○		固体電子論 II	2		○		企業研究者特別講義	0.5	
○		量子多体系の物理	2		○		実践科学英語A	1	
○		計算物理学	2		○		実践科学英語B	1	
○		素粒子物理学特論 I	2		○		科学英語基礎	1	
○		素粒子物理学特論 II	2		○		放射線計測学概論1	1	
○		原子核理論特論 I	2		○		放射線計測学概論2	1	
○		原子核理論特論 II	2		○		先端機器制御学	2	
○		物性理論特論 I	2		○		分光計測学	2	
○		物性理論特論 II	2		○		放射線計測応用1	1	講義・実習
○		高エネルギー物理学 I	2		○		放射線計測応用2	1	講義・実習
○		高エネルギー物理学 II	2		○		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○		原子核構造学	2		○		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○		加速器物理学	2		○		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○		放射線計測学	2		○		先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○		高エネルギー物理学特論 I	2		○		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○		高エネルギー物理学特論 II	2		○		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○		素粒子・核分光特論	2		○		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○		原子核物理学特論 I	2		○		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○		原子核物理学特論 II	2		○		ナノフォトニクス学	1	実習
○		ハドロン多体系物理学特論	2		○		素粒子論半期セミナー I	4.5	
○		半導体物理学	2		○		素粒子論半期セミナー II	4.5	
○		超伝導物理学	2		○		場の理論半期セミナー I	4.5	
○		量子分光学	2		○		場の理論半期セミナー II	4.5	
○		シンクロトン分光学	2		○		原子核理論半期セミナー I	4.5	

専門教育科目 高度国際性 高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目 高度国際性 高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○	原子核理論半期セミナーⅡ	4.5		○	海外文献研究(素粒子論Ⅱ)	1	
○	多体問題半期セミナーⅠ	4.5		○	海外文献研究(場の理論Ⅰ)	1	
○	多体問題半期セミナーⅡ	4.5		○	海外文献研究(場の理論Ⅱ)	1	
○	物性理論半期セミナーⅠ	4.5		○	海外文献研究(原子核理論Ⅰ)	1	
○	物性理論半期セミナーⅡ	4.5		○	海外文献研究(原子核理論Ⅱ)	1	
○	物性理論半期セミナーⅢ	4.5		○	海外文献研究(多体問題Ⅰ)	1	
○	物性理論半期セミナーⅣ	4.5		○	海外文献研究(多体問題Ⅱ)	1	
○	数理物理学半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(物性理論Ⅰ)	1	
○	高エネルギープラズマ物性理論半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(物性理論Ⅱ)	1	
○	高エネルギー物理学半期セミナーⅠ	4.5		○	海外文献研究(物性理論Ⅲ)	1	
○	高エネルギー物理学半期セミナーⅡ	4.5		○	海外文献研究(物性理論Ⅳ)	1	
○	クォーク核物理学半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(数理物理学)	1	
○	原子核実験学半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(高エネルギープラズマ物性理論)	1	
○	原子核反応半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(高エネルギー物理学Ⅰ)	1	
○	加速器科学半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(高エネルギー物理学Ⅱ)	1	
○	核反応計測学半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(クォーク核物理学)	1	
○	高エネルギー密度物理半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(原子核実験学)	1	
○	メソスコピック物理半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(原子核反応)	1	
○	質量分析物理半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(加速器科学)	1	
○	超伝導半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(核反応計測学)	1	
○	界面物性半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(高エネルギー密度物理)	1	
○	半導体半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(メソスコピック物理)	1	
○	量子物性半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(質量分析物理)	1	
○	光物性半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(超伝導)	1	
○	強磁場物理半期セミナー	4.5		○	海外文献研究(界面物性)	1	
○	Semestral SeminarⅠ	4.5		○	海外文献研究(半導体)	1	
○	Semestral SeminarⅡ	4.5		○	海外文献研究(量子物性)	1	
○	Semestral SeminarⅢ	4.5		○	海外文献研究(光物性)	1	
○	Semestral SeminarⅣ	4.5		○	海外文献研究(強磁場物理)	1	
○	海外文献研究(素粒子論Ⅰ)	1					

(後期課程)

専門教育科目	高度国際性 高度教育科目 高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 高度教育科目 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○		特別講義A I	1		○		科学英語基礎	1	
○		特別講義A II	1		○		放射線計測学概論1	1	
○		特別講義A III	1		○		放射線計測学概論2	1	
○		特別講義A IV	1		○		先端機器制御学	2	
○		特別講義A V	1		○		分光計測学	2	
○		特別講義B I	1		○		放射線計測応用1	1	講義・実習
○		特別講義B II	1		○		放射線計測応用2	1	講義・実習
○		特別講義B III	1		○		先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○		特別講義B IV	1		○		先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○		特別講義B V	1		○		先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○		特別講義C I	1		○		先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○		特別講義C II	1		○		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○		特別講義C III	1		○		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○		特別講義C IV	1		○		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○		特別講義C V	1		○		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○		特別講義A I (S)	1		○		ナノフォトニクス学	1	実習
○		特別講義A II (S)	1		○		産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
○		特別講義A III (S)	1		○		高度学際萌芽研究訓練	5	
○		特別講義A IV (S)	1		○		場の理論特別セミナー	9	
○		特別講義A V (S)	1		○		場の数理論特別セミナー	9	
○		特別講義B I (S)	1		○		素粒子論特別セミナー	9	
○		特別講義B II (S)	1		○		素粒子論的宇宙論特別セミナー	9	
○		特別講義B III (S)	1		○		原子核理論特別セミナー	9	
○		特別講義B IV (S)	1		○		多体問題特別セミナー	9	
○		特別講義B V (S)	1		○		物性理論特別セミナー I	9	
○		特別講義C I (S)	1		○		物性理論特別セミナー II	9	
○		特別講義C II (S)	1		○		物性理論特別セミナー III	9	
○		特別講義C III (S)	1		○		物性理論特別セミナー IV	9	
○		特別講義C IV (S)	1		○		統計物理学特別セミナー	9	
○		特別講義C V (S)	1		○		数理物理学特別セミナー	9	
○		Topical Seminar I	1		○		高エネルギープラズマ物性理論特別セミナー	9	
○		Topical Seminar II	1		○		高エネルギー物理学特別セミナー I	9	
○		Topical Seminar III	1		○		高エネルギー物理学特別セミナー II	9	
○		Topical Seminar IV	1		○		原子核実験学特別セミナー	9	
○		○ 科学技術論A1	1		○		核反応計測学特別セミナー	9	
○		○ 科学技術論A2	1		○		クォーク核物理学特別セミナー	9	
○		○ 科学技術論B1	1		○		原子核反応特別セミナー	9	
○		○ 科学技術論B2	1		○		加速器科学特別セミナー	9	
○		○ 研究者倫理特論	0.5		○		高エネルギー密度物理特別セミナー	9	
○		○ 科学論文作成概論	0.5		○		メゾスコピック物理半期セミナー	9	
○		○ 研究実践特論	0.5		○		強磁場物理特別セミナー	9	
○		○ 企業研究者特別講義	0.5		○		界面物性特別セミナー	9	
○		○ 学位論文作成演習	0.5		○		半導体特別セミナー	9	
○		○ 高度理学特別講義	0.5		○		超伝導特別セミナー	9	
○		○ 企業インターンシップ	1		○		質量分析物理特別セミナー	9	
○		○ 海外短期留学	2		○		量子物性特別セミナー	9	
○		○ 実践科学英語A	1		○		光物性特別セミナー	9	
○		○ 実践科学英語B	1		○		Seminar for Advanced Researches	9	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

化学専攻
(前期課程)

専攻教育科目	高度国際性 語彙教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専攻教育科目	高度国際性 語彙教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○			大学院無機化学	2		○			物性有機化学(I)	1	
○			大学院物理化学	2		○			構造有機化学(I)	1	
○			大学院有機化学 I	2		○			複合分子化学(I)	1	
○			大学院有機化学 II	2		○			有機金属化学概論	2	
○	○		Current Topics I	1		○			構造生命化学特論	1	
○	○		Current Topics II	1		○			科学技術論A1	1	
○	○		Current Topics III	1		○			科学技術論A2	1	
○	○		Current Topics IV	1		○			科学技術論B1	1	
○	○		Current Topics V	1		○			科学技術論B2	1	
○	○		Current Topics VI	1		○			研究者倫理特論	0.5	
○	○		Current Topics VII	1		○			科学論文作成概論	0.5	
○	○		Current Topics VIII	1		○			研究実践特論	0.5	
○	○		Current Topics IX	1		○			企業研究者特別講義	0.5	
○	○		Current Topics X	1		○			実践科学英語A	1	
○			Biomolecular Chemistry	1		○			実践科学英語B	1	
○			Analytical Chemistry for Interface	1		○			科学英語基礎	1	
○			Chemistry on Catalysis	1		○			放射線計測学概論1	1	
○			Genome Chemistry	1		○			放射線計測学概論2	1	
○			Natural Product Chemistry	1		○			先端機器制御学	2	
○			Organic Biochemistry	1		○			分光計測学	2	
○			Physical Organic Chemistry	1		○			放射線計測応用1	1	講義・実習
○			Protein Chemistry	1		○			放射線計測応用2	1	講義・実習
○			Quantum Chemistry	1		○			先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○			Structural Organic Chemistry	1		○			先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			Thermal and Entropic Science	1		○			先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○			生物無機化学(I)	1		○			先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			界面分析化学(I)	1		○			ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○			物性錯体化学1(I)	1		○			ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			物性錯体化学2(I)	1		○			超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			固体電子物性	2		○			ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			無機分光化学概論	2		○			ナノフォトニクス学	1	実習
○			反応物理化学	2		○			化学アドバンスト実験	1	実習
○			構造錯体化学(I)	1		○			分析化学特論	1	
○			核化学1(I)	1		○			錯体化学特論	1	
○			核化学2(I)	1		○			生物無機化学特論	1	
○			量子化学(I)	1		○			構造錯体化学特論	1	
○			核磁気共鳴分光学(I)	1		○			電気化学特論	1	
○			化学反応論(I)	1		○			触媒化学特論	1	
○			生物物理化学(I)	1		○			放射化学特論	1	
○			凝縮系物理化学(I)	1		○			化学反応特論	1	
○			熱・エントロピー科学(I)	1		○			生物物理化学特論	1	
○			構造物性化学(I)	1		○			量子化学特論	1	
○			半導体化学(I)	1		○			物性物理化学特論	1	
○			生体分子動的解析学(I)	1		○			分子構造特論	1	
○			天然物有機化学(I)	1		○			分光学特論	1	
○			有機生物化学(I)	1		○			分子熱力学特論	1	
○			ゲノム化学(I)	1		○			表面化学特論	1	
○			蛋白質分子化学(I)	1		○			化学情報特論	1	
○			生体分子化学(I)	1		○			化学情報特論	1	
○			生体分子化学(II)	1		○			分子動力学概論	1	
○			有機分光化学(I)	1		○			生体分子動的解析学特論	1	
○			触媒化学(I)	1		○			天然物有機化学特論	1	

専門教育科目	高度国際性 語彙教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 語彙教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○			超分子化学特論	1		○			核磁気共鳴分光学半期セミナーⅠ	4.5	
○			複素環有機化学特論	1		○			核磁気共鳴分光学半期セミナーⅡ	4.5	
○			構造有機化学特論	1		○			反応化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			反応有機化学特論	1		○			反応化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			物性有機化学特論	1		○			粒子ビーム化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			有機合成化学特論	1		○			粒子ビーム化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			複合分子化学特論	1		○			生物物理化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			有機生物化学特論	1		○			生物物理化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			機能生物化学特論	1		○			凝縮系物理化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			天然物化学特論	1		○			凝縮系物理化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			有機立体化学特論	1		○			表面化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			有機金属化学特論	1		○			表面化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			生体分子化学特論	1		○			熱・エントロピー科学半期セミナーⅠ	4.5	
○			機能性分子化学特論	1		○			熱・エントロピー科学半期セミナーⅡ	4.5	
○			蛋白質分子化学特論	1		○			構造物性化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			蛋白質機能学特論	1		○			構造物性化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			分子材料化学特論	1		○			半導体化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			生体システム化学特論	1		○			半導体化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			プロテオミクス分析化学特論	1		○			生体分子動的解析学半期セミナーⅠ	4.5	
○			合成有機化学特論	1		○			生体分子動的解析学半期セミナーⅡ	4.5	
○			熱・エントロピー科学特論	1		○			生体分子機能構造計測学半期セミナーⅠ	4.5	
○			蛋白質有機化学特論	1		○			生体分子機能構造計測学半期セミナーⅡ	4.5	
○			無機化学特論	1	演習	○			天然物有機化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			精密制御化学特論	1	演習	○			天然物有機化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			サイエンスコア1	1		○			構造有機化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			サイエンスコア2	1		○			構造有機化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			インタラクティブセミナーⅠ	1		○			物性有機化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			インタラクティブセミナーⅡ	1		○			物性有機化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			粒子ビーム化学(Ⅰ)	1		○			有機生物化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			生物無機化学半期セミナーⅠ	4.5		○			有機生物化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			生物無機化学半期セミナーⅡ	4.5		○			生体分子化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			分析化学半期セミナーⅠ	4.5		○			生体分子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			分析化学半期セミナーⅡ	4.5		○			ゲノム化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			物性錯体化学半期セミナーAⅠ	4.5		○			ゲノム化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			物性錯体化学半期セミナーAⅡ	4.5		○			機能性分子化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			物性錯体化学半期セミナーBⅠ	4.5		○			機能性分子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			物性錯体化学半期セミナーBⅡ	4.5		○			蛋白質分子化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			構造錯体化学半期セミナーⅠ	4.5		○			蛋白質分子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			構造錯体化学半期セミナーⅡ	4.5		○			プロテオミクス分析化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			核化学半期セミナーAⅠ	4.5		○			プロテオミクス分析化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			核化学半期セミナーAⅡ	4.5		○			構造生命化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			核化学半期セミナーBⅠ	4.5		○			構造生命化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			核化学半期セミナーBⅡ	4.5		○			複合分子化学半期セミナーⅠ	4.5	
○			量子化学半期セミナーⅠ	4.5		○			複合分子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○			量子化学半期セミナーⅡ	4.5		○					

(後期課程)

専門教育科目	高度国際性 語彙教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 語彙教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○	○		Current Topics I	1		○			実践科学英語A	1	
○	○		Current Topics II	1		○			実践科学英語B	1	
○	○		Current Topics III	1		○			科学英語基礎	1	
○	○		Current Topics IV	1		○			放射線計測学概論1	1	
○	○		Current Topics V	1		○			放射線計測学概論2	1	
○	○		Current Topics VI	1		○			先端機器制御学	2	
○	○		Current Topics VII	1		○			分光計測学	2	
○	○		Current Topics VIII	1		○			放射線計測応用1	1	講義・実習
○	○		Current Topics IX	1		○			放射線計測応用2	1	講義・実習
○	○		Current Topics X	1		○			先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○			特別講義A I	1		○			先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			特別講義A II	1		○			先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○			特別講義A III	1		○			先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			特別講義A IV	1		○		○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○			特別講義A V	1		○		○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			特別講義A VI	1		○		○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			特別講義B I	1		○		○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			特別講義B II	1		○		○	ナノフォトニクス学	1	実習
○			特別講義B III	1		○		○	産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
○			特別講義B IV	1		○		○	高度学際萌芽研究訓練	5	
○			特別講義B V	1		○		○	インタラクティブ特別セミナー1	1	
○			特別講義B VI	1		○		○	インタラクティブ特別セミナー2	1	
○		○	科学技術論A1	1		○		○	生物無機化学特別セミナー I	9	
○		○	科学技術論A2	1		○		○	生物無機化学特別セミナー II	9	
○		○	科学技術論B1	1		○		○	生物無機化学特別セミナー III	9	
○		○	科学技術論B2	1		○		○	分析化学特別セミナー I	9	
○			研究者倫理特論	0.5		○		○	分析化学特別セミナー II	9	
○			科学論文作成概論	0.5		○		○	分析化学特別セミナー III	9	
○			研究実践特論	0.5		○		○	物性錯体化学特別セミナーA I	9	
○		○	企業研究者特別講義	0.5		○		○	物性錯体化学特別セミナーA II	9	
○			学位論文作成演習	0.5		○		○	物性錯体化学特別セミナーA III	9	
○			高度理学特別講義	0.5		○		○	物性錯体化学特別セミナーB I	9	
○		○	企業インターンシップ	1		○		○	物性錯体化学特別セミナーB II	9	
○			海外短期留学	2							

専門教育科目 高度国際性 高度教養教育科目 高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目 高度国際性 高度教養教育科目 高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○	物性錯体化学特別セミナーBⅢ	9		○	生体分子動的解析学特別セミナーⅢ	9	
○	構造錯体化学特別セミナーⅠ	9		○	生体分子機能構造計測学特別セミナーⅠ	9	
○	構造錯体化学特別セミナーⅡ	9		○	生体分子機能構造計測学特別セミナーⅡ	9	
○	構造錯体化学特別セミナーⅢ	9		○	生体分子機能構造計測学特別セミナーⅢ	9	
○	核化学特別セミナーAⅠ	9		○	天然物有機化学特別セミナーⅠ	9	
○	核化学特別セミナーAⅡ	9		○	天然物有機化学特別セミナーⅡ	9	
○	核化学特別セミナーAⅢ	9		○	天然物有機化学特別セミナーⅢ	9	
○	核化学特別セミナーBⅠ	9		○	構造有機化学特別セミナーⅠ	9	
○	核化学特別セミナーBⅡ	9		○	構造有機化学特別セミナーⅡ	9	
○	核化学特別セミナーBⅢ	9		○	構造有機化学特別セミナーⅢ	9	
○	量子化学特別セミナーⅠ	9		○	物性有機化学特別セミナーⅠ	9	
○	量子化学特別セミナーⅡ	9		○	物性有機化学特別セミナーⅡ	9	
○	量子化学特別セミナーⅢ	9		○	物性有機化学特別セミナーⅢ	9	
○	核磁気共鳴分光学特別セミナーⅠ	9		○	有機生物化学特別セミナーⅠ	9	
○	核磁気共鳴分光学特別セミナーⅡ	9		○	有機生物化学特別セミナーⅡ	9	
○	核磁気共鳴分光学特別セミナーⅢ	9		○	有機生物化学特別セミナーⅢ	9	
○	反応化学特別セミナーⅠ	9		○	生体分子化学特別セミナーⅠ	9	
○	反応化学特別セミナーⅡ	9		○	生体分子化学特別セミナーⅡ	9	
○	反応化学特別セミナーⅢ	9		○	生体分子化学特別セミナーⅢ	9	
○	粒子ビーム化学特別セミナーⅠ	9		○	ゲノム化学特別セミナーⅠ	9	
○	粒子ビーム化学特別セミナーⅡ	9		○	ゲノム化学特別セミナーⅡ	9	
○	粒子ビーム化学特別セミナーⅢ	9		○	ゲノム化学特別セミナーⅢ	9	
○	生物物理化学特別セミナーⅠ	9		○	機能性分子化学特別セミナーⅠ	9	
○	生物物理化学特別セミナーⅡ	9		○	機能性分子化学特別セミナーⅡ	9	
○	生物物理化学特別セミナーⅢ	9		○	機能性分子化学特別セミナーⅢ	9	
○	凝縮系物理化学特別セミナーⅠ	9		○	蛋白質分子化学特別セミナーⅠ	9	
○	凝縮系物理化学特別セミナーⅡ	9		○	蛋白質分子化学特別セミナーⅡ	9	
○	凝縮系物理化学特別セミナーⅢ	9		○	蛋白質分子化学特別セミナーⅢ	9	
○	表面化学特別セミナーⅠ	9		○	プロテオミクス分析化学特別セミナーⅠ	9	
○	表面化学特別セミナーⅡ	9		○	プロテオミクス分析化学特別セミナーⅡ	9	
○	表面化学特別セミナーⅢ	9		○	プロテオミクス分析化学特別セミナーⅢ	9	
○	熱・エントロピー科学特別セミナーⅠ	9		○	生物物理化学(Ⅰ)(S)	1	
○	熱・エントロピー科学特別セミナーⅡ	9		○	凝縮系物理化学(Ⅰ)(S)	1	
○	熱・エントロピー科学特別セミナーⅢ	9		○	有機生物化学(Ⅰ)S	1	
○	構造物性化学特別セミナーⅠ	9		○	天然物有機化学(Ⅰ)S	1	
○	構造物性化学特別セミナーⅡ	9		○	物性有機化学(Ⅰ)(S)	1	
○	構造物性化学特別セミナーⅢ	9		○	構造生命化学特別セミナーⅠ	9	
○	半導体化学特別セミナーⅠ	9		○	構造生命化学特別セミナーⅡ	9	
○	半導体化学特別セミナーⅡ	9		○	構造生命化学特別セミナーⅢ	9	
○	半導体化学特別セミナーⅢ	9		○	複合分子化学特別セミナーⅠ	9	
○	生体分子動的解析学特別セミナーⅠ	9		○	複合分子化学特別セミナーⅡ	9	
○	生体分子動的解析学特別セミナーⅡ	9		○	複合分子化学特別セミナーⅢ	9	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

生物科学専攻

(前期課程)

専門教育科目	高度教育科目 高度国際性 涵養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教育科目 高度国際性 涵養教育科目	授業科目	単位	備考
○		生物科学特論A1	0.5		○		生物科学特論F8	0.5	
○		生物科学特論A2	0.5		○		生物科学特論F9	0.5	
○		生物科学特論A3	0.5		○		生物科学特論F10	0.5	
○		生物科学特論A4	0.5		○		生物科学特論F11	0.5	
○		生物科学特論B1	0.5		○		生物科学特論F12	0.5	
○		生物科学特論B2	0.5		○		生物科学特論G1	0.5	
○		生物科学特論B3	0.5		○		生物科学特論G2	0.5	
○		生物科学特論B4	0.5		○		生物科学特論G3	0.5	
○		生物科学特論B5	0.5		○		生物科学特論G4	0.5	
○		生物科学特論B6	0.5		○		生物科学特論G5	0.5	
○		生物科学特論B7	0.5		○		生物科学特論G6	0.5	
○		生物科学特論B8	0.5		○		生物科学特論G7	0.5	
○		生物科学特論B9	0.5		○		生物科学特論G8	0.5	
○		生物科学特論B10	0.5		○		生物科学特論G9	0.5	
○		生物科学特論B11	0.5		○		生物科学特論H1	0.5	
○		生物科学特論C1	0.5		○		生物科学特論H2	0.5	
○		生物科学特論C2	0.5		○		生物科学特論H3	0.5	
○		生物科学特論C3	0.5		○		生物科学特論H4	0.5	
○		生物科学特論C4	0.5		○		生物科学特論J1	0.5	
○		生物科学特論C5	0.5		○		生物科学特論J2	0.5	
○		生物科学特論C6	0.5		○		生物科学特論J3	0.5	
○		生物科学特論C7	0.5		○	○	Current Topics XVI	1	
○		生物科学特論C8	0.5		○	○	Current Topics XVII	1	
○		生物科学特論D1	0.5		○	○	Current Topics XVIII	1	
○		生物科学特論D2	0.5		○	○	Current Topics XIX	1	
○		生物科学特論D3	0.5		○	○	Current Topics XX	1	
○		生物科学特論D4	0.5			○	科学技術論A1	1	
○		生物科学特論D5	0.5			○	科学技術論A2	1	
○		生物科学特論D6	0.5			○	科学技術論B1	1	
○		生物科学特論D7	0.5			○	科学技術論B2	1	
○		生物科学特論D8	0.5			○	研究者倫理特論	0.5	
○		生物科学特論D9	0.5			○	科学論文作成概論	0.5	
○		生物科学特論D10	0.5			○	研究実践特論	0.5	
○		生物科学特論D11	0.5			○	企業研究者特別講義	0.5	
○		生物科学特論D12	0.5			○	実践科学英語A	1	
○		生物科学特論D13	0.5			○	実践科学英語B	1	
○		生物科学特論E1	0.5			○	科学英語基礎	1	
○		生物科学特論E2	0.5		○		放射線計測学概論1	1	
○		生物科学特論E3	0.5		○		放射線計測学概論2	1	
○		生物科学特論E4	0.5		○		先端機器制御学	2	
○		生物科学特論E5	0.5		○		分光計測学	2	
○		生物科学特論E6	0.5		○		放射線計測応用1	1	講義・実習
○		生物科学特論E7	0.5		○		放射線計測応用2	1	講義・実習
○		生物科学特論E8	0.5		○		先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○		生物科学特論E9	0.5		○		先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○		生物科学特論E10	0.5		○		先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○		生物科学特論F1	0.5		○		先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○		生物科学特論F2	0.5			○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○		生物科学特論F3	0.5			○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○		生物科学特論F4	0.5			○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○		生物科学特論F5	0.5			○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○		生物科学特論F6	0.5			○	ナノフォトニクス学	1	実習
○		生物科学特論F7	0.5						

専門教育科目	高度教養教育科目 国際性 高度国際性	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教養教育科目 国際性 高度国際性	授業科目	単位	備考
○		サイエンスコアⅠ	1		○		細胞機能構造学半期セミナー	4.5	
○		サイエンスコアⅡ	1		○		生命誌学半期セミナー	4.5	
○		サイエンスコアⅢ	1		○		生物分子情報学半期セミナー	4.5	
○		サイエンスコアⅣ	1		○		生体超分子科学半期セミナー	4.5	
○		分子細胞運動学半期セミナー	4.5		○		生体高分子溶液学半期セミナー	4.5	
○		光合成反応学半期セミナー	4.5		○		生体分子機械学半期セミナー	4.5	
○		分子遺伝学半期セミナー	4.5		○		比較神経生物学半期セミナー	4.5	
○		植物生長生理学半期セミナー	4.5		○		蛋白質ナノ科学半期セミナー	4.5	
○		核機能学半期セミナー	4.5		○		細胞システム学半期セミナー	4.5	
○		1分子生物学半期セミナー	4.5		○		染色体構造機能学半期セミナー	4.5	
○		細胞生物学半期セミナー	4.5		○		高次脳機能学半期セミナー	4.5	
○		系統進化学半期セミナー	4.5		○		細胞生命科学半期セミナー	4.5	
○		植物細胞生物学半期セミナー	4.5		○		生物無機化学半期セミナー	4.5	
○		発生生物学半期セミナー	4.5		○		生体統御学半期セミナー	4.5	
○		神経可塑性生理学半期セミナー	4.5		○		RNA生物学半期セミナー	4.5	
○		感覚生理学半期セミナー	4.5		○		生物科学インタラクティブセミナーⅠ	1	
○		理論生物学半期セミナー	4.5		○		生物科学インタラクティブセミナーⅡ	1	
○		蛋白質有機化学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅠ	0.5	
○		機能・発現プロテオミクス学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅡ	0.5	
○		超分子構造解析学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅢ	0.5	
○		分子創製学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅣ	0.5	
○		生体分子反応科学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅤ	0.5	
○		オルガネラバイオロジー半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅥ	0.5	
○		エピジェネティクス学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅦ	0.5	
○		蛋白質細胞生物学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅧ	0.5	
○		分子発生学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅨ	0.5	
○		代謝調節機構学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅩ	0.5	
○		情報伝達機構学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅪ	0.5	
○		細胞制御学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅫ	0.5	
○		極限生物学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅩⅢ	0.5	
○		構造分子生物学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅩⅣ	0.5	
○		膜蛋白質化学半期セミナー	4.5		○		Biological ScienceⅩⅤ	0.5	
○		蛋白質結晶学半期セミナー	4.5						

(後期課程)

専門教育科目	高度教養教育科目 高度国際性 涵養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教養教育科目 高度国際性 涵養教育科目	授業科目	単位	備考
○	○	Current Topics X VI	1		○		植物生長生理学特別セミナー	9	
○	○	Current Topics X VII	1		○		核機能学特別セミナー	9	
○	○	Current Topics X VIII	1		○		1分子生物学特別セミナー	9	
○	○	Current Topics X IX	1		○		細胞生物学特別セミナー	9	
○	○	Current Topics X X	1		○		系統進化学特別セミナー	9	
		○ 科学技術論A1	1		○		植物細胞生物学特別セミナー	9	
		○ 科学技術論A2	1		○		発生生物学特別セミナー	9	
		○ 科学技術論B1	1		○		神経可塑性生理学特別セミナー	9	
		○ 科学技術論B2	1		○		感覚生理学特別セミナー	9	
		○ 研究者倫理特論	0.5		○		理論生物学特別セミナー	9	
		○ 科学論文作成概論	0.5		○		蛋白質有機化学特別セミナー	9	
		○ 研究実践特論	0.5		○		機能・発現プロテオミクス学特別セミナー	9	
		○ 企業研究者特別講義	0.5		○		超分子構造解析学特別セミナー	9	
○		学位論文作成演習	0.5		○		分子創製学特別セミナー	9	
○		高度理学特別講義	0.5		○		生体分子反応科学特別セミナー	9	
		○ 企業インターンシップ	1		○		オルガネラバイオロジー特別セミナー	9	
		○ 海外短期留学	2		○		エピジェネティクス学特別セミナー	9	
		○ 実践科学英語A	1		○		蛋白質細胞生物学特別セミナー	9	
		○ 実践科学英語B	1		○		分子発生学特別セミナー	9	
		○ 科学英語基礎	1		○		代謝調節機構学特別セミナー	9	
○		放射線計測学概論1	1		○		情報伝達機構学特別セミナー	9	
○		放射線計測学概論2	1		○		細胞制御学特別セミナー	9	
○		先端機器制御学	2		○		極限生物学特別セミナー	9	
○		分光計測学	2		○		構造分子生物学特別セミナー	9	
○		放射線計測応用1	1	講義・実習	○		細胞機能構造学特別セミナー	9	
○		放射線計測応用2	1	講義・実習	○		生命誌学特別セミナー	9	
○		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習	○		生物分子情報学特別セミナー	9	
○		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習	○		膜蛋白質化学特別セミナー	9	
○		先端的研究法:NMR	2	講義・実習	○		蛋白質結晶学特別セミナー	9	
○		先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習	○		生体超分子科学特別セミナー	9	
		○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習	○		生体高分子溶液学特別セミナー	9	
		○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習	○		生体分子機械学特別セミナー	9	
		○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習	○		比較神経生物学特別セミナー	9	
		○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習	○		蛋白質ナノ科学特別セミナー	9	
		○ ナノフォニクス学	1	実習	○		細胞システム学特別セミナー	9	
		○ 産学リエゾンPAL教育研究訓練	5		○		染色体構造機能学特別セミナー	9	
		○ 高度学際萌芽研究訓練	5		○		高次脳機能学特別セミナー	9	
○		生物学特別講義 I	1		○		細胞生命科学特別セミナー	9	
○		生物学特別講義 II	1		○		生物無機化学特別セミナー	9	
○		生物学特別講義 III	1		○		生体統御学特別セミナー	9	
○		生物学特別講義 IV	1		○		RNA生物学特別セミナー	9	
○		生物学特別講義 V	1		○		生物学インタラクティブ特別セミナー	1	
○		生物学特別講義 VI	1		○		生物学特論A1(S)	0.5	
○	○	生物学特別講義 VII	1		○		生物学特論A2(S)	0.5	
○		生物学特別講義 VIII	1		○		生物学特論A3(S)	0.5	
○		サイエンスコア V	1		○		生物学特論A4(S)	0.5	
○		サイエンスコア VI	1		○		生物学特論B1(S)	0.5	
○		サイエンスコア VII	1		○		生物学特論B2(S)	0.5	
○		分子細胞運動学特別セミナー	9		○		生物学特論B3(S)	0.5	
○		光合成反応学特別セミナー	9		○		生物学特論B4(S)	0.5	
○		分子遺伝学特別セミナー	9		○		生物学特論B5(S)	0.5	

専門教育科目	高度教養教育科目 高度国際性 涵養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教養教育科目 高度国際性 涵養教育科目	授業科目	単位	備考
○		生物科学特論B6(S)	0.5		○		生物科学特論E7(S)	0.5	
○		生物科学特論B7(S)	0.5		○		生物科学特論E8(S)	0.5	
○		生物科学特論B8(S)	0.5		○		生物科学特論E9(S)	0.5	
○		生物科学特論B9(S)	0.5		○		生物科学特論E10(S)	0.5	
○		生物科学特論B10(S)	0.5		○		生物科学特論F1(S)	0.5	
○		生物科学特論B11(S)	0.5		○		生物科学特論F2(S)	0.5	
○		生物科学特論C1(S)	0.5		○		生物科学特論F3(S)	0.5	
○		生物科学特論C2(S)	0.5		○		生物科学特論F4(S)	0.5	
○		生物科学特論C3(S)	0.5		○		生物科学特論F5(S)	0.5	
○		生物科学特論C4(S)	0.5		○		生物科学特論F6(S)	0.5	
○		生物科学特論C5(S)	0.5		○		生物科学特論F7(S)	0.5	
○		生物科学特論C6(S)	0.5		○		生物科学特論F8(S)	0.5	
○		生物科学特論C7(S)	0.5		○		生物科学特論F9(S)	0.5	
○		生物科学特論C8(S)	0.5		○		生物科学特論F10(S)	0.5	
○		生物科学特論D1(S)	0.5		○		生物科学特論F11(S)	0.5	
○		生物科学特論D2(S)	0.5		○		生物科学特論F12(S)	0.5	
○		生物科学特論D3(S)	0.5		○		生物科学特論G1(S)	0.5	
○		生物科学特論D4(S)	0.5		○		生物科学特論G2(S)	0.5	
○		生物科学特論D5(S)	0.5		○		生物科学特論G3(S)	0.5	
○		生物科学特論D6(S)	0.5		○		生物科学特論G4(S)	0.5	
○		生物科学特論D7(S)	0.5		○		生物科学特論G5(S)	0.5	
○		生物科学特論D8(S)	0.5		○		生物科学特論G6(S)	0.5	
○		生物科学特論D9(S)	0.5		○		生物科学特論G7(S)	0.5	
○		生物科学特論D10(S)	0.5		○		生物科学特論G8(S)	0.5	
○		生物科学特論D11(S)	0.5		○		生物科学特論G9(S)	0.5	
○		生物科学特論D12(S)	0.5		○		生物科学特論H1(S)	0.5	
○		生物科学特論D13(S)	0.5		○		生物科学特論H2(S)	0.5	
○		生物科学特論E1(S)	0.5		○		生物科学特論H3(S)	0.5	
○		生物科学特論E2(S)	0.5		○		生物科学特論H4(S)	0.5	
○		生物科学特論E3(S)	0.5		○		生物科学特論J1(S)	0.5	
○		生物科学特論E4(S)	0.5		○		生物科学特論J2(S)	0.5	
○		生物科学特論E5(S)	0.5		○		生物科学特論J3(S)	0.5	
○		生物科学特論E6(S)	0.5						

別表1 (理学研究科専攻別授業科目表)

高分子科学専攻
(前期課程)

専門教育科目	高度国際性 涵養教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 涵養教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○			高分子物理化学A	1		○			分光計測学	2	
○			高分子物理化学B	1		○			放射線計測応用1	1	講義・実習
○			高分子有機化学	2		○			放射線計測応用2	1	講義・実習
○			高分子凝集科学	2		○			先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○			情報高分子科学	2		○			先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
	○		Current Topics XI	1		○			先端の研究法:NMR	2	講義・実習
	○		Current Topics XII	1		○			先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
	○		Current Topics XIII	1				○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
	○		Current Topics XIV	1				○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
	○		Current Topics XV	1				○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			高分子科学インタラクティブ演習	1				○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			高分子合成化学特論	2				○	ナノフォトニクス学	1	実習
○			高分子反応化学特論1	1		○			高分子合成化学半期セミナー	4.5	
○			高分子反応化学特論2	1		○			高分子錯体化学半期セミナー	4.5	
○			高分子精密合成特論	2		○			高分子反応化学半期セミナー	4.5	
○			高分子錯体化学特論	2		○			無機高分子化学半期セミナー	4.5	
○			生体無機高分子特論	2		○			生体超分子科学半期セミナー	4.5	
○			生体機能高分子特論	2		○			高分子固体科学半期セミナー	4.5	
○			高分子キャラクタリゼーション特論	1		○			高分子溶液論半期セミナー	4.5	
○			高分子物性特論1	1		○			高分子精密科学半期セミナー	4.5	
○			高分子物性特論2	1		○			高分子構造論半期セミナー	4.5	
○			高分子溶液学特論1	1		○			高分子物性論半期セミナー	4.5	
○			高分子溶液学特論2	1		○			高分子材料科学半期セミナー	4.5	
○			高分子構造特論	2		○			高分子凝集論半期セミナー	4.5	
○			高分子材料設計学特論	1		○			超分子科学半期セミナー	4.5	
○			蛋白質構造基礎論1	1		○			情報高分子機能論半期セミナー	4.5	
○			蛋白質構造基礎論2	1		○			生体高分子X線解析学半期セミナー	4.5	
○			蛋白質構造基礎論3	1		○			生体高分子電子線構造解析学半期セミナー	4.5	
○			高分子精密科学特論	2		○			重合設計化学半期セミナー	4.5	
○			高分子結晶学特論	2		○			インタラクティブセミナー	1	
○			情報高分子物性特論	2							
○			情報高分子機能特論	2							
○			情報高分子構造特論	2							
○			蛋白質工学特論	2							
○			生体高分子X線解析学特論	2							
○			サイエンスコアA	1	演習						
	○		科学技術論A1	1							
	○		科学技術論A2	1							
	○		科学技術論B1	1							
	○		科学技術論B2	1							
	○		研究者倫理特論	0.5							
	○		科学論文作成概論	0.5							
	○		研究実践特論	0.5							
	○		企業研究者特別講義	0.5							
	○		実践科学英語A	1							
	○		実践科学英語B	1							
	○		科学英語基礎	1							
○			放射線計測学概論1	1							
○			放射線計測学概論2	1							
○			先端機器制御学	2							

(後期課程)

専門教育科目	高度教育国際性 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教育国際性 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
	○	Current Topics XI	1			○	科学英語基礎	1	
	○	Current Topics XII	1		○	○	放射線計測学概論1	1	
	○	Current Topics XIII	1		○	○	放射線計測学概論2	1	
	○	Current Topics XIV	1		○	○	先端機器制御学	2	
	○	Current Topics XV	1		○	○	分光計測学	2	
○		特別講義(1)	1		○	○	放射線計測応用1	1	講義・実習
○		特別講義(2)	1		○	○	放射線計測応用2	1	講義・実習
○		特別講義(3)	1		○	○	先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○		特別講義(4)	1		○	○	先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○		特別講義(5)	1		○	○	先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○		特別講義(6)	1		○	○	先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○		高分子溶液学特論1(S)	1			○	○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○		高分子溶液学特論2(S)	1			○	○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○		高分子合成化学特論(S)	2			○	○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○		高分子反応化学特論1(S)	1			○	○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○		高分子反応化学特論2(S)	1			○	○ ナノフォトンクス学	1	実習
○		高分子物性特論1(S)	1			○	○ 産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
○		高分子物性特論2(S)	1			○	○ 高度学際萌芽研究訓練	5	
○		高分子科学インタラクティブ特別演習	1		○	○	○ 高分子反応化学特別セミナー	9	
	○	科学技術論A1	1		○	○	○ 高分子合成化学特別セミナー	9	
	○	科学技術論A2	1		○	○	○ 高分子錯体化学特別セミナー	9	
	○	科学技術論B1	1		○	○	○ 高分子凝集論特別セミナー	9	
	○	科学技術論B2	1		○	○	○ 高分子構造論特別セミナー	9	
	○	研究者倫理特論	0.5		○	○	○ 高分子溶液論特別セミナー	9	
	○	科学論文作成概論	0.5		○	○	○ 高分子物性論特別セミナー	9	
	○	研究実践特論	0.5		○	○	○ 高分子精密科学特別セミナー	9	
	○	企業研究者特別講義	0.5		○	○	○ 生体超分子科学特別セミナー	9	
○		学位論文作成演習	0.5		○	○	○ 情報高分子機能論特別セミナー	9	
○		高度理学特別講義	0.5		○	○	○ 情報高分子構造論特別セミナー	9	
	○	企業インターンシップ	1		○	○	○ 超分子科学特別セミナー	9	
	○	海外短期留学	2		○	○	○ 生体高分子電子線構造解析学特別セミナー	9	
	○	実践科学英語A	1		○	○	○ インタラクティブ特別セミナー	1	
	○	実践科学英語B	1						

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

宇宙地球科学専攻
(前期課程)

専門教育科目	高度国際性 高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			一般相対性理論	2		○			科学技術論A1	1	
○			宇宙物理学	2		○			科学技術論A2	1	
○			宇宙論	2		○			科学技術論B1	1	
○			天体輻射論	1		○			科学技術論B2	1	
○			X線天文学	1		○			研究者倫理特論	0.5	
○			光赤外線天文学	1		○			科学論文作成概論	0.5	
○			星間固体物理学	2		○			研究実践特論	0.5	
○			同位体宇宙地球科学	1		○			企業研究者特別講義	0.5	
○			惑星物質科学	2		○			実践科学英語A	1	
○			惑星地質学	1		○			実践科学英語B	1	
○	○		宇宙生命論	2		○			科学英語基礎	1	
○			宇宙進化学セミナー	4.5		○			放射線計測学概論1	1	
○			X線天文学セミナー	4.5		○			放射線計測学概論2	1	
○			赤外線天文学セミナー	4.5		○			先端機器制御学	2	
○			惑星科学セミナー	4.5		○			分光計測学	2	
○			地球惑星物質科学セミナー	4.5		○			放射線計測応用1	1	講義・実習
○			非平衡物理学	2		○			放射線計測応用2	1	講義・実習
○			非平衡現象論	2		○			先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○			極限物性学	2		○			先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			高压物性科学	1		○			先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○			惑星内部物質学	1		○			先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			地球内部物性学	1		○			ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○			ソフトマター地球惑星物理学	2		○			ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			地球テクトニクス	2		○			超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			環境物性・分光学	1		○			ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			地球生命論	2		○			ナノフォトニクス学	1	実習
○			太陽惑星系電磁気学	1							
○			理論物質学セミナー	4.5							
○			惑星内部物質学セミナー	4.5							
○			ソフトマター地球惑星科学セミナー	4.5							
○			レーザー宇宙物理学セミナー	4.5							

(後期課程)

専門教育科目	高度国際性 涵養教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 涵養教育科目	高度教養教育科目	授業科目	単位	備考
○			特別講義Ⅰ	1		○			放射線計測学概論1	1	
○			特別講義Ⅱ	1		○			放射線計測学概論2	1	
○			特別講義Ⅲ	1		○			先端機器制御学	2	
○			特別講義Ⅳ	1		○			分光計測学	2	
○			特別講義Ⅴ	1		○			放射線計測応用1	1	講義・実習
○			特別講義Ⅵ	1		○			放射線計測応用2	1	講義・実習
○			特別講義Ⅶ	1		○			先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○			特別講義Ⅷ	1		○			先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			特別講義Ⅸ	1		○			先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○			特別講義Ⅹ	1		○			先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			特別講義ⅩⅠ	1		○			○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○			特別講義ⅩⅡ	1		○			○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			特別講義ⅩⅢ	1		○			○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
			○ 科学技術論A1	1					○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
			○ 科学技術論A2	1					○ ナノフォトニクス学	1	実習
			○ 科学技術論B1	1					○ 産学リエゾンPAL教育研究訓練	5	
			○ 科学技術論B2	1					○ 高度学際萌芽研究訓練	5	
			○ 研究者倫理特論	0.5		○			宇宙進化学特別セミナー	9	
			○ 科学論文作成概論	0.5		○			X線天文学特別セミナー	9	
			○ 研究実践特論	0.5		○			赤外線天文学特別セミナー	9	
			○ 企業研究者特別講義	0.5		○			惑星科学特別セミナー	9	
○			学位論文作成演習	0.5		○			地球惑星物質科学特別セミナー	9	
○			高度理学特別講義	0.5		○			理論物質学特別セミナー	9	
			○ 企業インターンシップ	1		○			惑星内部物質学特別セミナー	9	
			○ 海外短期留学	2		○			ソフトマター地球惑星科学特別セミナー	9	
			○ 実践科学英語A	1		○			レーザー宇宙物理学特別セミナー	9	
			○ 実践科学英語B	1							
			○ 科学英語基礎	1							

別表2(統合理学特別コース授業科目表)

統合理学特別コース
 化学専攻(統合理学特別コース)
 生物科学専攻(統合理学特別コース)
 高分子科学専攻(統合理学特別コース)

(前期課程)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
Basic Biology I	2		Physical Organic Chemistry	1	
Basic Biology II	2		Protein Chemistry	1	
Basic Macromolecular Science	2		Quantum Chemistry	1	
Basic Chemistry I	2		Structural Organic Chemistry	1	
Basic Chemistry II	2		Topics in Inorganic Chemistry	1	
Introductory Biology	2		Thermal and Entropic Science	1	
Biological Science I	0.5		Advanced Chemical Experiment	1	
Biological Science II	0.5		Current Topics I	1	
Biological Science III	0.5		Current Topics II	1	
Biological Science IV	0.5		Current Topics III	1	
Biological Science V	0.5		Current Topics IV	1	
Biological Science VI	0.5		Current Topics V	1	
Biological Science VII	0.5		Current Topics VI	1	
Biological Science VIII	0.5		Current Topics VII	1	
Biological Science IX	0.5		Current Topics VIII	1	
Biological Science X	0.5		Current Topics IX	1	
Biological Science XI	0.5		Current Topics X	1	
Biological Science XII	0.5		Current Topics XI	1	
Biological Science XIII	0.5		Current Topics XII	1	
Biological Science XIV	0.5		Current Topics XIII	1	
Biological Science XV	0.5		Current Topics XIV	1	
Biomolecular Chemistry	1		Current Topics XV	1	
Advanced Macromolecular Science I	2		Current Topics XVI	1	
Advanced Macromolecular Science II	2		Current Topics XVII	1	
Analytical Chemistry for Interface	1		Current Topics XVIII	1	
Chemistry on Catalysis	1		Current Topics XIX	1	
Genome Chemistry	1		Current Topics XX	1	
Natural Product Chemistry	1		Interactive Seminar	1	
Organic Biochemistry	1		Semestral Seminar	4.5	

(博士課程)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
Current Topics I	1		Current Topics XII	1	
Current Topics II	1		Current Topics XIII	1	
Current Topics III	1		Current Topics XIV	1	
Current Topics IV	1		Current Topics XV	1	
Current Topics V	1		Current Topics XVI	1	
Current Topics VI	1		Current Topics XVII	1	
Current Topics VII	1		Current Topics XVIII	1	
Current Topics VIII	1		Current Topics XIX	1	
Current Topics IX	1		Current Topics XX	1	
Current Topics X	1		Interactive Seminar for Advanced Research	1	
Current Topics XI	1		Seminar for Advanced Researches	9	

別表 3

先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム授業科目表

区分	授業科目	単位	備考
必修科目	量子ビーム実践研修 (国内)	2	
	量子ビーム実践研修 (海外)	2	
	量子ビーム学際交流	1.5	
選択必修科目	俯瞰力・社会実装力涵養科目群		別に定める授業科目から1単位以上取得すること
	量子ビーム応用科目	量子ビーム情報系科目群 量子ビーム医学系科目群 量子ビーム応用科目群 量子物理応用科目群 量子ビーム化学系科目群 量子機能分子創製科目群	複数の科目群を選択し、別に定める授業科目から4単位以上取得すること
選択科目	量子ビーム実践英語科目群		別に定める授業科目から自由選択
	量子社会学連携科目群		
	社会学連携情報系特論 1	0.5	
	社会学連携情報系特論 2	1	
	社会学連携情報系特論 3	2	
	社会学連携医学系特論 1	0.5	
	社会学連携医学系特論 2	1	
	社会学連携医学系特論 3	2	
	社会学連携物理特論 1	0.5	
	社会学連携物理特論 2	1	
	社会学連携物理特論 3	2	
	社会学連携化学特論 1	0.5	
	社会学連携化学特論 2	1	
	社会学連携化学特論 3	2	
	機械学習実践演習	1.5	
企業研究者特別講義 (集中講義)	0.5		

別表 4

オナー大学院プログラム授業科目表

区分	授業科目	単位	備考
選択必修科目	理工情報研究室ローテーションⅠ	1	
	理工情報研究室ローテーションⅡ	1	
	理工情報研究室ローテーションⅢ	1	
	理工情報研究室ローテーションⅣ	1	
	理工情報学外研修Ⅰ	1	
	理工情報学外研修Ⅱ	1	
	理工情報学外研修Ⅲ	1	
	理工情報学外研修Ⅳ	1	

4) 大阪大学学位規程

(総則)

第1条 大阪大学(以下「本学」という。)において授与する学位は、学士、修士、博士及び法務博士とする。

2 本学において授与する修士、博士及び法務博士の学位については、大阪大学大学院学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

3 学士の学位については、大阪大学学部学則の定めるところによる。

(学位に付記する専攻分野等の名称)

第2条 本学において授与する修士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

理学(他専攻分野略)

2 本学において授与する博士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

理学(他専攻分野略)

3 前2項の規定にかかわらず、専攻分野が学際領域等に係るもので、当該研究科教授会の議を経て総長が適当と認めたときは、学術と付記することができる。

4 本学において授与する法務博士の学位には、専門職と付記するものとする。

(学位の授与要件)

第3条 学位は、学則の定めるところにより、所定の課程を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、修士の学位は、学則の定めるところにより、生命機能研究科の博士課程において、修士課程の修了に相当する要件を満たした者にも授与することができる。

3 第1項に定めるもののほか、博士の学位は、博士論文の審査に合格し、かつ、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認(以下「学力の確認」という。)した者にも授与することができる。

(課程を経る者の論文の提出)

第4条 本学大学院の課程(法科大学院の課程を除く。)を経る者(前条第2項に規定する者を含む。以下同じ。)の学位論文は、学則の定めるところにより、当該研究科長に提出するものとする。

2 前項の場合において、博士論文にあつては、論文目録、論文内容の要旨及び履歴書を添付しなければならない。

(課程を経ない者の学位授与の申請)

第5条 第3条第3項の規定により、博士の学位の授与を受けようとする者は、学位申請書に博士論文、論文目録、論文内容の要旨、履歴書を添え、学位に付記する専攻分野を指定して総長に提出するものとする。

2 前項の申請は、別に定める論文審査手数料を納付後に行うものとし、申請期間は、当該納付した日から4日以内とする。

3 総長は、前項の納付を確認後、第1項の申請書類を受理したときは、専攻分野に応じて、当該研究科長に回付するものとする。

(論文)

第6条 審査を受けるため提出する学位論文(学則第15条第1項本文の規定による特定の課題についての研究の成果を含む。)は、1篇とし、所定の部数を提出するものとする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 審査のため必要があるときは、研究科教授会は、論文の訳文、模型又は標本等を提出させることができる。

第7条 受理した学位論文及び論文審査手数料は、返付しない。

(学位論文の審査の付託)

第8条 研究科長は、学位論文を受理(第5条第3項の規定により総長から回付された場合を含む。)したときは、その審査及び最終試験又は学力の確認を当該研究科教授会に付託するものとする。

(審査委員会)

第9条 研究科教授会は、審査を付託された学位論文の審査等を行うため、審査委員会を設けるものとする。ただし、学則第45条に規定する国際連携専攻(以下「国際連携専攻」という。)における学位論文の審査等を行う場合は、学則第46条に規定する連携外国大学院(以下「連携外国大学院」という。)との合同の審査委員会を設けるものとする。

2 審査委員会は、当該研究科教授2名以上の委員で組織する。ただし、修士論文の審査にあつては、当該研究科の教授1名及び准教授1名以上とすることができる。

3 第1項ただし書に規定する合同の審査委員会の場合は、前項で規定する審査委員会の委員のほか、連携外国大学院の教員が委員として参画するものとする。

4 前2項の場合において、必要があるときは、研究科教授会の議を経て、他の大学院等の教員等の

協力を得ることができる。

- 5 審査委員会の委員は、公表するものとする。
- 6 審査委員会の委員は、学位論文の審査等に関し、
 供応接待又は財産上の利益の供与を受けてはならない。

(論文の発表会)

第9条の2 学位論文の審査においては、当該論文の内容に関する発表会を公開で実施するものとする。ただし、当該論文の内容に関し、知的財産を保護する必要があるとき又は秘密保持の義務を課した本学の契約を遵守する必要があるときは、非公開とすることができる。

(課程を経る者の最終試験)

第10条 学則第12条本文に規定する最終試験は、学位論文を中心とし、これに関連のある科目について、口答試問又は筆答試問により行う。

(課程を経ない者の学力の確認)

第11条 第3条第3項に規定する学力の確認は、学位論文に関連のある科目及び外国語について、口答試問又は筆答試問により行うものとする。

- 2 前項の外国語については、2種類を課すものとする。ただし、研究科教授会が特別の事由があると認めるときは、1種類のみとすることができる。

第12条 本学大学院博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた退学した者が、博士論文を提出したときは、各研究科で定める年限内に限り、学力の確認を行わないことがある。

(審査期間)

第13条 審査委員会は、博士論文が提出された日から1年以内に、論文の審査及び最終試験又は学力の確認を終了しなければならない。ただし、特別の事由があるときは、当該研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

(審査結果の報告)

第14条 審査委員会は、論文の審査及び最終試験又は学力の確認が終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、審査の結果の要旨及び最終試験の結果の要旨又は学力の確認の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添え、当該研究科教授会に文書で報告しなければならない。ただし、修士の学位については、学位を授与できるか否かの意見のみを報告すれば足りるものとする。

(博士論文研究基礎力審査)

第14条の2 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に代えて、学則第15

条第2項に規定する試験及び審査(以下「博士論文研究基礎力審査」という。)を行う場合については、第9条及び前条の規定を準用する。この場合において、第9条第1項中「審査を付託された学位論文の審査等」とあり、同条第2項中「修士論文の審査」とあり、及び同条第6項中「学位論文の審査等」とあるのは「博士論文研究基礎力審査」と読み替えるものとする。

- 2 前項に定めるもののほか、博士論文研究基礎力審査の内容、方法等については、当該博士課程の目的に応じ、研究科において定めるものとする。

(学位授与の議決等)

第15条 研究科教授会は、第14条(前条第1項において準用する場合を含む。)の報告を受け、学位を授与すべきか否かを審議し、議決する。ただし、研究科の定めるところにより、教授会通則第9条に規定する代議員会等に委任し、その議決をもって研究科教授会の議決に代えることができる。

- 2 前項の議決には、構成員の3分の2以上の出席を必要とし、かつ、出席者の3分の2以上の同意がなければならない。

第16条 研究科教授会が前条の議決をしたときは、当該研究科長は、文書で総長に報告しなければならない。

- 2 前項の場合において、博士の学位にあつては、博士論文とともに論文の内容の要旨、審査の結果の要旨及び最終試験の結果の要旨又は学力の確認の結果の要旨を添付するものとする。

(学位の授与)

第17条 総長は、前条の報告を受け、学位を授与すべきか否かを決定し、学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位簿への登録)

第18条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位簿に登録の上、当該学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(博士論文の要旨等の公表)

第19条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に当該博士論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

- 2 前項の規定による公表は、本学の機関リポジリ
 の利用により行う。

(博士論文の公表)

第20条 博士の学位を授与された者は、学位を授与

された日から1年以内に当該博士論文の全文を公表しなければならない。ただし、既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該研究科長の承認を得て、当該博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該研究科長は、研究科教授会の議を経て、その公表を承認するとともに、当該博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとし、本学においては機関リポジトリの利用により行うものとする。

(学位名称の使用)

第21条 本学において学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、大阪大学と付記するものとする。ただし、国際連携専攻に係る学位にあっては、連携外国大学院の大学名を併記するものとする。

(学位の取消)

第22条 学位を授与された者に、不正の方法により学位の授与を受けた事実があると認められたときは、総長は、当該研究科教授会の意見を聴いた上、教育研究評議会の議を経て、学位を取り消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表する。

2 学位を授与された者に、その名誉を汚す行為があったときは、前項の例により、当該学位を取り消すことがある。

(学位記の様式)

第23条 学位記の様式は、別表のとおりとする。

2 国際連携専攻における学位記の表記は、別表九及び別表十のとおり日本語とする。ただし、連携外国大学院との協議により、連携外国大学院が所在する国の公用語又は国際的通用性のある第三国の言語を併記することができる。

(雑則)

第24条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

2 国際連携専攻における学位申請手続き及び学位論文の審査方法等については、この規程に定めるもののほか、連携外国大学院との協議により別に定めることができるものとする。

附 則

(以下省略)

附 則

この改正は、平成16年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

この改正は、平成19年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

この改正は、平成21年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

この改正は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成23年6月15日から施行する。

附 則

1 この改正は、平成24年4月1日から施行する。
(以下省略)

附 則

この改正は、平成24年7月18日から施行する。

附 則

この改正は、平成24年9月19日から施行する。

附 則

この改正は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正は、平成25年4月10日から施行する。

2 改正後の第19条の規定は、平成25年4月1日以後に博士の学位を授与した場合について適用し、同日前に博士の学位を授与した場合については、なお従前の例による。

3 改正後の第20条の規定は、平成25年4月1日以後に博士の学位を授与された者について適用し、同日前に博士の学位を授与された者については、なお従前の例による。

附 則

この改正は、平成26年4月1日から施行する。

別表 (略)

附 則

この改正は、平成27年4月1日から施行する。

別表 (略)

附 則

この改正は、平成28年10月19日から施行する。

別表 (略)

附 則

この改正は、平成31年4月1日から施行する。

別表 (略)

大学院理学研究科授業担当等教員名簿

数 学 専 攻

各専攻とも職名ごとに50音順

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	有 木 進	表 現 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	石 田 政 司	微 分 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	内 田 雅 之	数 理 統 計 学	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	宇 野 勝 博	群 論	全学教育推進機構 学部共通教育部門
〃	太 田 慎 一	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	☆片 山 聡一郎	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	鎌 田 聖 一	位 相 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	後 藤 竜 司	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	杉 田 洋	確 率 論	理学研究科 数学専攻
〃	杉 山 由 恵	偏 微 分 方 程 式	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	関 根 順	数理ファイナンス	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	高 橋 篤 史	代 数 学	理学研究科 数学専攻
〃	土 居 伸 一	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	富 田 直 人	実 函 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	中 村 博 昭	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	日 比 孝 之	組 合 せ 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	深 澤 正 彰	数理統計学・確率論	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	藤 野 修	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	藤 原 彰 夫	数 理 工 学	理学研究科 数学専攻
〃	降 籬 大 介	数 値 解 析	サイバーメディアセンター コンピュータ実験科学研究部門
〃	三 町 勝 久	特 殊 函 数 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	盛 田 健 彦	確 率 論 ・ 力 学 系	理学研究科 数学専攻
〃	安 田 健 彦	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	山ノ井 克 俊	関 数 論 ・ 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	渡 部 隆 夫	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	和 田 昌 昭	数 理 情 報 学	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
准 教 授	戌 亥 隆 恭	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	内 田 素 夫	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	榎 一 郎	複 素 多 様 体	理学研究科 数学専攻
〃	大 川 新 之 介	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	大 島 芳 樹	表 現 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	岡 本 葵	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	落 合 理	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	糟 谷 久 矢	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	金 英 子	位 相 幾 何 学	理学研究科 数学専攻

職名	氏名	分野	所属
准教授	塩沢裕一	確率論	理学研究科 数学専攻
〃	茶碗谷毅	力学系	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	縄田紀夫	作用素環論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	馬場伸平	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	東谷章弘	代数学	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	藤田健人	代数幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	水谷治哉	偏微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	宮武勇登	数値解析	サイバーメディアセンター コンピュータ実験科学研究部門
〃	森山知則	整数論	理学研究科 数学専攻
〃	安井弘一	位相幾何学	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	安田正大	整数論	理学研究科 数学専攻
招へい教授	勝良健史	作用素環	慶應義塾大学 理工学部
〃	坂内健一	整数論	慶應義塾大学 理工学部
招へい准教授	服部広大	複素微分幾何学	慶應義塾大学 理工学部
講師	菊池和徳	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
助教	庵原隆雄	微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	大野浩司	代数幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	小川裕之	整数論	理学研究科 数学専攻
〃	久野恵理香	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	桑垣樹	代数解析学	理学研究科 数学専攻
〃	角田謙吉	確率論	理学研究科 数学専攻
〃	原靖浩	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	松本佳彦	微分幾何	理学研究科 数学専攻

物 理 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	青 井 考	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	青 木 正 治	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	阿久津泰弘	統 計 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	浅 川 正 之	原 子 核 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	浅 野 建 一	物 性 理 論	全学教育推進機構 全学共通教育部門
〃	大 岩 顕	物 性 物 理 学	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	大野木 哲也	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	小 川 哲 生	物 性 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	小 口 多美夫	物 性 理 論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	兼 松 泰 男	質 量 分 析 学	理学研究科 附属基礎理学プロジェクト研究センター
〃	兼 村 晋 哉	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	川 畑 貴 裕	原 子 核 実 験	理学研究科 物理学専攻
〃	菊 池 誠	統 計 物 理	サイバーメディアセンター 大規模計算科学研究部門
〃	木 村 真 一	光物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	工 藤 一 貴	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	黒 木 和 彦	物 性 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	越 野 幹 人	物 性 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	小 林 研 介	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	杉 山 清 寛	物 性 物 理 学	全学教育推進機構 全学共通教育部門
〃	千 徳 靖 彦	プラズマ物理学	レーザー科学研究所 理論・計算科学研究部門
〃	豊 田 岐 聡	質 量 分 析 学	理学研究科 附属基礎理学プロジェクト研究センター
〃	中 野 貴 志	素 粒 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	能 町 正 治	原 子 核 実 験	放射線科学基盤機構
〃	野 海 博 之	原子核物理実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	萩 原 政 幸	強 磁 場 物 性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	橋 本 幸 士	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	☆花 咲 徳 亮	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	福 田 光 宏	加 速 器 物 理 学	核物理研究センター 加速器研究部門
〃	藤 岡 慎 介	レ ー ザ ー 核 融 合	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	保 坂 淳	原 子 核 理 論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	松 野 丈 夫	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	山 中 卓	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	與 曾 井 優	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
特任教授	岸 本 忠 史	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	久 野 良 孝	素粒子実験物理学	核物理研究センター 核物理実験研究部門
招へい教授	高 杉 英 一	素 粒 子 論	
〃	田 島 節 子	物 性 物 理 学	

職名	氏名	分野	所属
招へい教授	細谷 裕	素粒子論	
〃	三宅 和正	物性理論	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	大西 宏明	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	齋藤 武彦	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	高久 圭二	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	藤田 佳孝	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	渡邊 功雄	物性物理学	国立研究開発法人 理化学研究所
〃	王 惠仁	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
准教授	味村 周平	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	石井 理修	原子核理論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	石原 盛男	質量分析学	理学研究科 物理学専攻
〃	井手口 栄治	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	緒方 一介	原子核理論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	尾田 欣也	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	小田原 厚子	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	酒井 英明	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	阪口 篤志	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	嶋 達志	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	白井 光雲	物性理論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	Keith M. Slevin	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	民井 淳	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	鳴海 康雄	強磁場物性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	南條 創	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	新見 康洋	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	長谷川 繁彦	半導体物性	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	福田 光順	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	松多 健策	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	宮坂 茂樹	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	山口 哲	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	吉田 斉	核・素粒子実験	理学研究科 物理学専攻
〃	吉野 元	統計物理	サイバーメディアセンター 大規模計算科学研究部門
〃	渡辺 純二	物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
特任准教授	郡 英輝	原子核実験	核物理研究センター
招へい准教授	小沢 恭一郎	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
講師	有川 安信	レーザー核融合	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	神田 浩樹	加速器物理学	核物理研究センター 加速器研究部門
〃	依田 哲彦	加速器物理学	核物理研究センター 加速器研究部門
特任講師	岩田 夏弥	プラズマ物理学	レーザー科学研究所 理論・計算科学研究部門
助教	青木 順	質量分析学	理学研究科 附属基礎理学プロジェクト研究センター
〃	赤松 幸尚	原子核理論	理学研究科 物理学専攻

職名	氏名	分野	所属
助教	荒川 智紀	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	飯塚 則裕	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	上田 浩平	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	大坪 嘉之	光物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	大橋 琢磨	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	越智 正之	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	川上 拓人	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	菅野 優美	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	木田 孝則	強磁場物性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	北澤 正清	原子核理論	理学研究科 物理学専攻
〃	木山 治樹	物性物理学	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	小林 信之	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	佐藤 朗	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	佐野 孝好	プラズマ物理学	レーザー科学研究所 理論・計算科学研究部門
〃	清水 俊	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	菅谷 頼仁	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	鈴木 智和	原子核実験	放射線科学基盤機構
〃	白鳥 昂太郎	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	田中 実	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	中島 正道	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	廣瀬 穰	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	深谷 英則	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	藤田 高史	物性物理学	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	堀田 智明	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	三原 基嗣	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	村川 寛	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	糴田 浩義	物性理論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	柳生 慶	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	山内 邦彦	物性理論	産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	渡邊 浩	光物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	Morace Alessio	レーザー核融合	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
特任助教	赤木 暢	強磁場物性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	松尾 善典	素粒子論	理学研究科 物理学専攻

化 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

○印はAコース長を示す。

※印はBコース長を示す。

Aコース（無機および物理化学）

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	石 川 直 人	無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	上 田 貴 洋	核磁気共鳴分光学	総合学術博物館
〃	岡 田 美智雄	粒子ビーム化学	放射線科学基盤機構
〃	☆奥 村 光 隆	量 子 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	小 林 光	半 導 体 化 学	産業科学研究所 第二研究部門 (材料・ビーム科学系)
〃	今 野 巧	錯 体 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	篠 原 厚	放 射 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	谷 口 正 輝	1 分 子 科 学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	○塚 原 聡	分 析 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	中 澤 康 浩	物 性 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	中 野 元 裕	凝 縮 系 物 理 化 学	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
〃	藤 原 敏 道	機 能 構 造 計 測 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	船 橋 靖 博	生 物 無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	松 本 卓 也	反 応 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	水 口 賢 司	計 算 生 物 学	蛋白研究所 蛋白質解析先端研究センター
〃	水 谷 泰 久	生 物 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	山 口 和 也	生 物 無 機 化 学	全学教育推進機構
〃	吉 村 崇	放 射 化 学	放射線科学基盤機構
特任教授	一 柳 優 子	ナノ磁性物理	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
招へい教授	鎌 田 賢 司	非線形光学材料化学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所関西センター
〃	栗 山 信 宏	電池システム化学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所関西センター
〃	松 原 一 郎	材 料 化 学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
准 教 授	坏 広 樹	物 性 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	大 山 浩	化 学 反 応 論	理学研究科 化学専攻
〃	加 藤 浩 之	表 面 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	筒 井 真 楠	1 分 子 科 学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	豊 田 二 郎	情報化学・有機化学	総合学術博物館
〃	福 田 貴 光	無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	松 木 陽	機 能 構 造 計 測 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	松 本 健 俊	半 導 体 化 学	産業科学研究所 第二研究部門 (材料・ビーム科学系)
〃	宮久保 圭 祐	構 造 物 理 化 学	総合学術博物館
〃	宮 崎 裕 司	凝 縮 系 物 理 化 学	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
〃	山 中 秀 介	量 子 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	吉 成 信 人	錯 体 化 学	理学研究科 化学専攻
講 師	石 川 春 人	生 物 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	笠 松 良 崇	放 射 化 学	理学研究科 化学専攻

職名	氏名	分野	所属
講師	蔡 徳 七	反応物理化学	理学研究科 化学専攻
〃	長 野 八 久	化学熱力学	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
〃	野 尻 正 樹	生物無機化学	理学研究科 化学専攻
助教	ANAS SANTRIA	無機化学	理学研究科 化学専攻
〃	今 村 健太郎	半導体化学	産業科学研究所 第二研究部門(材料・ビーム科学系)
〃	大 塚 洋 一	反応物理化学	理学研究科 化学専攻
〃	川 上 貴 資	量子化学	理学研究科 化学専攻
〃	栗 村 直 人	錯体化学	理学研究科 化学専攻
〃	小 島 達 弘	錯体化学	理学研究科 化学専攻
〃	小 本 祐 貴	1 分子科学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	諏 訪 雅 頼	分析化学	理学研究科 化学専攻
〃	高 城 大 輔	凝縮系物理化学	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
〃	田 中 裕 行	1 分子科学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	永 田 光知郎	放射化学	放射線科学基盤機構
〃	二 宮 和 彦	放射化学	理学研究科 化学専攻
〃	畑 中 翼	生物無機化学	理学研究科 化学専攻
〃	水 野 操	生物物理化学	理学研究科 化学専攻
〃	山 下 智 史	物性物理化学	理学研究科 化学専攻
〃	山 田 剛 司	表面化学	理学研究科 化学専攻
〃	山 本 茂 樹	分析化学	理学研究科 化学専攻

Bコース (有機化学)

職名	氏名	分野	所属
教授	小川 琢 治	物性有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	梶原 康 宏	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	※久保 孝 史	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	笹井 宏 明	機能物質化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	鈴木 孝 禎	複合分子化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	高尾 敏 文	プロテオミクス分析化学	蛋白質研究所 機能・発現プロテオミクス研究室
〃	中谷 和 彦	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	深瀬 浩 一	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	北條 裕 信	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	村田 道 雄	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
特任教授	島本 啓 子	構造生命化学	サントリー生命科学財団 生物有機科学研究所
招へい教授	上垣 浩 一	酸素構造機能学	近畿大学農学部
〃	熊谷 久美子	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
〃	西尾 秀 喜	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
〃	林 文 晶	NMR分光化学	国立研究開発法人 理化学研究所 放射光科学研究センター
〃	山本 敏 弘	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
准教授	樺山 一 哉	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	川上 徹	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	滝澤 忍	機能物質化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	堂野 主 税	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
講師	岡本 亮	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	花島 慎 弥	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
〃	平尾 泰 一	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	山下 健 一	物性有機化学	理学研究科 化学専攻
助教	朝比奈 雄 也	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	梅川 雄 一	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
〃	柴田 知 範	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	下山 敦 史	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	武居 俊 樹	プロテオミクス分析化学	蛋白質研究所 機能・発現プロテオミクス研究室
〃	谷 洋 介	物性有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	村田 亜沙子	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	佐古 真	機能物質化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	西内 智 彦	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	真木 勇 太	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	真鍋 良 幸	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	山田 剛 史	精密制御化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
特任助教	安田 智 一	生体分子化学	理学研究科 化学専攻

生 物 科 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	石 谷 太	生 体 統 御 学	微生物病研究所 環境応答研究部門
”	☆石 原 直 忠	細 胞 生 命 科 学	理学研究科 生物学専攻
”	上 田 昌 宏	1 分 子 生 物 学	生命機能研究科 生命機能専攻
”	岡 田 雅 人	発 癌 制 御 学	微生物病研究所 環境応答研究部門
”	岡 田 眞 里 子	細 胞 シ ス テ ム	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
”	小 布 施 力 史	染 色 体 構 造 機 能 学	理学研究科 生物学専攻
”	柿 本 辰 男	植 物 生 長 生 理 学	理学研究科 生物学専攻
”	加 藤 貴 之	電 子 線 構 造 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	栗 栖 源 嗣	蛋 白 質 結 晶 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	黒 田 俊 一	生 体 分 子 反 応 科 学	産業科学研究所 第3研究部門
”	昆 隆 英	細 胞 構 築 学	理学研究科 生物学専攻
”	志 賀 向 子	比 較 神 經 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
”	篠 原 彰	ゲノム-染色体機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
”	高 尾 敏 文	機能発現プロテオミクス	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
”	高 木 淳 一	分 子 創 製 学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
”	高 木 慎 吾	植 物 細 胞 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
”	中 川 敦 史	超 分 子 構 造 解 析 学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
”	西 田 宏 記	発 生 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
”	原 田 慶 恵	蛋 白 質 ナ ノ 科 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
”	疋 田 貴 俊	高 次 脳 機 能 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
”	平 岡 泰	細 胞 機 能 構 造 学	生命機能研究科 生命機能専攻
”	廣 瀬 哲 郎	R N A 生 体 機 能 学	生命機能研究科 生命機能専攻
”	藤 原 敏 道	機 能 構 造 計 測 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	古 川 貴 久	分 子 発 生 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
”	北 條 裕 信	蛋 白 質 有 機 化 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
”	松 野 健 治	細 胞 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
”	三 木 裕 明	細 胞 制 御 学	微生物病研究所 環境応答研究分野
”	水 口 賢 司	計 算 生 物 学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
招へい教授	蘇 智 慧	分 子 系 統 学	株式会社 JT生命誌研究館
”	橋 本 主 税	発 生 生 物 学	株式会社 JT生命誌研究館
”	原 口 徳 子	細 胞 機 能 構 造 学	生命機能研究科 生命機能専攻
准 教 授	今 井 薫	発 生 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
”	大 岡 宏 造	物 質 生 物 学	理学研究科 生物学専攻
”	岡 島 俊 英	生 体 分 子 反 応 科 学	産業科学研究所 第3研究部門
”	奥 村 宣 明	体 内 機 能 統 合 蛋 白 質 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
”	川 上 徹	蛋 白 質 有 機 化 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
”	久 保 田 弓 子	核 機 能 学	理学研究科 生物学専攻
”	鈴 木 守	超 分 子 構 造 解 析 学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター

職名	氏名	分野	所属
准教授	橘木修志	感覚生理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	田中秀明	蛋白質結晶学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	茶屋太郎	分子発生学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	富永恵子	比較生理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	中井正人	オルガネラバイオロジー	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	長尾恒治	染色体構造機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	中川拓郎	分子遺伝学	理学研究科 生物科学専攻
〃	三間穰治	膜蛋白質化学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	宮ノ入洋平	機能構造計測学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	名田茂之	発癌制御学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	藤本仰一	理論生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	古郡麻子	ゲノム-染色体機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	古屋秀隆	系統進化学	理学研究科 生物科学専攻
〃	松木陽	機能構造計測学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	山崎大輔	細胞制御学	微生物病研究所 環境応答研究分野
〃	藪田紀一	発癌制御学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	山下栄樹	超分子構造解析学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	和田洋	生体分子反応科学	産業科学研究所 第3研究部門
特任准教授	中村昇太	ゲノム情報解析学	微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター
招へい准教授	猪股秀彦	体軸動態学	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター
〃	小田広樹	分子進化学	株式会社 JT生命誌研究館
〃	近重裕次	細胞機能構造学	国立研究開発法人 情報通信研究機構
〃	LI-KUN PHNG	血管形成研究学	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター
講師	後藤直久	ゲノム情報解析学	微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター
〃	笹村剛司	細胞生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	鈴木団	蛋白質ナノ科学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
助教	穰枝佑紀	生体統御学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	浅田哲弘	植物・形態学	理学研究科 生物科学専攻
〃	朝比奈雄也	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	有森貴夫	分子創製学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	飯田溪太	細胞システム	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	石原孝也	細胞生命科学	理学研究科 生物科学専攻
〃	伊藤将	ゲノム-染色体機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	稲木美紀子	細胞生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	今井洋	細胞構築学	理学研究科 生物科学専攻
〃	小笠原絵美	細胞生命科学	理学研究科 生物科学専攻
〃	小澤貴明	高次脳機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	小沼健	発生生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	梶原健太郎	発癌制御学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	川本晃大	蛋白質結晶学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門

職名	氏名	分野	所属
助教	北郷 悠	分子創製学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	坂本 勇貴	植物細胞生物学	理学研究科 生物学専攻
〃	杉田 祐子	分子発生物学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	曾宮 正晴	生体分子反応科学	産業科学研究所 第3研究部門
〃	高田 忍	植物生長生理学	理学研究科 生物学専攻
〃	立松 健司	生体分子反応科学	産業科学研究所 第3研究部門
〃	武居 俊樹	機能発現プロテオミクス	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	QIAN PINGPING	植物生長生理学	理学研究科 生物学専攻
〃	長谷部 政治	比較神経生物学	理学研究科 生物学専攻
〃	濱中 良隆	比較神経生物学	理学研究科 生物学専攻
〃	船戸 洋佑	細胞制御学	微生物病研究所 環境応答研究分野
〃	松岡 里美	1分子生物学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	Macpherson Tom	高次脳機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	宮崎 直幸	分子創製学	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
〃	山川 智子	細胞生物学	理学研究科 生物学専攻
〃	山本 遼介	細胞構築学	理学研究科 生物学専攻

高 分 子 科 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

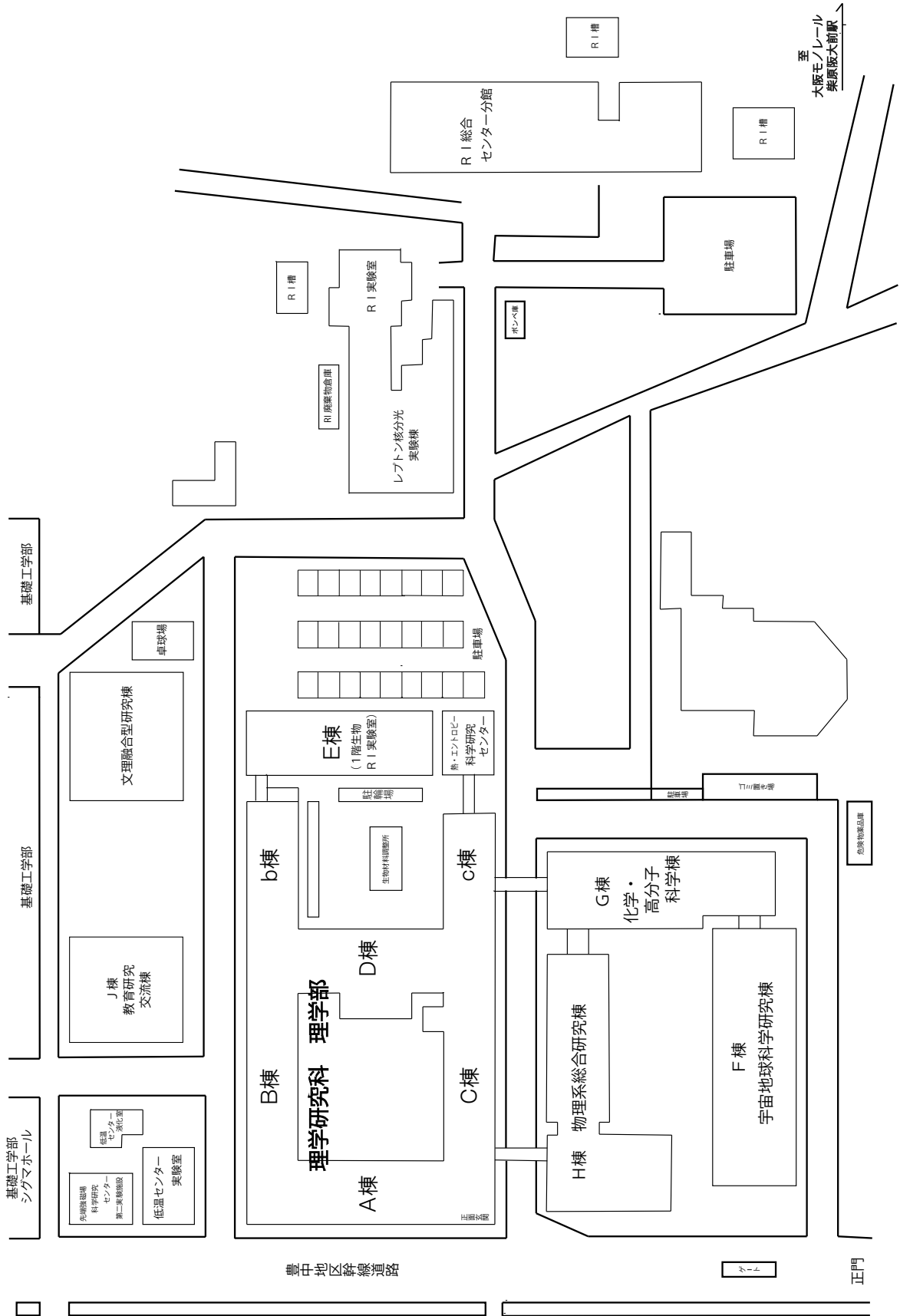
職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	青 島 貞 人	高分子合成化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	☆井 上 正 志	高 分 子 物 性 論	理学研究科 高分子科学専攻
”	今 田 勝 巳	生体高分子科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	鬼 塚 清 孝	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	加 藤 貴 之	構 造 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	栗 栖 源 嗣	生体高分子機能論	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	佐 藤 尚 弘	高 分 子 溶 液 論	理学研究科 高分子科学専攻
”	高 島 義 徳	超 分 子 科 学	高等共創研究院
”	中 川 敦 史	生体高分子構造論	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
”	橋 爪 章 仁	高分子精密科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	山 口 浩 靖	超分子機能化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	山 本 仁	環 境 安 全 化 学	安全衛生管理部
准 教 授	浦 川 理	高分子材料科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	岡 村 高 明	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	金 子 文 俊	高分子構造物性論	理学研究科 高分子科学専攻
”	鈴 木 守	生体高分子構造論	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
”	田 中 秀 明	生体高分子機能論	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	寺 尾 憲	高 分 子 溶 液 学	理学研究科 高分子科学専攻
”	山 下 栄 樹	生体高分子構造論	蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
講 師	金 澤 有 紘	高分子合成化学	理学研究科 高分子科学専攻
特任講師	大 崎 基 史	超 分 子 科 学	理学研究科 高分子科学専攻
助 教	香 門 悠 里	高分子精密科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	川 口 辰 也	高分子構造物性論	理学研究科 高分子科学専攻
”	神 林 直 哉	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	小 林 裕 一 郎	超分子機能化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	竹 川 宜 宏	生体高分子科学	理学研究科 高分子科学専攻

宇宙地球科学専攻

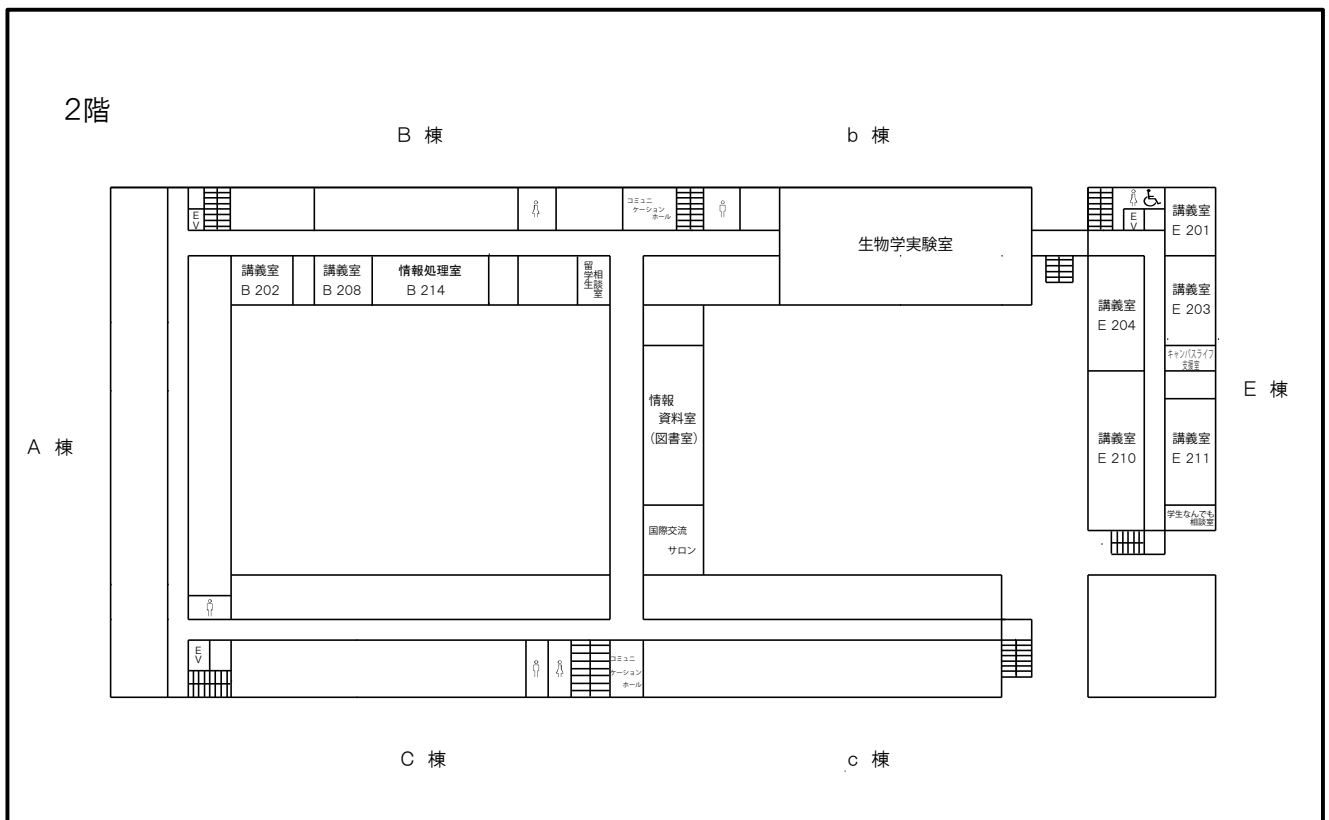
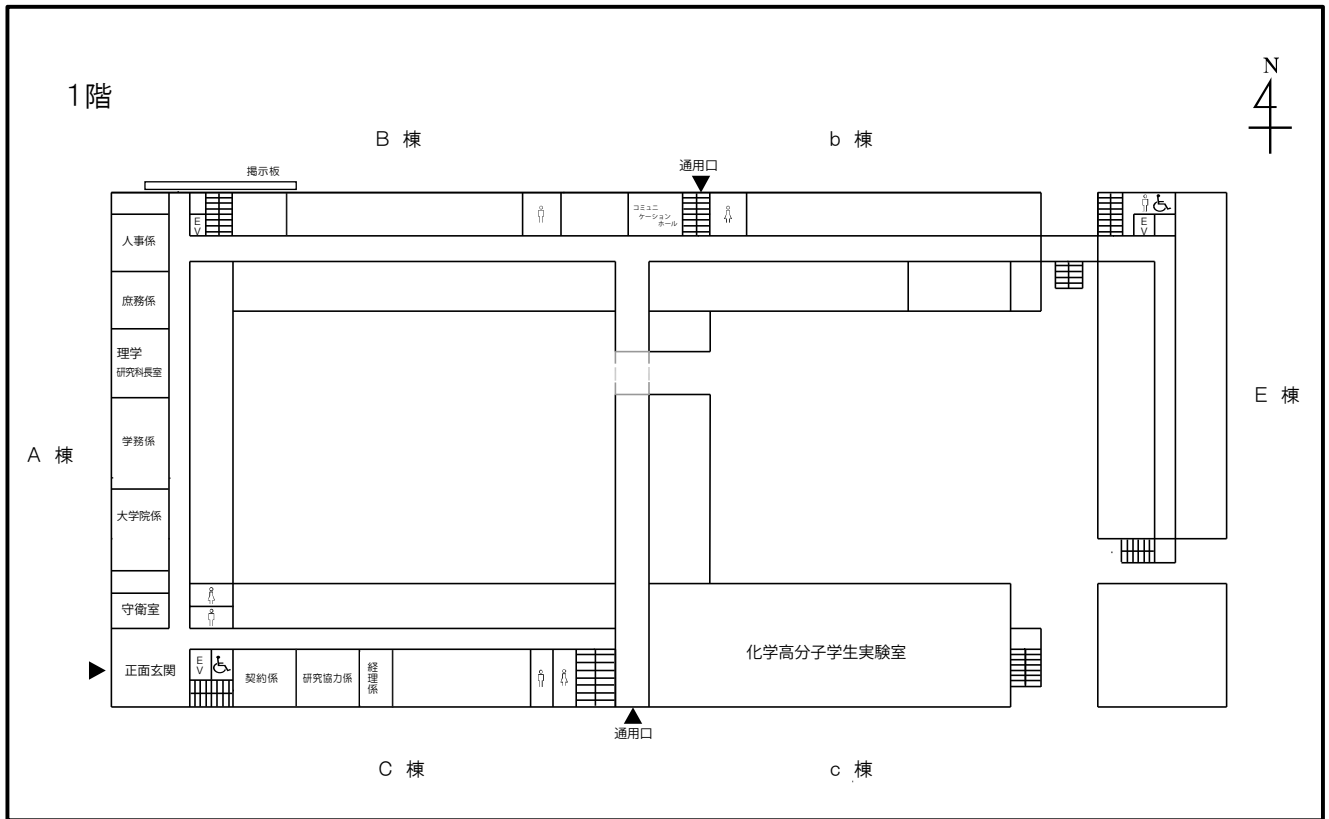
☆印は専攻長を示す。

職名	氏名	分野	所 属
教授	桂木 洋光	ソフトマター地球惑星物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	近藤 忠	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	佐々木 晶	惑星探査学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	住 貴宏	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	☆寺田 健太郎	宇宙地球化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	中井 光男	レーザープラズマ相互作用	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	長峯 健太郎	宇宙物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	波多野 恭弘	非平衡物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	松本 浩典	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
准教授	植田 千秋	惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	大高 理	高圧物性学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	佐伯 和人	固体惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	坂和 洋一	レーザー宇宙物理	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	谷口 年史	物性実験	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	林田 清	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	久富 修	生物物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	廣野 哲朗	地震物質科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	横田 勝一郎	惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	山中 千博	地球物性学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	湯川 諭	物性理論	理学研究科 宇宙地球科学専攻
助教	青山 和司	物性理論	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	桂 誠	地球物理化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	河井 洋輔	宇宙地球化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	木村 淳	固体惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	境家 達弘	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	高棹 真介	宇宙物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	中山 典子	地球物理化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	野田 博文	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	増田 賢人	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻

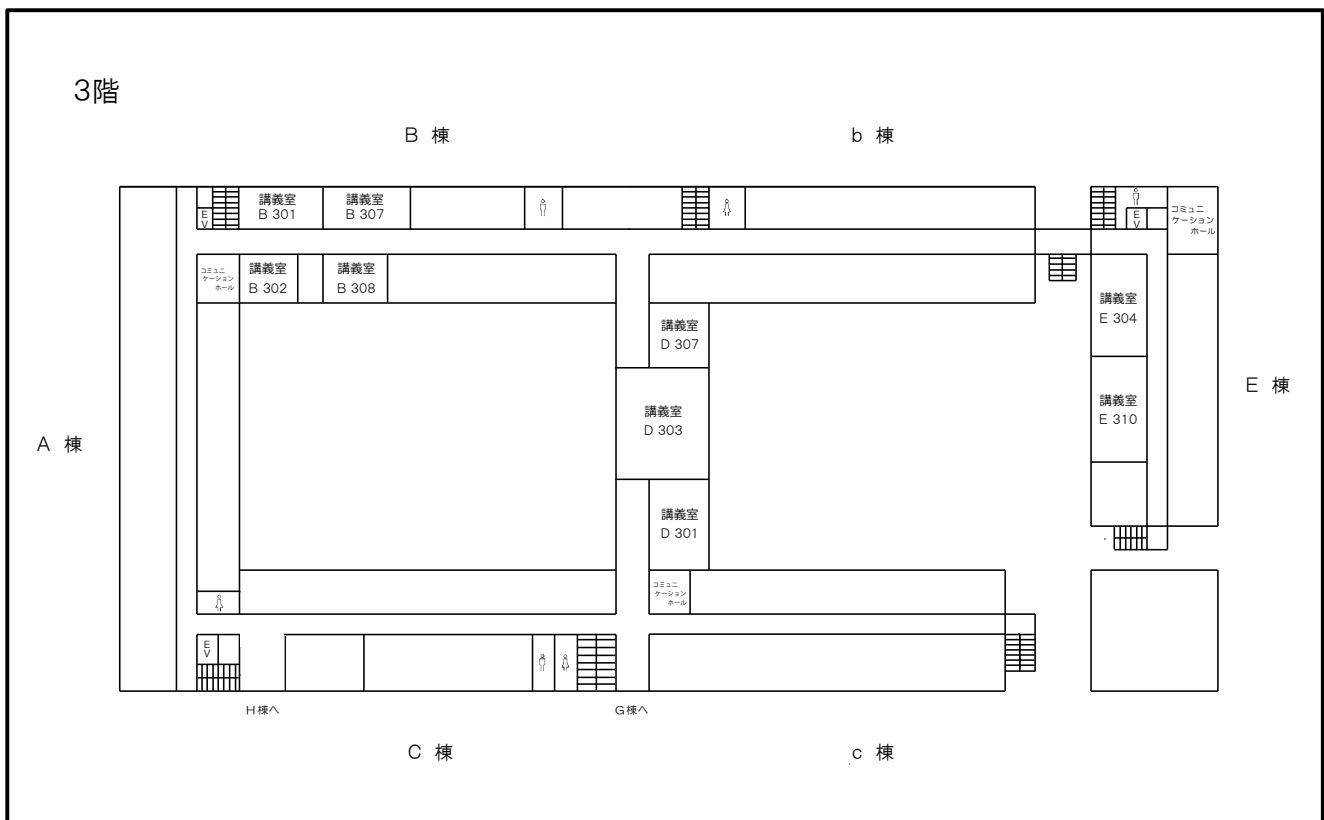
理学研究科・理学部 建物配置図



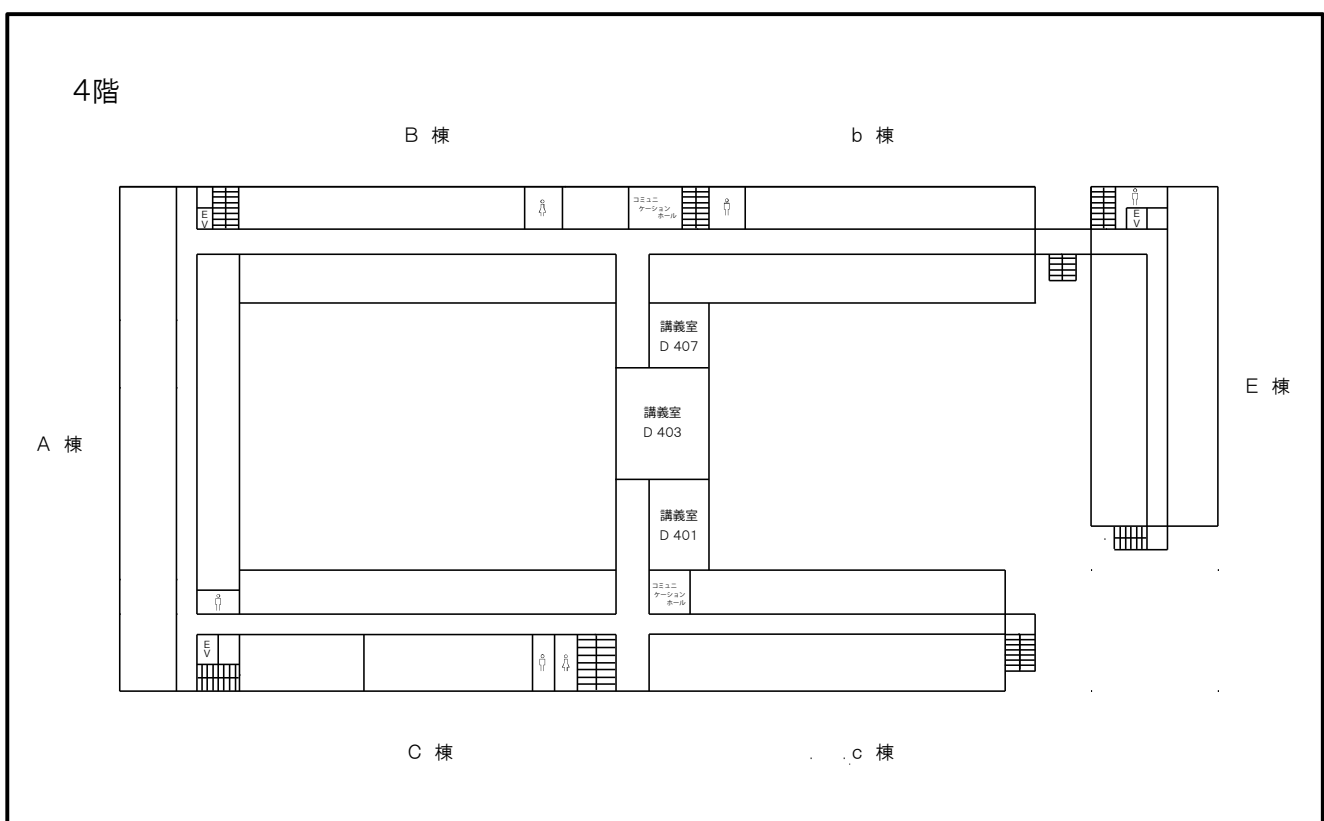
講義室等案内図



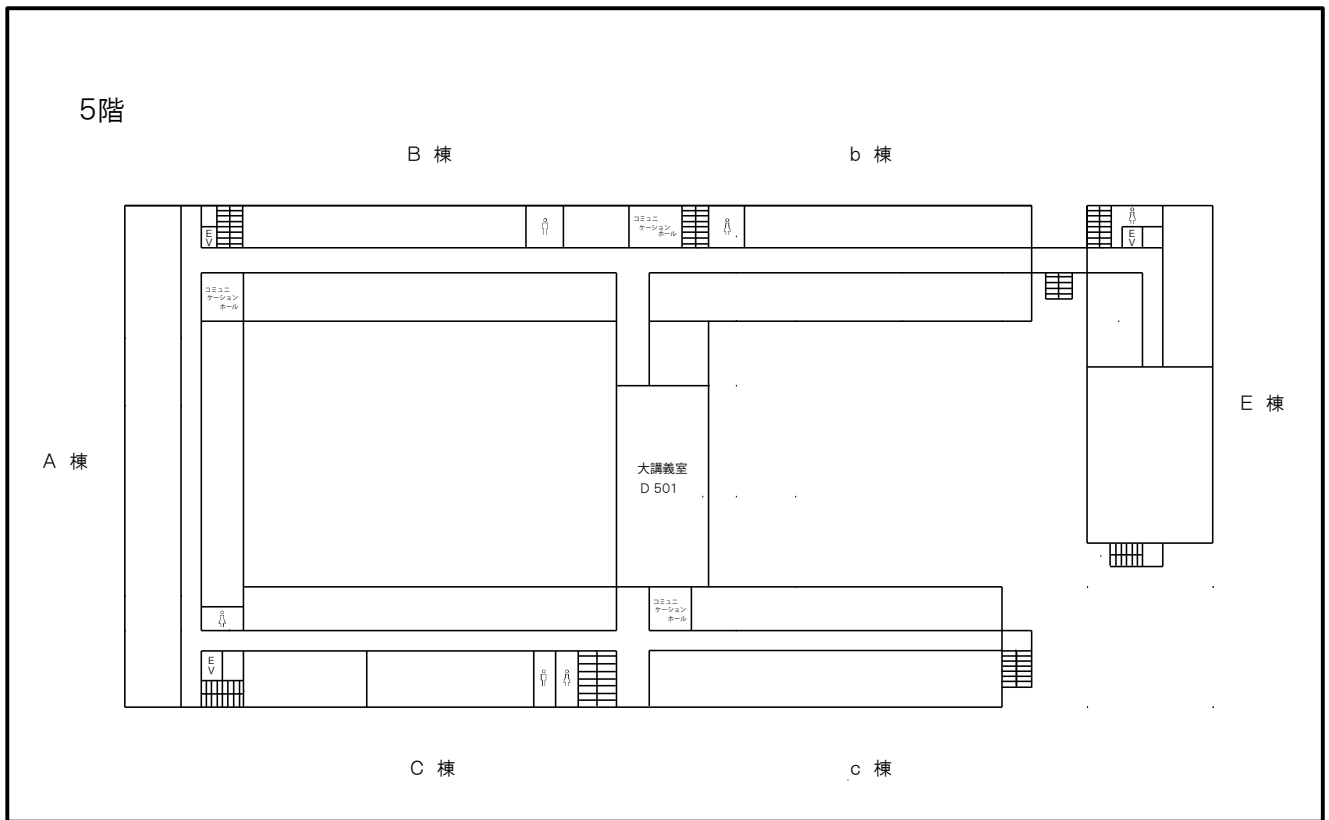
3階



4階

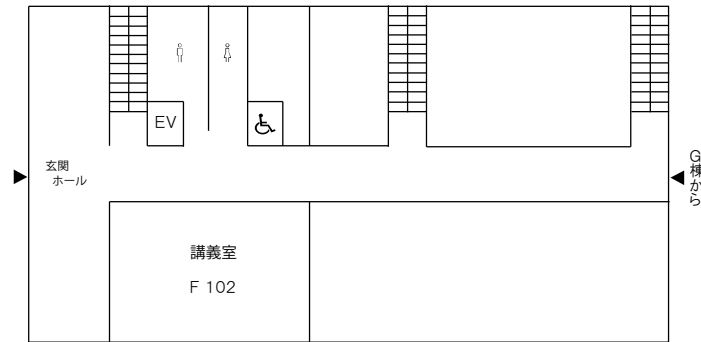


5階

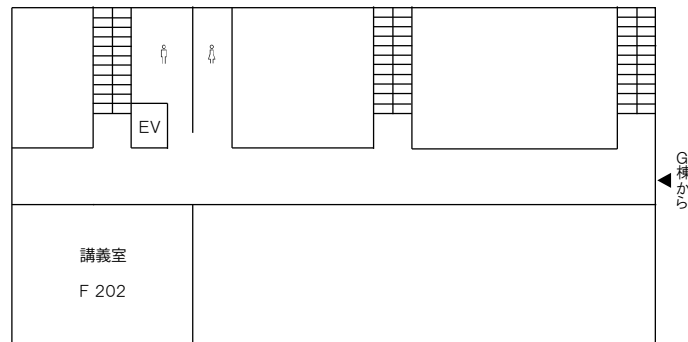


F棟

1階



2階



大阪大学大学院理学研究科

〒560-0043 豊中市待兼山町1番1号

電話 06 (6850) 6111 (代表)

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp>